

岩手大学グローバル教育センター・  
国際連携室報告 vol.1(2015)

岩手大学グローバル教育センター・国際連携室  
2016年7月

## 目次

### —グローバル教育センター 業務報告—

#### —教育業務報告—

日本語教育(国際交流科目・共通教育科目)	5
夏期休暇および個別日本語学習支援(日本語補講)	12
全学共通教育科目	14
国際交流科目(共修科目・留学生専用科目)	16
短期留学生・日本語日本文化研修留学生個別研究	18
北東北国立3大学合同合宿研修会	20
ヤングリーダーズ国際研修 in IWATE	23
デ・ラ・サール大学(フィリピン)英語研修	25
海外研修「カリフォルニア・イノベーション研修」 「グローバル・プロ養成プログラム」	27
国際研修 SCIP:フィリピン(貧困と持続可能な社会)	29
国際研修 SCIP:北欧(エネルギーと持続可能な社会)	32
三陸ジオパーク・被災地復興視察研修	35
平成 27 年度 新入生オリエンテーション	38
海外留学支援事業	41

#### —地域支援・地域連携業務報告—

地域日本語教育支援事業	45
平成 27 年度 岩手県留学生交流推進協議会事業	48
地域への支援事業(English Camp)	52
「留学生と市民のガーデンパーティー～世界の屋台村～」実施	54

#### —国際連携室 業務報告—

岩手大学国際戦略推進体制及び各プロジェクトについて	56
米国アールラム大学サイズプログラム関連事業	61
カナダ・サスカチュワン大学グウェナモス・センター教員によるアクティブ ラーニング短期集中研修開催	63
平成 27 年度 岩手大学教員海外派遣事業	66

UURR プロジェクト—平成 27 年度事業—	69
グローバル化推進のための各種交流基盤整備について	72
平成 27 年度 岩手大学における国際交流に伴う危機管理体制構築 に関する取組	77
ASIA JOINT SYMPOSIUM: MOULD & DIE IN AUTOMOTIVE ENGINEERING (AJS 2015) 及びマレーシア岩手大学卒業生同窓会 アメリカ合衆国アラスカ大学アンカレッジ校(UAA)との国際連携(陸前 高田共同教育プログラム大学間交流協定の締結)	79
平成 27 年度 がんちゃん国際フォーラム開催	84
日本留学フェア及び外国人学生のための進学説明会等	86

### —資料—

国際連携・国際教育関連組織図	104
外国の大学との交流 Academic Cooperation between Univer- sities/Faculties	105
岩手大学教員海外派遣事業実施要項 (別紙)	108
平成 27 年度 留学生関係行事	111
平成 27 年度 海外学生受け入れ・派遣実績	112
岩手大学海外派遣・留学プログラム一覧(短期研修・研究型)	113
岩手大学留学生数(平成27年5月1日 現在)	116
岩手大学留学生数(平成27年11月1日 現在)	117
岩手大学外国人留学生地域派遣実績一覧	118

—グローバル教育センター 業務報告—

—教育業務報告—

## 日本語教育(国際交流科目・共通教育科目)

### 1. 概要

日本語教育科目は、主に短期留学生を対象とする国際交流科目日本語教育科目と、主に正規学部留学生を対象とする全学共通教育科目日本語科目が開講されている。国際交流科目では、初級Ⅰ、初級Ⅱ、中級Ⅰ、中級Ⅱ、上級の5レベルの授業を提供している。また、共通教育外国語科目として上級レベルの授業を提供している。国際交流科目は交換留学生が、共通教育科目は正規留学生および交換留学生が単位取得できる。定員に余裕がある場合は、研究生、大学院生、研究員、岩手県立大学の留学生、岩手大学の留学生や研究員の家族の受講も認めている。

### 2. オリエンテーション

受講者は、学期はじめに実施されるオリエンテーションへの参加が義務づけられる。今年度も例年通り、英語、中国語の通訳を介し、講義の概要、受講方法等の説明を行った。前期はオリエンテーション終了後、オンラインプレースメントテストを実施した。後期は、テストは新規来日留学生のみオンラインで各自受験するよう変更した。オリエンテーションに参加できなかった学生には個別に対応した。なお、交換留学生は、渡日前に各自プレースメントテストを受験させ、渡日後の履修計画が円滑に行えるよう対応した。また、正規学部留学生のオリエンテーション参加は免除した。

<前期> 4月 2日(木) 13:00-15:00 学生センターG37(CALL教室) 参加者 53名

<後期> 9月 30日(水) 13:00-15:00 学生センターG19 参加者 77名

### 3. 授業概要

#### 3.1 開講クラス

<国際国流科目日本語科目>

	科目名	内 容	時間数
初級Ⅰ	文 法	初習者対象。初歩的な文法、語彙等の学習。 テキスト:『NIHONGO FUN & EASY』(アスク)	1
	読 解	初習者対象。かな、簡単な漢字の読み、および簡単な文を読解学習。 テキスト:ハンドアウト	1

	会 話	初習者対象。日常生活で使う挨拶や簡単な会話学習。 テキスト:『NIHONGO FUN & EASY』(アスク)	1
初級 II	文 法	150 時間程度学習した人が対象。初級後半の文法学習。 テキスト:『げんき II』(The Japan Times)	2
	会 話	150 時間程度学習した人が対象。日常生活に役立つやや長いやり取りの会話学習。テキスト:『げんき II』(The Japan Times)ほか	1
	漢 字	150 時間程度学習した人が対象。漢字300 字程度学習。 テキスト:『げんき II』(The Japan Times)	1
中級 I	中級 I 文 法	300 時間程度学習した人が対象。初級レベルの復習、および中級前半レベルの文法学習。 テキスト:短期集中初級日本語文法総まとめポイント 20』、『中級日本語文法整理ポイント 20』(スリーエーネットワーク)	2
	会 話	300 時間程度学習した人が対象。日常生活や大学生活に必要な基礎的な会話学習。 テキスト:『聞いて覚える話し方ー日本語生中継初中級1』(アルク)	1
	読 解	300 時間程度学習した人が対象。アカデミック文章の基礎読解学習。 テキスト:『大学・大学院留学生の日本語1読解編』(アルク)	1
	作 文	300 時間程度学習した人が対象。アカデミック文章作成基礎学習。 テキスト:『大学・大学院留学生の日本語1作文編』(アルク)	1
	漢 字	300 時間程度学習した人が対象。中級前半レベルの漢字 300 字程度学習。テキスト:オンライン自作教材	1
中級 II	会 話	450 時間程度学習した人が対象。大学生活(研究室、授業等)に必要なやや高度な日本語の会話学習。 テキスト:『聞いて覚える話し方日本語生中継中上級編』(くろしお出版)	1
	読 解	450 時間程度学習した人が対象。やや高度なアカデミックな文章の読解学習。テキスト:『留学生のための読解トレーニング』(凡人社)	1
	文 法	450 時間程度学習した人が対象。日本語能力試験N2程度の文法学習。テキスト:『中級日本語文法整理ポイント 20』(スリーエーネットワーク)	1
	作 文	450 時間程度学習した人が対象。やや高度な文章作成方法学習。テキスト:ハンドアウト	1

	漢字	450 時間程度学習した人が対象。大学の学習、研究に役立つ漢字・語彙学習。テキスト:ハンドアウト	1
	文系 日本語	450 時間程度学習した人が対象。文系に必要な基礎的な語彙・文系の知識学習。テキスト:大野晋著『日本語はどこからきたのか』	1
	アカデミック	450 時間程度学習した人が対象。日本語能力試験N2対策学習。テキスト:『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2』(アルク)	1
上級	ビジネス	600 時間程度以上学習した人が対象。仕事で使う日本語表現学習。テキスト:『日本企業への就職ービジネスマナーと基本のことば』(アスク)	1
	アカデミック	600 時間程度以上学習した人が対象。日本語能力試験N1対策学習。テキスト:『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1』(アルク)	1
	計		22

\*各学期共通。「時間数」は1時間=90分(1単位)

<全学共通教育外国語科目>

	科目名	内 容	時間数
	上級日本語 A・E (口頭表現)	600 時間程度以上学習した人が対象。前期は討論および発表能力、後期は状況による使い分けに焦点を当て、口頭表現能力を養成。テキスト:ハンドアウト	各1
	上級日本語 B・F (読解)	600 時間程度以上学習した人が対象。授業、研究、日常生活で接触する文字情報の読解力学習。テキスト:大学・大学院留学生の日本語3 論文読解編	各1
	上級日本語 C・G (文系)	600 時間程度以上学習した人が対象。前期は、文系分野で使われる基礎的な語彙力、後期は文系の専門分野別日本語表現学習。テキスト:ハンドアウト	各1
	上級日本語 C・G (理系)	600 時間程度以上学習した人が対象。実験、レポート等、理系分野で使われる専門基礎用語、表現力学習。テキスト:ハンドアウト	各1
	上級日本語 D・H (論文作成)	600 時間程度以上学習した人が対象。大学の学習、研究に必要なレポート、論文作成学習。	各1

		テキスト: (前期)大学・大学院留学生の日本語4論文作成編(アルク) (後期)大学生のための論理的文章の書き方(スリーエーネットワーク)	
	計		各5

\* 時間数は各学期分。A,B,C,D は前期、E,F,G,H は後期開講科目。

\* 「C,G(理系)」は農、工学部正規留学生日本語履修者は必修。

<大学院入学前予備教育日本語研修コース(集中コース)>

科目名	内容	時間数
初級日本語総合	日本語初習の国費大学院入学前研究生、教員研修留学生、交換留学生が対象。週 5 日間の集中コース。日常生活および大学生生活に必要な基礎的な日本語 4 技能学習。 テキスト:A New Approach for Elementary Japanese : vol.1 & 2(くろしお出版)	10
初級日本語漢字	日本語初習の国費大学院入学前研究生、教員研修留学生、交換留学生が対象。基礎的な漢字の読み書き学習。週 2 回 × 45 分。テキスト:A New Approach for Elementary Japanese : vol.1 & 2(くろしお出版)	1
計		11

\* 定員8名。全科目全日程の履修が義務。国費留学生(大学院入学前予備教育研究生および教員研修留学生)優先で、定員に余裕があるときに、その他の履修を認める。

#### 4. 実施状況

大学の学期スケジュールに従い、毎学期 15 週の授業を実施した。また、本学の協定大学であるアメリカのアーラム大学 SICE プログラム(盛岡市教育委員会とアーラム大学との協定による英語教育インターンシッププログラム)の学生を後期の授業で前半7週間受け入れた。各学期の時間、担当者、受講者数は以下のとおりである。



<前期>

\*受講数合計は延人数

科目名	時 間	担 当	受講者数		
			補講	国際	共通
初級日本語Ⅰ文法	月 3・4	大高 久枝	5	0	
初級日本語Ⅰ読解	金 3・4	大高 久枝	5	0	
初級日本語Ⅰ会話	火 3・4	加藤 理恵	5	0	
初級日本語Ⅱ文法	月 1-4	大高 久枝	5	1	
初級日本語Ⅱ漢字	木 3・4	大畑 佳代子	5	2	
初級日本語Ⅱ会話	月 3・4	大畑 佳代子	4	2	
中級日本語Ⅰ文法	月木 1・2	松岡 洋子	5	8	
中級日本語Ⅰ会話	水 5・6	加藤 理恵	6	6	
中級日本語Ⅰ作文	火 5・6	宮 淑	4	1	
中級日本語Ⅰ読解	水 7・8	松林 和美	5	6	
中級日本語Ⅰ漢字	月 3・4	宮 淑	3	6	
中級日本語Ⅱ文法	水 3・4	加藤 理恵	4	11	
中級日本語Ⅱ会話	月 5・6	宮 淑	7	6	
中級日本語Ⅱ読解	金 5・6	大高 久枝	4	3	
中級日本語Ⅱ作文	火 5・6	加藤 理恵	3	4	
中級日本語Ⅱ漢字	金 1・2	大高 久枝	5	9	
中級日本語Ⅱ文系日本語	月 3・4	宮 淑	0	6	
中級日本語Ⅱアカデミック	木 7・8	宮 淑	6	6	
上級日本語ビジネス	月 5・6	坂本 淳子	0	5	
上級日本語アカデミック	水 5・6	坂本 淳子	4	4	
上級日本語(口頭表現)	月 7・8	松岡 洋子	2		19
上級日本語B読解	水 9・10	加藤 理恵	3		7
上級日本語C文系	木 5・6	加藤 理恵	3		5
上級日本語C理系	金 1・2	照井 啓介	0		8
上級日本語D 論文作成	金 3・4	菊地 悟(教育学部)	3		7
日本語研修コース(集中)	月一金	松岡洋子・宮淑 松林和美・坂本淳子	4	2	
合 計	時 間	受講者計	100	88	46
			234		

\*「補講」は大学院生、研究生、家族等で単位を付与しない。「国際」は「国際交流科目」は交換留学生、「共通」は「全学共通教育科目」として単位付与する履修者数を表す。

<後期>

\*受講数合計は延人数

科目名	時間	担当	受講者数		
			単位無	国際	共通
初級日本語Ⅰ文法	水 1・2	加藤 理恵	4	3	
初級日本語Ⅰ読解	金 3・4	大高 久枝	4	3	
初級日本語Ⅰ会話	水 3・4	大高 久枝	3	3	
初級日本語Ⅱ文法	月 1-4	大高 久枝	5	2	
初級日本語Ⅱ漢字	木 3・4	大畑 佳代子	5	1	
初級日本語Ⅱ会話	木 1・2	大畑 佳代子	4	2	
中級日本語Ⅰ文法	月木 1・2	松岡 洋子	5	15	
中級日本語Ⅰ会話	木 3・4	加藤 理恵	4	11	
中級日本語Ⅰ作文	火 9・10	宮 淑	3	9	
中級日本語Ⅰ読解	水 3・4	松林 和美	2	12	
中級日本語Ⅰ漢字	月 3・4	宮 淑	5	17	
中級日本語Ⅱ文法	水 3・4	加藤 理恵	2	8	
中級日本語Ⅱ会話	月 5・6	宮 淑	4	5	
中級日本語Ⅱ読解	金 5・6	大高 久枝	1	4	
中級日本語Ⅱ作文	水 3・4	加藤 理恵	4	4	
中級日本語Ⅱ漢字	金 1・2	大高 久枝	4	8	
中級日本語Ⅱ文系日本語	月 3・4	宮 淑	2	3	
中級日本語Ⅱアカデミック	木 7・8	宮 淑	0	6	
上級日本語ビジネス	月 5・6	坂本 淳子	1	4	
上級日本語アカデミック	金 7・8	坂本 淳子	0	5	
上級日本語E口頭表現	月 7・8	松岡 洋子	1		15
上級日本語F読解	水 9・10	加藤 理恵	4		9
上級日本語G文系	木 5・6	アンデス・カールキビスト	2		5
上級日本語G理系	金 1・2	宮 淑	4		10
上級日本語H論文作成	金 3・4	大野眞男(教育学部)	3		9
日本語研修コース(集中)	月-金	松岡洋子・宮淑 松林和美・坂本淳子	7	11	
合計	時間	受講者計	83	136	48
			267		

## 5. 今後の課題と展望

交換留学生の受け入れの増加に伴い、日本語教育の履修者が増加傾向にある。平成27年度はタイ、キルギスから新たな交換留学生の受け入れが始まった。特に、理系、芸術系の交換留学生、研究生、大学院生の日本語初修者が増加し、日本語研修コースは後期に定員の2倍以上の受講者の受け入れを行った。今後、交換留学生、大学院生、研究生等の増加が予想され、それに伴う日本語教育の対応の検討が必要である。また、岩手県立大学の留学生の受講を認めているが、受け入れ要項が未整備であり、次年度以降に整備が必要である。

報告:松岡洋子

## 夏期休暇および個別日本語学習支援(日本語補講)

### 1. 概要

学期中の通常クラスに参加できない学生等を対象として夏期休暇日本語補講を実施した。この授業はアールム大学SICEプログラム学生の日本語教育科目としても活用した。また、個別ニーズに対応したボランティア学生による補講を実施した。

#### ①夏期休暇日本語補講

期間：2015年8月24日～9月14日 9:00-12:00 (全7日×2コマ)

受講者：初級修了者(9名)

<内容・スケジュール>

	内容	担当	内容	担当
8月24日	① 聴解1(許可・禁止)	加藤	② 漢字1(動詞)	大高
8月27日	① 文法1(条件)	大畑	② 聴解2(授受)	坂本
8月31日	① 漢字2(形容詞)	松林	② 文法2(授受)	加藤
9月3日	① 聴解3(使役・受け身)	大畑	② 漢字3(位置・方向・量)	宮
9月7日	① 文法3(受け身)	松林	② 漢字4(学校・科目)	大高
9月10日	① 文法4(N4トライアル)	宮	② 聴解4(助言)	坂本
9月14日	① 文法4(N4トライアル)	宮	② 聴解4(助言)	坂本

#### ②個別学習支援

授業以外に個別学習を希望する学生に対して、主として教育学部日本語教育副専攻の学生3名および教育学研究科院生2名による個別学習支援を行った。

実施時期：前期 4～7月、後期 11～1月 (各週 1, 2時間)

対象：日本語研修コース学生2名、研究生2名、大学院生1名、教員研修生3名

### 2. 成果と課題

夏期休暇補講は初級終了レベルの1クラスで文法、漢字、聴解の復習を行った。また、個別学習支援では、大学院受験準備、日本語能力試験準備、授業課題支援などの要望が多かった。今年度は教育学研究科(日本語教育)の院生2名の協力が得られたため、

安定した個別学習支援が可能となったが、継続的な支援のために、学生支援者養成が求められる。

報告:松岡洋子

## 全学共通教育科目

### 1. 日本事情 A・B

日本事情 A・B は留学生が専攻や学年の制限なしで参加できる日本文化のプログラムである。日本事情 A(前期)は日本の地域史をテーマにし、イントロダクション(1回)・琉球(沖縄県・鹿児島県)(4回)・日向(宮崎県)(1回)・筑前(福岡県)(1回)・土佐(高知県)(1回)・出雲(島根県)(4回)・横浜(1回)・まとめと復習(1回ずつ)の順で西日本を中心に日本各地の歴史、風土、文化を説明した。

日本事情 B(後期)は日本の世界遺産をテーマにし、イントロダクション、法隆寺、古都奈良、古都京都、紀伊山地、平泉、厳島神社、琉球王国、石見銀山、姫路城、明治日本の生産革命、原爆ドーム、長崎の教会群、まとめ、復習の順で講義を行った。

授業の基本的な形は講義だが、留学生はプレゼンテーション、クラスワーク、ディスカッションも行う。留学生は日本語能力が限られているため、できるだけ単純で理解しやすい言葉や文法を使用して講義を行った。教科書も(後期のみ)読みやすい本を選んだ(ジャパントイムズ(編)『英語で伝えたい日本の世界遺産』)。

この授業の履修を契機に留学生は自分の専門以外に日本の文化や歴史に触れられ、日本の様々な事情をよりよく理解できる。27年度の参加者は前期13名、後期は10名であったが、今後数が増えると期待できよう。

担当:アンデス・カールキビスト

### 2. 多文化コミュニケーション A・B

日本人学生、外国人留学生共修科目の多文化コミュニケーションA(前期)、B(後期)は多文化社会におけるコミュニケーション課題をトピックとして取り上げ、討論、共同作業を通じた実践的な授業を行った。合宿研修を必須とするため、履修者は日本人学生、留学生各20名に制限した。

前期は学部2年次の学生および交換留学生が主たる受講者である。平成27年度も二戸市教育委員会からの依頼により、中学生(40名)と岩手山青少年交流の家で合同合宿を行った。また、今回は東北大学の日本人学生1名および引率教員1名がゲスト参加した。合宿では多文化コミュニティでの課題(今年度は「避難物資を選択する」)を与え、グループでの共同作業によって解決を図った。

後期は学部1年次および交換留学生が主たる受講者で、秋田大学、弘前大学との合同合宿を秋田で行った。(合宿については「北東北3大学合同合宿研修会」参照)

この授業の履修を契機に日本人学生と留学生の交流が深まること、日本人学生が他の国際教育プログラムや留学に参加するようになることなど、国際教育プログラムのスタート段階の教育としての機能を果たしている。今後も、秋田大学、弘前大学、東北大学、二戸市教育委員会等と連携しながら、基礎的な国際教育プログラムとして継続、発展させたい。

担当:松岡洋子・尾中夏美

### 3. 現代の諸問題(教育とグローバル化)

1 年生を対象とし、岩手に縁がありグローバルに活躍するゲストスピーカー5 名から話を聞くことを軸に実施した。事前課題でゲストスピーカーから提示された資料を読んで質問を準備させ、その上で講話を聴いた。その後、講話内容をまとめさせ、それをベースにグループディスカッションを行い、ゲストスピーカーがどのような態度や考え方、能力を持っているかを班ごとに分析して、その結果をポスタープレゼンテーションさせた。最終的には、5 人の共通項を抽出し、グローバル人材の特性をまとめた。そして、今後に大学生活をどのように送っていくかの決意表明をポスターとしてまとめる作業を行った。今後も、グローバル人材が遠い存在ではないことを理解し、体験者から身につけるべき知識・能力などを学ぶとともに、グループ作業等を通じてコミュニケーション能力向上を図っていききたい。

担当:尾中夏美・松岡洋子

### 4. 初年次ゼミナール(トビタテ! 岩大生)

「トビタテ! 留学 Japan」の申請用紙を完成させる作業を通して、具体的なプロジェクトの立て方と、読み手が具体的に内容を把握できる書き方の基礎が習得できる講義内容とした。履修者は所属学部異なる1 年生3 名であったが、毎回1 項目ずつ記載項目に記入し、相互に評価し、それを元に改訂していくという作業を行った。最終的には、実際に採択となった申請書を参考にして、説得力のある申請書を完成するとともに、最後は、二次審査と同じ形式で他のゼミ生や外部指導者を対象に4 分間の口頭発表も実施した。

担当:尾中夏美

## 国際交流科目(共修科目・留学生専用科目)

### 1. 概要

国際交流科目のうち、日本語教育科目以外の主に英語による科目は、交流協定大学からの交換留学生を対象とした専用科目と、日本人を含む正規学部生と留学生を対象とする共修科目がある。

### 2. 実施状況

平成 27 年度に実施した科目は以下のとおりである。

#### <前期>

曜日	科目名	単位	対象	担当教員	受講数
月 9-10	Intercultural Non-Verbal Communication	2	共修	ステイリン	4
水 7-8	Ancient Japan: adoption and adaptation	2	共修	カールキビスト	5
金 1-4	School Internship Program I	2	交換	山崎・ホール	3
集中	Iwate Studies	2	交換	カールキビスト	6
集中	理系研究	2	交換	農工 指導教員	4
集中	個別研究	2	交換	松岡・尾中	10

#### <後期>

曜日	科目名	単位	対象	担当教員	受講数
水 5-6	やさしい日本語で語る日本の古典文学	2	共修	家井	5
水 7-8	Cultural Domains	2	交換	アンハー	3
水 9-10	Comparative Japanese History B	2	共修	カールキビスト	3
金 1-4	School internship Program II	2	交換	山崎・ホール	3



集中	Iwate Studies	2	交換	尾 中	6
集中	個別研究	2	交換	松岡・尾中 カールキビスト	11
集中	理系研究	2	交換	農工 指導教員	7
集中	国際合宿(ヤングリーダーズ国際研修)	2	共修	松岡・尾中	24

### 3. 課題と今後の展望

国際交流科目は、人文社会科学部などでは副専攻コースの選択科目として位置付けられるなど、学部学生の履修が奨励されるようになった。しかし、学部改組等の都合により、学部教員が担当してきた科目の継続が次年度以降困難となった。次年度以降は、グローバル教育センター主担当教員の増員に伴い、共修科目を中心として新規科目が開設され、名称を国際教育科目と改称することが予定されている。

第3期中期計画では、グローバル人材育成プログラムの実施が予定されており、その実現のために、国際教育科目の内容の充実が求められる。各学部の要望にも配慮しながら改定を進める予定である。

報告:松岡洋子

## 短期留学生・日本語日本文化研修留学生個別研究

### 1. 概要

短期留学生(奨学金受給学生)および日本語日本文化研修留学生に対する必修科目として「個別研究」を課し、対象学生は、グローバル教育センターの専任教員 3 名の指導・助言を受けながらそれぞれのテーマの研究を進め、日本語による口頭発表および論文作成を行った。なお、芸術系プログラム、サイエンスプログラムの学生については、それぞれの所属研究室において、研究、作品制作などを行った。

### 2. 研究テーマ

各学期の対象学生および研究テーマは以下の通りである。

前期 (口頭発表会 2015年7月17日)		
氏名	所属	研究課題
タイラー・ギルバート	アメリカ テキサス大学 オースティン校	恋愛行動事情
徐 錦磊	中国 寧波大学	「天声人語」にある曖昧表現の翻訳の研究—機能主義的理論からのアプローチ
サンディーブ・ヤダブ*	インド ネール大学	外国人に伝わる日本人の曖昧表現
オリガ・ロティーシェワ	ロシア サンクトペテルブルグ国立文化芸術大学	日本の夜の遊び方
オッドニー・シグムンドッティル	アイスランド大学	日本とアイスランドの女性お笑い芸人
酈 淑雯*	中国 寧波大学	中国の日本語教育におけることわざ教育
ジョー・ディアナ	アメリカ ノースセントラルカレッジ	庭の好みの日米比較
陳 清瑩	台湾 高雄師範大学	台湾と日本の調理器具の比較—炊飯器(電鍋)の使い方—

(\*は日本語日本文化研修留学生を示す)

後期（口頭発表会 2015年1月19日）		
氏名	所属	研究課題
金 廷勳	韓国 明知大学	コンビニの従業員の日韓比較 －ファミマを例として－
金 明僑	中国 曲阜師範大学	異文化コミュニケーション能力の教育
艾 珂	中国 曲阜師範大学	日本人と納豆
曹 暢	中国 寧波大学	時代記憶におけるメディアの影響 －日本の昭和イメージを中心に－
林 甜甜	中国 曲阜師範大学	日中大学生対象英語学習とカタカナ語 学習の関係
鄭 玉瑩	中国 寧波大学	言語行動と日本人のウチとソトの意識 －20代と60代の比較－
黄 国斌	中国 寧波大学	ことわざから見た日本人の心理的特徴
ジャズミン ホップス	アメリカ ノースセントラ ルカレッジ	マンガの火花
李世訓	韓国 群山大学	リサイクルショップ

### 3. 今後の展開

交換留学生の受け入れ大学が増加し、個別研究履修対象者も増加傾向にある。今年度は日本学生機構奨学金受給者を対象としたが、次年度以降、グローバル教育センター担当の専任教員が増員されることに伴い、指導体制が強化されることから、IU-SIP 交換留学プログラムおよび日本語日本文化研修留学生全員を対象とし、交換留学プログラム、日本語日本文化研修留学プログラムの内容の充実化を図りたい。

報告：松岡洋子

## 北東北国立3大学合同合宿研修会

### 1. 実施概要

秋田大学、岩手大学、弘前大学では、留学生教育の連携を図ることを目的とし北東北3大学合同合宿が平成16年度から行われている。今年度は第9回目となり、秋田大学を幹事大学として次のような内容で実施された。岩手大学は「多文化コミュニケーションB」の履修者が参加対象となった。

期 間：2015年11月21日(土)～11月22日(日)

場 所：秋田県健康増進交流センター ユフォーレ

内 容：多文化グループによる創作活動

参加大学：秋田大学27名(留学生14名、日本人学生12名、引率1名)

弘前大学13名(留学生6名、日本人学生6名、引率1名)

岩手大学41名(留学生20名、日本人学生19名、引率2名)

\*東北大学より、講師1名見学参加

計80名

### 2. 研修概要

北東北国立3大学の国際教育連携事業として、平成17年度より、3大学持ち回りで主催し継続実施している合宿研修事業で、留学生と日本人学生が多文化状況における共同作業等を通じ、コミュニケーションに必要な知識、技能を習得し、意識を高めることを目的として実施している。アイスブレイクに続いて、大学・出身等の混成チームでの共同作業を行い、多文化状況で合意形成し、目標達成するまでのプロセスを経験した。1泊2日の短期間の研修だが、他大学に在籍する多様な出身の学生同士が交流し、コミュニケーションについて学ぶ貴重な機会となった。移動に伴う経費、時間の負担が大きいが、往復での時間にも学生同士で普段できない話ができたと、この時間も有意義に使われた。(学生の反応については、次ページのアンケート結果を参照。)

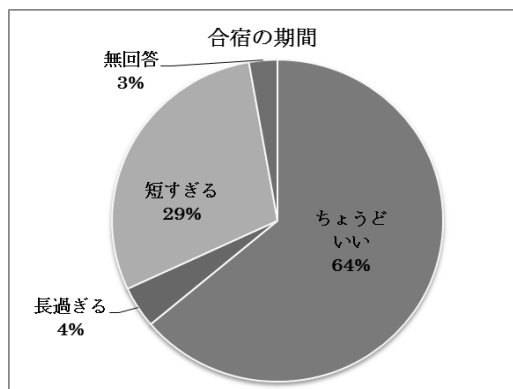
### 3. 今後について

3大学の協議により本合宿は継続開催が了承され、次年度から基本的に岩手で固定開催することで合意された。また、次年度以降、弘前大学でも授業の一環として実施すること、東北大学が合流することが予定されている。

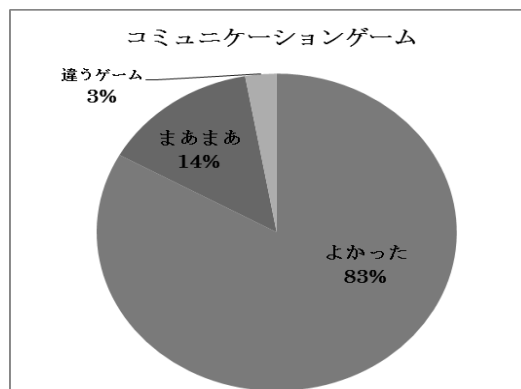
報告:松岡洋子

## 2015 年度北東北 3 大学合同合宿研修アンケート結果

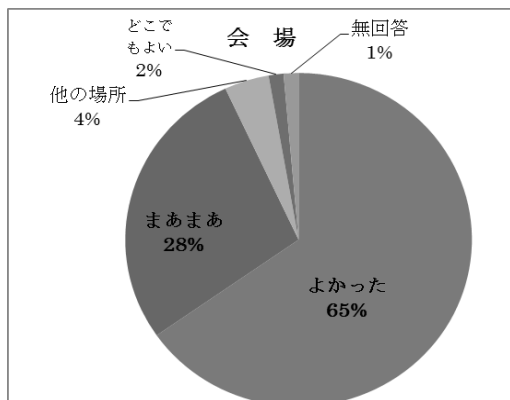
問1 合宿期間



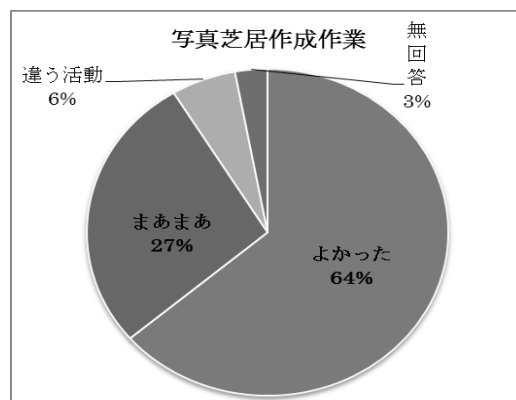
問4 コミュニケーションゲーム満足度



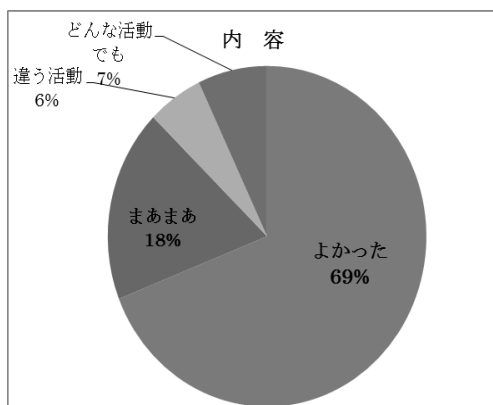
問2 会場



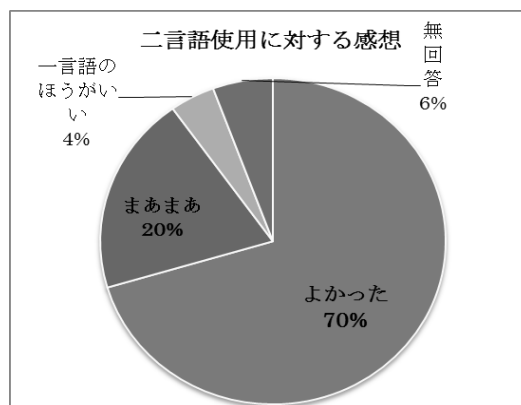
問5 写真芝居作成作業



問3 研修内容



問6 日英2言語による活動



問7 感想(自由記述) \*一部抜粋

- 他の国の留学生と友達になり、様々な文化の違いを発見することができた。
- 空き時間にスポーツを通して交流でき楽しかった。他国のトランプ、カードゲームのルールなども知ることができた。
- I was able to make new friends so I think it was very good idea to have joint camp. It was very fun doing activities with new people and knowing each other.
- 合宿を通すことで普段教室の中だけでは気づけなかった文化の違いに気づいたり、様々なシチュエーションで表現方法を考えさせられる良い機会になった。グループワークなどの際に常に英語を意識したことは自分の力になったし、いい経験にもなった。
- 周りが様々な国の出身の人で日本語を話せない人もいる中で、英語をもっと自分が話せたらよかったのと思う場面が何度もあった。英語で会話できるようになりたい。
- 久しぶりに会えた友だちもいたし、他の大学の学生と友達になれるし、日本だけでなく、他の国の人にもあえて、本当に最高だ。そして、各国の文化や言語で交流して、日本語も英語もだんだんうまくなっていった。
- 合宿は非常にいい。もっと長くしたい。
- 同じグループの人は知り合えたが、ほかのグループの人ともっと交流したかった。
- 不安だらけで参加したが、気付いたら楽しくて夢中になっていた。それと同時に自分の英語力のなさやコミュニケーション力のなさに気づかされた。今後の自分のためになることだらけの合宿だった。参加して良かった。合宿全体は良かったです。もっと長いほうが良かった。

## ヤングリーダーズ国際研修 in IWATE

### 1. 概要

さまざまな国、地域の学生が協働し、社会的課題について考え、その解決策を探る力を養成することが本プログラムの大きな目的である。今年度は、「減災と持続可能な社会」をテーマとして、さまざまな自然災害への備えについて、東日本大震災での経験を踏まえながら、多様な視点から検討し、災害時対応の基礎的な知識と態度を養い、リーダーとしての自覚を高める。研修では、大震災の経験から見えた災害対応の課題の整理、被災地(陸前高田)での、被災状況の見学および行政、地域リーダーによる講話などを通じ、減災に必要な対応について整理し、提言にまとめ、日英両言語で発表する。

### 2. 実施内容

#### 【期間】

2016年2月16日(火)～2月23日(火)(全8日間)

#### 【スケジュール】

- 2月16日(火) 基礎情報:災害の実態1、オリエンテーション、アイスブレイキング、岩手山  
青少年交流の家に移動
- 17日(水)基礎情報:災害の実態2、陸前高田視察準備
- 18日(木)岩手県総合防災センター見学、陸前高田市内見学、オリエンテーリング
- 19日(金)陸前高田市長による講話、施設視察、避難訓練、伝承館訪問、復興計画講話
- 20日(土)視察の振り返り、課題整理
- 21日(日)協働作業:減災の町づくり—交流人口を受け入れるために—
- 22日(月)協働作業:減災の町づくり—交流人口を受け入れるために—
- 23日(火)最終報告会

#### 【宿舎】

- 盛岡 岩手山青少年交流の家
- 陸前高田 二又復興交流センター

## 【参加者】

### <交流協定大学等>

アイスランド : アイスランド大学 2名

タイ: サイアム大学 2名

韓国: 明知大学 2名

中国: 大連理工大学 1名

台湾: 国立高雄師範大学 1名

### <地元大学生>

岩手大学: 日本人学生 11名 留学生 6名 岩手県立大学: 2名

### <引率教員>

岩手大学 2名

## 3. 成果

研修全般を通して全員が積極的に交流していた。最初にクロスロードゲームを通して普段の備えの重要性を具体的に考える機会を持ち、陸前高田に実際に訪問し、市長を始め様々な関係者から学ぶことで大規模災害の減災について具体的に学ぶことができた。最後の報告会では、5つに分かれた各班が日英両言語で外部から訪れる非居住者(交流人口)に対する減災対策について、万一津波が襲来した時、様々な人たちに対して地元の人たちがどのような対応をすることで減災が可能となるかの具体案を提案した。

研修全般を通して多国籍の参加者と交流し、意見を取り纏め、一つの結果を出すというプロセスからその難しさと楽しさを感じたようであった。

なお、今回の研修については、陸前高田市からの要請で報告書を作成し提出した。

## 4. 経費

平成 23 年度留学生交流支援制度(ショートステイ)プログラムにより7名分、1名当たり8万円の支援が受けられたため、個人負担は軽減できた。原則として盛岡での現地集合、現地解散とし、前後泊のホテル宿泊代は大学で負担した。岩手からの参加者については、期間中の宿泊費・食費相当分を参加費として徴収した。

報告:尾中夏美



## デ・ラ・サール大学(フィリピン)英語研修

### 1. 研修の概要

本プログラムの概要は以下の通りである。

- ① 本プログラムは参加者が英語イマージョン環境を実現させ、かつ財政的負担をできるだけ軽減した英語研修プログラムとして実施した。
- ② フィリピンはマン・ツー・マン指導で知られるが、多国籍のクラスメイトとの英語による交流の教育的意義を重視することから、通常英語クラスへの参加とした。受講科目は現地で実施されるプレースメントテストの結果に従ったレベルから各自が3科目を選択した。
- ③ 岩手大学とデ・ラ・サール大学は3年間の事業協定を締結し、デ・ラ・サール大学が実施する英語コース10名程度の学生を派遣した。
- ④ 学生寮への手配や授業料の支払い、事前事後研修など、研修実施に係るロジスティックスはCIEEに外部委託した。
- ⑤ 現地から事後に送付される評価表に従い、翌年度7月に単位認定手続きを教員が一括して行う。

### 2. 実施内容

#### 【スケジュール】

事前研修 1月 7日(木) 第1回オリエンテーション

2月 12日(金) 第2回オリエンテーション

海外研修 3月 2日(水)～3月 31日(木)(全30日間)

事後研修 4月 5日(火)

#### 【参加者】

人文社会科学部	1年生 3名
教育学部	1年生 3名、2年生 1名
農学部	1年生 3名
男女内訳	男子 4名、女子 6名

### 【受講科目一覧】

科目名	受講人数	科目名	受講人数
Conversational English 8	2	Reading Comprehension & Vocabulary 5	6
Conversational English 7	2	Reading Comprehension & Vocabulary 3	1
Conversational English 6	6	English Grammar 6	1
English Pronunciation 3	2	Writing Skills 1	5
English Pronunciation 2	5		

### 3. 成果

研修前後に実施したアンケート調査の結果から、参加者は英語でのコミュニケーションに対する抵抗感が大幅に減少し、英語の聴解力が向上するとともに、積極性や行動力もついたと実感していることが明らかとなった。欧米に比べて安価な英語研修であることが魅力となり参加したものの、マニラでは貧困や経済格差などの社会問題に否応なく目を向けることとなった。自ら見つけたストリートチルドレン対象のフィーディングボランティアやスラムツアー参加などの活動を通じて、国際社会の抱える課題についても考えるきっかけとなった。帰国後、サークル活動を立ち上げ、フィリピンの子供たちへの支援を実施すべく、有志がレッツビギンプロジェクトに応募した。



ストリートチルドレンへのフィーディングボランティアにて

報告:尾中夏美

## 海外研修

### 「カリフォルニア・イノベーション研修」

### 「グローバル・プロ養成プログラム」

#### 1. 趣旨と概要

本研修は事前研修としてオンライン教材を使用した英語研修、テーマについてのレポート提出などを実施した上で現地研修を実施した。全国約10大学から集まった大学生とともに、カリフォルニア州シリコンバレーの企業訪問、現地でグローバルに活躍する日本人、日系人による講話と交流、スタンフォード大学・サンノゼ州立大学訪問と米国大学生との意見交換と意見報告会などの活動を通じて、グローバルなキャリア意識を高めることを主眼とした研修である。帰国後は研修報告書の提出を義務付けている。

なお、本年は条件を満たした学生に JASSO の奨学金が付与された。

#### 2. 実施内容

##### 【スケジュール】

カリフォルニア・イノベーション研修 9月12日(土)～9月21日(月)

グローバル・プロ養成プログラム 8月28日(金)～9月28日(月)

##### 【単位付与】

全学共通教育科目 2単位

##### 【科目名】

「キャリアを考える」

#### 3. 参加者

カリフォルニア・イノベーション研修

人文社会科学部 1年生、教育研究科2年生

グローバル・プロ養成プログラム

人文社会学部 2年生、3年生、農学部 3年生、工学部前期1年生、2年生

#### 4. 経費

平成 27年度留学生交流支援制度(ショートビジット)プログラムにより条件を満たし希望する学生には全員奨学金を付与することができた。

報告:尾中夏美

## 国際研修 SCIP:フィリピン(貧困と持続可能な社会)

### 1. 研修の概要

本研修は、「貧困と持続可能な社会」をテーマに実施した約三週間のフィリピンでの国際研修である。前半の二週間では、実務的な英語運用能力の向上を目的として、サンカルロス大学で英語研修を実施した。最後の一週間は、現地NGOの活動に関わり、貧困と持続可能な社会について考察するための実地体験研修を実施した。

当該研修の概要は以下である。

- ① 岩手大学グローバル教育センターとサンカルロス大学及びビデゥリシウ財団はそれぞれ覚書を締結し、学生4名が参加した。
- ② 学生は2週間サンカルロス大学で英語研修を履修した後、最貧困層の子供たちを支援する現地NGO(ビデゥリシウ財団)の活動・フィールドツアーに参加し、子供たちやスラムに暮らす人々との交流を通じて、貧困の実態や構造について学んだ。
- ③ 研修参加の前後に実施する事前・事後研修では、日本国内及びフィリピンを含む開発途上国の貧困の現状について知識を習得し、理解を深めた。
- ④ 滞在ホテルと空港送迎はサンカルロス大学が手配し、NGOの活動期間中の車両手配はNGOが行った。
- ⑤ 2月25日以降は教員が一名～二名引率した。
- ⑥ 今年度は施行のプログラムであり、修了証書を授与したが、単位の付与は行わないこととした。サンカルロス大学からも修了証書が授与された。

### 2. 実施スケジュール

事前研修: 2016年10月～2月:事前研修(毎週水曜日 3, 4校時)

1月7日:第1回CIEE渡航前オリエンテーション

2月12日:第2回CIEE渡航前オリエンテーション

英語研修: 2月15日(月)～2月28日(日)

現地NGOでの研修:2月29日(月)～3月5日(土)

事後研修: 3月9日(水)、3月16日(水)

### 3. 参加学生:4名

工学研究科電気電子・情報システム工学専攻 修士課程1年生

人文社会学部国際文化課程 4年生

人文社会学部法学・経済過程 3年生

農学部農学生命課程 3年生

男女内訳(男性1名 女性3名)

### 4. 研修内容

#### 4.1 英語研修

(1)学生4名に一名の教員がつき、会話、読解等基礎的な英語運用能力の向上を図った。毎日異なるテーマで、現地大学生や関係者にインタビューを実施し、実践的な表現方法を学んだ。

(2)現地大学生とともに、フィリピンの歴史・文化にまつわる課外フィールドワークを実施した。プレゼンテーション資料を作成し、口頭発表を実施した。

(3)週末にサンカルロス大学の関連NGO団体が支援するゴミの山とそこにすむ人々を訪問し、移住先住居プログラムを視察した。また、都市貧困層の現状を把握するためナイトツアー活動に同行した。

#### 4.2 NGOでの研修

以下のプログラムを実施した。

(1)NGOの活動内容説明

(2)商業的性的搾取にあった子供たち(CSEC)との交流

(3)スラムへの訪問と住民へのインタビュー

(4)セブ市役所関係者の説明

(5)貧困削減・生計向上プロジェクトの視察

(6)大学における口頭発表

### 5. 成果

学生の参加動機は、英語の運用能力向上に加えて、「国際協力の現場を知りたい。」、また「開発途上国の貧困や社会保障について学びたい。」というものであった。

#### 5.1 英語研修

アンケート調査の結果から、参加者は英語の聴解力が向上するとともに、英語で話しかける積極性や行動力もついたと実感していた。フィリピンの人々の気さくさや明るさが、英語で話すことへの抵抗感を薄め、英語に自信のない学生にも、積極的に挑戦する環境を与えていた。

インタビューを取り入れた英語学習方法は、英語能力の向上だけでなく、現地社会への理解と関心の喚起という点においても非常に有効であることがわかった。今後も取り入れたい。

## 5.2 NGOでの研修

### (1) 気づき

「現地の子供たちは、自分や妹や弟たちとなんら変わらない子供たちなのだと感じた。」という感想や、「フィリピンにおいて、貧困は当たり前だという先入観が覆った。」という感想があった。また、「貧困や問題解決のために、分析し細分化し、支援することで、改善することができるということがわかった。」という学びがあげられた。

### (2) 視野の広がり

「この研修を通して、視野を広げることができ、人生の目標を見つけることができました。」という感想があった。こう述べた学生は、研修を通じて教育分野に興味を持ち、後、就職活動では専門分野と教育の両方を視野に入れて活動していると報告した。「自分の専門以外の新しい分野に目を向けることは、勇気がいることです。でも研修を通じて、この勇気を得られたことが大きいです。」と語った。

## 5.3 今後のプログラム形成

今回の試行プログラムを通じて、通信機器の充実化や危機管理体制のさらなる強化の必要性が明らかとなった。今後のプログラム形成に反映させたい。

報告:平井華代

## 国際研修 SCIP: 北欧(エネルギーと持続可能な社会)

### 1. 趣旨と概要

本プログラムの趣旨は以下の通りである。

本科目は、英語で得られる情報を収集、分析、判断し、決定する能力を育成する研修を通して、卒業後グローバルな視点から地域のリーダーとして課題解決を行う能力を培うことを目的としている。

この授業は「エネルギーと持続可能な社会」をテーマとし、海外での研修の前後に事前／事後研修を実施する。学生は事前研修では工学部、農学部、人社学部教員によるオムニバスの講義を受ける事でテーマに関する基礎知識を習得する。同時にテーマに関わる英語の講義の聴講や関連する英語の文書を、ICT 教育プラットフォームを活用して学習することにより、英語による情報収集能力を高める。研修は9月に約10日間、6名程度ずつのグループに分かれてアイスランド大(アイスランド)とリンネ大(スウェーデン)で行い、エネルギー関連の各国事情に関する講義を受け、発電所やエネルギー分配基地等の現地視察も行う。帰国後の事後研修ではそれぞれの情報を持ち寄り、口頭発表や報告書にまとめる。

### 2. 実施内容

#### 【スケジュール】

日付	活動	場所
2月10日(火) 16:30~18:00	第1回説明会	多目的室
3月31日(火) 12:00~13:00	第2回説明会	多目的室
4月1日(水)~3日(金)	履修希望受付、選考、通知	
4月16日(木)	オリエンテーション	GB-2A
4月23日(木)	事前講義①(高木浩一)	工学部3号館127
5月7日(木)	事前講義②(野崎明裕)	GB-2A
5月14日(木)	Discussion	GB-2A
6月4日(木)	Discussion	GB-2A
6月11日(木)	事前講義③(伊藤幸男)	GB-2A
6月18日(木)	Discussion	GB-2A
6月25日(木)	事前講義④(山口 明)	GB-2A



7月2日(木)	Discussion	GB-2A
7月16日(木)	English Discussion	GB-2A
8月7日(金) 8:00-18:00	県内エネルギー施設視察	明治百年記念公園 小水力発電所、柏台水力発電所、松川地熱発電所、雫石町営屋内温水プール・ホットスィム、木質バイオマス、ヒートポンプ施設、太陽光発電施設、四十四田ダム
8月17日(月)	出発前オリエンテーション	GB-2A
9月7日(月)～ 18日(金)	海外研修	アイスランド・スウェーデン
10月上旬	事後研修	GB-2A
10月中旬	事後研修	GB-2A
11月5日(木)	口頭発表	多目的室
11月20日(金)	報告書等提出期限	

【参加者】

学部課程	学年	性別	派遣先
人社会学部環境科学課程	2	女	スウェーデン
人社会学部環境科学課程	2	女	スウェーデン
人社会学部環境科学課程	2	女	スウェーデン
農学部農学生命課程	2	女	スウェーデン
工学部社会環境工学科	3	男	アイスランド
工学部機械システム工学科	3	男	アイスランド
工学部社会環境工学科	3	男	アイスランド

【単位付与】

全学共通教育科目 2単位

### 3. 成果

全般的に英語や海外に対する興味関心が向上した。英語の学習意欲の向上とともに、工学部の学生は自分の専門性をさらに伸ばしたいという意思を示した。今回初めて海外に行った学生が、その後国際ボランティアに参加を決定するなど、国際性を高める行動が見られた。

### 4. 経費

平成27年度留学生交流支援制度(ショートビジット)プログラムにより9名分、1名当たり8万円の支援が受けられることが決定していたため、1名を除いて奨学金を付与し個人負担は軽減できた。原則として盛岡での現地集合、現地解散とした。

報告:尾中夏美

## 三陸ジオパーク・被災地復興視察研修

平成27年度2月24日～25日にかけて、東日本大震災から5年を迎えたこの機会に、留学生と日本人学生の混成グループで三陸ジオパークを訪問し、以下の4つの課題からグループ毎に選択したテーマについて、観光客受入のためのアイデアを検討した。

### 【研修テーマ】

1. 「三陸ジオパーク・震災遺構の活用による観光振興」
2. 「地域特産品の活用による観光振興」
3. 「観光客増加に向けた情報発信」
4. 「観光客受入(日本人・外国人)に向けた地域の対応・改善策」

1日目は、久慈駅から田野畑駅まで震災学習列車に乗り、車内で二橋守・三陸鉄道北リアス線運行部企画担当課長より震災と復興の様子に関する説明を受けた後、田野畑村・たのはたジオパークを訪れ、NPO 体験村たのはたネットワークの案内で、平井賀漁港とハイペ海岸を視察した。宿泊先のグリーンピア三陸みやこでは、夕食後のグループワークを通じて視察箇所での各自の気づきについて共有し、アイデア発表に向けた討議をおこなった。



震災学習列車

三陸鉄道(株) 二橋守様による説明



平井賀漁港・ハイペ海岸を視察

NPO 体験村たのはたネットワークによる説明



グリーンピア三陸みやこでのグループワーク



グリーンピア三陸みやこにて

2日目には、「NPO 立ち上がるぞ！宮古市田老」の大棒秀一理事長の案内で、津波の被害を受けた田老漁港、防潮堤、田老観光ホテル、山王団地を訪問し、津波の被害と復興の様子を学んだ。その後、岩泉町に移動し、龍泉洞を見学したあと、岩泉町民会館で当日の視察で学んだことを踏まえ、グループで議論を行い、三陸ジオパークの観光促進のためのアイデアを発表した。



田老漁港・防潮堤を視察

NPO 立ち上がるぞ！宮古市田老  
理事長大棒秀一様による説明



岩泉町龍泉洞の見学



岩泉町民会館でのグループワーク



観光促進のためのアイデア発表

2日間の研修には三陸ジオパーク推進協議会の職員2名も同行し、学生と共に議論を行った。また、2日目に訪問した田老では、IBC 岩手放送宮古支局と岩手日報の取材を受け、それぞれ、25日夕方のニュース番組、26日朝刊で本研修の様子が紹介された。

学生たちからは、今後三陸ジオパークへの観光客誘致を図るため、看板の設置、パンフレットの多言語化、外国語ガイドによる案内、アクセスのための交通手段の充実、三陸鉄道の記念乗車券に割引特典をつけること、などといったアイデアが出された。

報告：国際連携室・石松弘幸

## 平成 27 年度 新入生オリエンテーション

### 1. 実施したオリエンテーション等(前期及び後期にそれぞれ実施)

#### ・留学生オリエンテーション

国際課及び保健管理センターから、新入生に必要な手続き及び日本での生活や履修登録等について説明するとともに、盛岡東警察署から生活上の注意点について説明があり、安全・快適な新生活をスタートさせる一助とした。

#### ・国際交流会館オリエンテーション

新入居者の紹介を兼ね、入居者全員を対象に国際交流会館での生活上のルール及び寄宿料等についての説明を行った。説明後は入居者の自己紹介の時間とし、入居者相互の交流の場とした。

#### ・キャンパスツアー及びライブラリーツアー

キャンパスツアーでは、サークルU及び中国人留学生会が中心となり、岩手大学キャンパスの各施設の場所や行き方について、案内及び説明を行った。

ライブラリーツアーでは、学内の図書館の使用方法的説明を行った。説明は図書館職員が行い、グローバル教育センター及び国際課教職員が英語及び中国語の通訳を同時に行った。(後期は、サークルU及び岩手大学留学生会が英語及び中国語の通訳を行った。)

#### ・チューターオリエンテーション

平成27年度にチューターを行う学生に対して、チューターの概要説明、注意事項及び手続きについて説明を行った。

#### ・ゴミ分別・国民年金手続きオリエンテーション

盛岡市及び岩手大学EMS委員からゴミの分け方・出し方のルールについて、盛岡年金事務所から国民年金の手続きについて説明いただき、グローバル教育センター及び国際課教職員が英語及び中国語の通訳を同時に行った。

・交通安全オリエンテーション

日本での交通ルールや正しい自転車の乗り方について、盛岡東警察署から説明及び実地的な指導をしていただき、グローバル教育センター及び国際課教職員が英語及び中国語の通訳を同時に行った。

## 2. 各種オリエンテーション等の実施日程等

### 2.1 前期

#### (1) 留学生オリエンテーション

日 時:平成 27 年 4 月 3 日(金)13:00～14:00

会 場:工学部 銀河ホール

対象者:32 名

#### (2) キャンパスツアー、ライブラリーツアー

日 時:平成 27 年 4 月 3 日(金)10:30～11:30

会 場:図書館

対象者:32 名

#### (3) 国際交流会館オリエンテーション

日 時:平成 27 年 4 月 6 日(月)18:10～19:00

会 場:国際交流会館 集会室

対象者:33 名(国際交流会館入居者)

#### (4) チューターオリエンテーション

日 時:平成 27 年 4 月 9 日(木)12:10～12:50

会 場:学生センターB等1階 多目的室

対象者:76 名

#### (5) ゴミ分別・国民年金手続きオリエンテーション

日 時:平成 27 年 4 月 22 日(水)16:30～18:30

会 場:工学部 銀河ホール

対象者:32 名

#### **(6)交通安全オリエンテーション**

日 時:平成 27 年 4 月 23 日(木)12:15～12:50

会 場:岩手大学グラウンド

対象者:20 名

### **2.2 後期**

#### **(1)留学生オリエンテーション**

日 時:平成 27 年 10 月 6 日(火)13:00～14:00

会 場:工学部 銀河ホール

対象者:50 名

#### **(2)キャンパスツアー、ライブラリーツアー**

日 時:平成 27 年 10 月 7 日(水)16:30～17:30

会 場:図書館

対象者:50 名

#### **(3)国際交流会館オリエンテーション**

日 時:平成 27 年 10 月 9 日(金)18:10～19:00

会 場:国際交流会館 集会室

対象者:35 名(国際交流会館入居者)

#### **(4)チューターオリエンテーション**

日 時:平成 27 年 10 月 16 日(金)12:10～12:50

会 場:学生センターB等1階 多目的室

対象者:79 名

#### **(5)ゴミ分別・国民年金手続きオリエンテーション**

日 時:平成 27 年 10 月 22 日(木)16:30～18:30

会 場:工学部 銀河ホール

対象者:53 名

#### **(6)交通安全オリエンテーション**

日 時:平成 27 年 10 月 27 日(火)12:10～12:50

会 場:岩手大学グラウンド

対象者:20 名

報告:国際課・越田晶子



## 海外留学支援事業

海外の大学との学生交流や様々な海外研修プログラムについての情報提供の場として以下の事業を実施した。

### 1. 海外留学・研修オリエンテーション

実施日程と参加人数は以下の通りである。

実施日程:5月20日(水)、21日(木) 午後4時30分～午後6時

参加人数:のべ209名

オリエンテーションの内容は、表1の通りである。

表1. プログラム

日付	時間	内容
5月20日	16:30～16:45	岩手大学派遣プログラム概要説明
	16:45～17:15	国際ボランティア・国際エコボランティア(全学)
	17:15～17:30	中国短期研修(全学)
	17:30～17:45	フィリピン英語研修(全学)
	17:45～18:00	シリコンバレー研修(全学)
5月21日	16:30～16:45	岩手大学派遣プログラム概要説明
	16:45～17:00	フランス交換留学(人文社会学部)
	17:00～17:20	韓国交換留学(全学)・短期韓国語研修(全学)
	17:20～17:45	米国・カナダ交換留学、トビタテ！留学 Japan、ヤングリーダーズ国際研修、国際研修—エネルギーと持続可能な社会(全学)
	17:45～18:00	タイ短期研修(教育学部)

### 2. 留学説明会

全学対象の交換留学申請のための説明会を以下のように実施し21名が参加した。

日程:7月15日(木)

対象となるプログラム:(米国)テキサス大学オースティン校、アーラム大学  
(カナダ)セント・メアリーズ大学

### 3. 個別留学相談

個別留学相談は学生それぞれで異なる空き時間に個別対応するため、不定期に実施している。相談受付のポスターは常時掲示しているため、希望者は国際課を通すか直接メールで相談時間を予約する。平成 27 年度はのべ人数 46 名が留学相談に訪れた。

表 2. 所属別のべ人数

学部	人文学部	教育学部	工学部	農学部
学部生	16	6	10	10
院生	0	2	0	2

### 4. Super English, Step-up English, Foundation of English

留学や海外研修を目指す学生の英語基礎トレーニングコースとしてステップ・アップ・イングリッシュを実施し、またこのコース修了者で一定レベルに達した学生対象に、TOEFLiBT®で交換留学が可能となるレベルに到達させることを目標とするスーパー・イングリッシュを実施している。1 学期 11 週間開講し、英語力で一定条件を満たす学生がステップ・アップ・イングリッシュを履修できる。ファウンデーションはラーニング・サポート・デスクで実施した。

表 3. 受講者数

		2015 年度前期					2015 年度後期				
SUE	所属学部	人学	教育	工学	農学	合計	人学	教育	工学	農学	合計
	人数	1	0	1	0	2	3	1	1	0	5
SE	所属学部	人学	教育	工学	農学	合計	人学	教育	工学	農学	合計
	人数	1	0	1	0	2	1	0	1	0	2

### 5. TOEFLiBT スキルアップセミナー

日時:7月28日

場所:連合農学研究科棟 2階

参加人数:13名

### 6. トビタテ！留学 Japan 申請支援

9月16日に第4期募集のためのワークショップを実施した。申請希望者のための個別相談も随時実施した。

第2期1名(工学部)、第3期1名(農学部)が採択となった。

## 7. 国際月間

日程:10月31日(土)～11月30日(月)

報告:尾中夏美

—グローバル教育センター 業務報告—

—地域支援・地域連携 業務報告—

## 地域日本語教育支援事業

### 1. 事業の趣旨

グローバル教育センターの年度計画に基づき、外国出身の住民が増加する地域社会のコミュニケーション課題解決の一助とすることを目的として、地域日本語教育支援事業を継続している。平成 27 年度は、子どもの学習支援事業および福島大学で開催された日本語学習支援ネットワーク会議への協力を行った。

### 2. 事業内容

#### 2.1 子どもの学習支援事業

(1)いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会総会

日 時：平成 27 年 7 月 1 日(水)13 時～14 時 30 分

場 所：岩手大学学生センターB棟多目的室

参加者：岩手県教育委員会学校教育課 三浦 隆

二戸市教育委員会学校教育課 多田 義孝

盛岡市教育委員会学校教育課 菅野 弘

一関市教育委員会学校教育課 和賀 真樹

(財)岩手県国際交流協会 福澤 淳一・大山 美和

いわて多文化子どもの教室むつみっこくらぶ代表 村井 好子

ゆうの会代表 熱海 アイ子

NIK 代表 村井 浩和

岩手県環境生活部若者女性協働推進室 吉田 知教(オブザーバー参加)

岩手大学教育学部 教授 新妻 二男(議長)

岩手大学グローバル教育センター長 藪 敏裕

岩手大学グローバル教育センター 准教授 松岡 洋子

岩手大学国際課長 斎藤 幸代(事務局)

#### <協議内容>

- ・新構成員として県北の民間支援団体 NIKK を加えること、大学改組による事務局の名称変更を行うことが了承された。また、平成 26 年度事業報告および平成 27 年度事業計画が了承された。さらに、岩手大学から平成 26 年度中に実施した県教育事務所訪問報告があり、平成 27 年度から開始された「特別の教育課程」による日本語指導も含め、外国につながる子どもの学習支援の必要性、方法、支援情報についてさらに周知する必要があることが報告された。また、県内には今年度 5 名の加配教員による日本語指導が行われていること、つくば市教育総合研修センターで開催される日本語指導者研修会に岩手県から 5 名が参加すること、過去の研修参加者リストを整備したことが県教育委員会から報告された。また、

市教育委員会、民間支援団体から、各地の現状について報告があり、支援に必要な人材、予算等が十分ではない現状が明らかになった。今後、教育行政、学校現場、民間支援者、大学等との連携を強化し、支援方法、人材育成等について引き続き協議することが確認された。

(2)平成 24 年度日本語指導が必要な外国人児童生徒等指導者研修会

日 時：2015 年 10 月 20 日(火)10:00-16:30

場 所：岩手県庁盛岡地区合同庁舎 8階大会議室

主 催：岩手県教育委員会 岩手大学グローバル教育センター

後 援：いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会

参加者：30 名

内 容：1. 事例報告(滝沢市教育委員会、久慈小学校、ゆうの会)  
2. 「特別の教育課程」実践ワークショップ(進行:岩手大学 松岡洋子)  
3. ワークショップグループからの報告

(3)多文化キッズキャンプ

日 時：2016 年1月 9 日(土)～10 日(日)

場 所：岩手山青少年交流の家(岩手県滝沢市)

参加者：子ども 31名 留学生 18 名 日本人学生 14 名

保護者 7 名 スタッフ 10 名 計 80 名

内 容：合宿形式の研修会。初日は昼食後、雪あそび、個別学習、交流ゲーム、2 日目は個別学習、絵本読み聞かせ、手遊び等を行った。4年前から岩手県内(盛岡、二戸、一関地区)に加え、八戸、仙台、福島からも参加し、交流が定着した。また、東北大学の学生3名の協力を得ることができた。経費は、中島国際交流財団助成金および岩手大学グローバル教育センター経費、参加費(1,000 円/人)により支弁した。

(4)教育指導主事研修会

県北教育事務所において、11 月 17 日開催の指導主事研修の際に、「特別の教育課程」による日本語指導に関する情報提供を行った。

<成果と課題>

協議会、合宿、指導者研修会などが定例化し、協議会、指導者研修会はネットワーク機能を果たしている。また、多文化キッズキャンプは東北 4 県の関係者により継続されている。今回は中島国際交流財団の助成金を得て実施したが、事業にかかる経費の確保にはまだ課題がある。これらの事業は継続の要望、必要性が大きい。関係機関との連携を図り、事業の継続について検討を進める必要がある。

## 2.2 日本語学習支援情報交流事業

日本語学習支援ネットワーク会議 15 in 福島

日 時： 2015年10月3日(土) 10:00-16:30

場 所： 福島大学人間発達学類

主 催： 福島大学、(公財)福島県国際交流協会

参加者： 76名

内 容： 1. 講演「多文化パワーと地域創生－未来をデザインする日本語支援」  
(グローバル人材サポート浜松代表 堀永乃氏)  
2. 分科会1「学習者のための日本語教室とは？」  
分科会2「社会参加につなげる支援のあり方」  
分科会3「外国にルーツを持つこととその家族」

### <成果と課題>

平成17年度より始まった「日本語学習支援ネットワーク会議」は、岩手大、東北大、宮城教育大、山形大、秋田大、福島大の東北地区6国立大学のネットワークを活用し、地域の日本語学習支援に関する関係者、関係機関の情報交流を継続している。平成26年度には青森中央学院大学で開催され、ネットワークが東北5県から6県に拡大した。近年は、各県の大学と国際交流協会等が連携して開催するようになり、各地の日本語学習支援に関する情報交換の場として定着し、内容も各地の事情によって構成されるようになった。平成28年度は岩手を会場に開催予定であり、岩手県国際交流協会、各民間日本語支援団体等と協力し企画運営を進めたい。

報告：松岡洋子

## 平成 27 年度 岩手県留学生交流推進協議会事業

### 1. 岩手県留学生交流推進協議会総会

平成 27 年 11 月 19 日(木)、岩手大学学生センターB棟多目的室で岩手県留学生交流推進協議会総会を行った。

総会には 12 の構成団体が参加し、平成 26 年度事業報告に続き、平成 27 年度事業計画として、①広報誌「留学生いわて」No.28 の発行、②「第 3 回外国人留学生による“岩手のいいところ”写真展」の開催、③「グローバル語り場-いわての未来をグローバルな視点で考えよう！」の開催、④外国人留学生生活状況調査の実施、について、それぞれ審議のうえ実施することとした。あわせて次年度以降の「トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コース」への申請可能性など、地域産学官一体となったグローバル人材育成に対する本協議会のあり方について協議を行った。

また、構成団体の平成 27 年度地域交流等実施計画や平成 27 年 5 月 1 日現在の各高等教育機関に在籍する外国人留学生数等について報告があった。



### 2. 「グローバル語り場-いわての未来をグローバルな視点で考えよう」の開催

平成 28 年 1 月 19 日(火)、アイーナ(岩手県民情報交流センター)にて「グローバル語り場-いわての未来をグローバルな視点で考えよう！」を、岩手県外国人留学生就職支援協議会、岩手県・岩手県国際交流協会「世界とのかけはしクラブ」との共催により開催した。



この取組は、岩手県内に住む外国人留学生および海外体験のある日本人学生が、県内企業や自治体等関係者とともに、「地域の将来像」、「地域企業のグローバル展開」、「まちづくり」「ひとづくり」、「多文化共生」などをテーマに、それぞれの体験事例などを基に語り合いながら、地域の実情を知り、地域活性化など課題解決に向けた新しいアイデアを探る「語り場」を設けることで、岩手の未来を考えるとともに、そこにグローバル化の果たす意味や役割を考察することを目的に、今年度初めて開催したものである。

初回となる今回は、「いわてのイチオシ！」をテーマに、グローバル教育センター 松岡洋子教授の進行のもと、岩手にある様々なリソースを国内外に 広く売り込むためのビジネスモデルについて、「ターゲット」や「滞在期間」、「利益循環」などの視点も踏まえ、学生・企業等関係者混成によるグループワークを行い、最後にグループ毎に発表を行った。

当日は岩手大学、岩手県立大学、富士大学、盛岡大学、一関高等工業専門学校に所属する日本人学生及び留学生の他、岩手県内の企業及び経済団体、自治体等関係者など 50 名を超える参加者があり、8つに分かれたグループからは岩手の様々な資源(温泉等の自然資源、民俗文化、歴史遺産、農林水産物)等を効果的に売り込むため、それぞれ大変ユニークな発表が行われた。

参加者からは「岩手にとってのグローバルとは何かを考える良い機会となった」、「多様な人と話をすることで普段気づかないことを気づかされた」、「岩手の有する「ヒト・モノ・コト」の潜在的な力を再認識し、もっと活かしたいと思った」といった感想があり、今後についても「学生と企業のコラボで世界に発信できるプロジェクトを作りたい」「企業の実際の課題をテーマにもっと絞った話し合いをしたい」といった前向きな意見が挙げられた。

これらの意見を参考に、留学生や日本人学生と地域との交流機会を増やしつつ、地域の活性化に貢献するため、今後もこのような「語り場」を定期的で開催する予定である。



### 3. 第3回外国人留学生による“岩手のいいところ”写真展

平成 28 年 2 月 5 日(金)～2 月 19 日(金)に、岩手大学図書館ギャラリー「アザリア」にて、「第3回外国人留学生による“岩手のいいところ”写真展」を開催した。

本写真展は、留学生が感じた岩手を、写真で表現することで、言葉とはまた違う形でメッセージを広く一般市民に発信するとともに、双方が多様な視点から岩手の良さを考察することで、今後の交流推進に役立てることを目的としている。

第3回目となる今回は、テーマを「いわての食」とし、留学生から見た岩手の伝統食や食文化に対する考えのほか、留学生自身が岩手に留学した際に体感した、食にまつわる様々なエピソードなどを交えた作品を募集したところ、合計32点(うち岩手大学25点、岩手県立大学3点、富士大学1点、盛岡大学1点、盛岡情報ビジネス専門学校2点。)の応募があった。南部せんべい、わんこそば、冷麺など岩手を代表する料理をはじめ、岩手山山頂から望む田園風景、夏祭りや屋台、流しそうめん、お花見、行きつけの食堂など、思い出の場面を鮮やかに切り取った、留学生ならではの視点の作品が集まった。

写真展最終日には、優秀作品の表彰および副賞の授与が行われた。岩手県留学生交流推進協議会長賞のほか、協賛団体・企業から、いわて観光キャンペーン推進協議会長賞、いわて牛普及推進協議会賞、株式会社久慈琥珀賞の3つの特別賞が授与された。また、来場者の投票によりアザリア賞(会場の名前から命名)が授与された。

表彰式には、受賞者7名(岩手大学6名、盛岡情報ビジネス専門学校1名)が出席し、受賞者からは「目に見えないおいしさを写真に撮るのが難しかった」など写真に込めたメッセージ、受賞の喜びの声がかかれた。協賛団体・企業からは、「岩手の魅力を積極的に発信する力になって欲しい」「どんなことをイメージしながら写真を撮ったのか考えるのも楽しい」などの講評をいただき、和やかな雰囲気の中で表彰式が執り行われた。

岩手大学図書館を会場とした展覧会には160名を越える来場者があり、感想として「普段何げなく見えていたものが、留学生には新鮮に見えていること、視点の違いに気づかされた」「岩手のカラフルさに気づけるいい写真展だった」「こんなに立派だと思わなかったので写真を出さなかったのが残念」など、多数のコメントをいただいた。

本写真展で展示した写真は、3月には岩手県国際交流協会(アイーナ)においても紹介した。

#### <協賛団体>

いわて観光キャンペーン推進協議会(事務局:岩手県商工労働観光部観光課)

いわて牛普及推進協議会(事務局:岩手県農林水産部流通課)

株式会社 久慈琥珀

株式会社ヒヤマフォトスタジオ

#### <表彰作品>

(1)岩手県留学生交流推進協議会長賞(1名)

「和食メニューのイメージ」 王 懿敏 (オウ イビン) / 中国 岩手大学

(2)いわて観光キャンペーン推進協議会長賞(2名)

「夏の醍醐味」 曹 暢 (ソウ チョウ)／中国 岩手大学

「MORIOKA SENBEI-TEN」カマル エムディー ムスタッフアー／バン格拉デシュ 岩手大学

(3)いわて牛普及推進協議会賞(3名)

「天空の食事」 フィン ドク ドアン グー／ベトナム 岩手大学

「かわいい小学生とかわいいおにぎり」 蘇 紅 (ソ コウ)／中国 富士大学

「わんこそば」 グエン コン バン／ベトナム 盛岡情報ビジネス専門学校

(4)株式会社 久慈琥珀賞(2名)

「大槌の夏」 任 永紅 (ニン エイコウ)／中国 盛岡大学

「岩手山オムライス」 マックス／タイ 岩手大学

(5)アザリア賞(来場者投票による選出)(1名)

「南部せんべい」 盛 傑 (セイ ケツ)／中国 岩手大学



報告:国際課・石沢友紀

## 地域への支援事業 (English Camp)

### 1. 趣旨

本事業は東日本大震災の影響で ALT の不足や国際交流活動の停滞が懸念される沿岸地域の中학생への教育支援として、岩手大学と岩手大学の協定校である米国アーラム大学との共催事業として始まった事業である。現在はさらに発展させ、English Camp に加えて多様な言語背景を持つ本学の交換留学生を加えた Global English Camp も立ち上げることにより、さらに多くの中學生や大学生の参加を可能とした。合宿期間中、英語のみでおこなう様々な体験学習を通じて、国際交流に興味を持つきっかけを作るとともに、英語学習への意欲を育み、広く世界で活躍できる人材(グローバル人材)の基礎を構築することを趣旨とする。

### 2. 実施内容

#### 【期 間】

English Camp                    2015 年 10 月 31 日(土)～11 月 1 日(日)  
Global English Camp        2015 年 12 月 19 日(土)～12 月 20 日(日)

#### 【場 所】

国立岩手山青少年交流の家(岩手県滝沢村)

#### 【参加者】

English Camp

中學生： 田野畑中学校 2 名    釜石中学校        7 名    大平中学校        2 名  
          繫中学校        1 名    城西中学校        4 名    厨川中学校        2 名  
          松園中学校        4 名

岩手大学生： 9 名        アーラム大学生： 5 名        ALT： 4 名

引率教員： 岩手大学 1 名    アーラム大学 2 名

Global English Camp

中學生： 長内中学校 2 名    夏井中学校        2 名    大川目中学校    1 名  
          福岡中学校 1 名    金田一中学校    1 名    飯岡中学校        1 名  
          見前中学校 1 名    黒石野中学校    5 名    仙北中学校        1 名  
          城西中学校 2 名    大宮中学校        1 名    繫中学校            1 名

岩手大学生： 9 名

留学生：アイスランド 3名 カナダ 1名 米国 2名  
エルサルバドル 1名  
引率教員：岩手大学 1名

### 【研修内容】

日本語でのオリエンテーション終了後は日本語使用禁止で2日間を過ごした。岩手大学生と留学生は混在小チームに分かれ、英語活動やクラフト作りなどの活動を企画運営した。中学生は学年や所属中学校が異なる生徒を組み合わせ、留学生、日本人大学生と同室宿泊させることで、英語を使うことと同時に「知らない人」とのコミュニケーション能力を育成する機会も提供した。



Global English Camp での集合写真

報告：尾中夏美

## 「留学生と市民のガーデンパーティー～世界の屋台村～」実施

留学生が屋台で母国の料理を提供し、伝統の歌や踊りを披露するイベントである。

27年度から、これまで盛岡国際交流協会が主催していた「世界の屋台村」と併せて合同での開催となった。場所も一般市民に分かりやすいよう、中央食堂前に移し、大勢の市民や日本人学生が留学生と楽しく触れ合う機会となった。

### 1. 日時

平成27年7月11日(土)

12:00～15:00

### 2. 場所

岩手大学中央食堂前

### 3. 主催

岩手大学留学生会

サークルU

岩手大学グローバル教育センター

盛岡国際交流協会

### 4. 参加者

400名以上

学生・教職員・一般市民

### 5. 参加屋台

11ヶ国・地域(タイ・韓国・アメリカ・フランス・バングラデシュ・アイスランド・中国・ベトナム・台湾・インドネシア・モンゴル)

岩手大学生協

### 6. プログラム

開会挨拶 岩淵学長

アトラクション(歌、楽器演奏、ダンス)

閉会挨拶 上村副学長

報告:国際課・斎藤幸代

—國際連携室 業務報告—

## 岩手大学国際戦略推進体制及び各プロジェクトについて

### 1. 国際連携室・国際戦略推進委員会の設置

平成 24 年度に策定した「岩手大学国際連携戦略」の具現化を図り、留学生の受け入れ及び学生の海外派遣の促進、学生及び教職員の国際的視野、外国語能力の向上など、海外大学との連携・研究交流推進などに係る方策・戦略を推進するための体制強化が求められる中、平成 26 年度に実施された教育研究支援施設改組の中で、国際交流センターを発展的に改組し、「国際連携室」を新たに設置した。

また、国際化及び国際連携戦略の推進において、教育推進、研究推進、地域連携の各機構及び各学部・研究科との連携・協働により、全学としての各戦略項目の進捗状況等の確認、推進策の検討、各種課題の共有やその解決のための調整を図る場として「国際連携戦略推進委員会」を設置した。

### 2. 国際戦略推進のための各プロジェクトの設置

国際連携戦略及びアクションプラン(Plan)を着実に推進するためには、優先順位を付しながら、横断的な組織構成のもと、迅速かつ柔軟な対応(Do)を行う必要がある。

そのため各種戦略の進捗状況に合わせ、国際戦略推進委員会のもとに以下のプロジェクトを設置した。プロジェクトは従来の委員会方式に依ることなく、各種案件の必要性や緊急性に合わせて適宜設置・改廃を行い、迅速かつ柔軟に対応できるものとした。

#### 2.1 プロジェクト運営のポイント

- ・特定部局のみで対応が難しい横断的事項を中心にプロジェクトを設置する。
- ・案件に応じ既存の組織・委員会をもってプロジェクトの実質的運営を付託する。
- ・各プロジェクトには国際連携室構成員が必ず加わり、関連事業の実施(実施支援)を行う。
- ・各学部・機構等における国際関連事業推進の現状・課題等については、国際戦略委員会において共有を図るほか、各学部国際交流委員会等に国際連携室構成員が陪席等を行い、情報収集・提供に努め、国際戦略推進委員会等において、必要な支援の実施(または支援策の検討)を図る。

#### 2.2 各プロジェクトの概要(平成 27 年度現在)

##### (1) 交流基盤整備プロジェクト

- 対応する国際連携戦略
  - ・「グローバル化の意識を高めるキャンパス環境を整備する」



- ・「各種戦略を実現するためのハード、ソフト両面の整備を進める」
- 推進するアクション
  - ・キャンパス環境及び関連施設(宿舍、交流施設等)の整備
  - ・グローバル化に対応した教職員のFD、SDの企画(教育推進機構等との協議に基づく)
  - ・国際連携推進のための広報(広報室との協議に基づく)
  - ・国際連携・国際交流に関する危機管理
  - ・帰国留学生の組織化とネットワークの強化 など

## (2) 地域協働型グローバル人材育成推進プロジェクト

- 対応する国際連携戦略
  - ・「協定校の重点化を図り、留学生受入と学生の海外派遣を促進する」
  - ・「学生の国際的コミュニケーションスキルとしての外国語能力を向上させる」
  - ・「地域社会のグローバル化への対応に貢献する産学官民連携事業を実施する」
- 推進するアクション
  - ・地域産学官一体となったグローバル人材育成のための、多様な海外派遣・受入支援体制の構築
  - ・学内外における学生と留学生、及び地域との交流機会の拡大
  - ・地域のグローバル化にかかる情報収集・提供、調査研究、各種支援事業や交流事業の展開 など

## (3) 共同教育推進プロジェクト

- 対応する国際連携戦略
  - ・「協定校の重点化を図り、留学生受入と学生の海外派遣を促進する」
  - ・「各種戦略を実現するためのハード、ソフト両面の整備を進める」
- 想定されるアクション
  - ・デュアルディグリーなど、海外大学との複数・共同学位制度の開発と推進 など

## (4) 国際研究推進プロジェクト

- 対応する国際連携戦略
  - ・「教員の海外派遣を支援するとともに、岩手大学の特徴ある分野の研究を促進し、研究の質向上を推進する」
  - ・「各種戦略を実現するためのハード、ソフト両面の整備を進める」
- 推進するアクション
  - ・大学の特色ある研究を国際水準に引き上げるための支援強化
  - ・特に研究推進のための外部資金の獲得支援
  - ・国内外の研究機関との共同研究等の推進
  - ・教員等の海外派遣事業の推進 など

※本プロジェクト運営は、「研究推進機構・プロジェクト推進部門」に付託する。

#### (5) 特色型国際連携推進プロジェクト

- 対応する国際連携戦略
  - ・「協定校の重点化を図り、留学生受入と学生の海外派遣を促進する」
  - ・「地域社会のグローバル化への対応に貢献する産学官民連携事業を実施する」
- 推進するアクション
  - ・国際的な産学官連携事業、大学・地域間交流事業の展開（UURR事業の継承含む）
  - ・復興、防災、COC等と関連した特色ある国際連携・共同教育事業の推進
  - ・国内外大学とのコンソーシアム型連携
  - ・海外拠点、連携拠点等の整備 など
- プロジェクト構成・運営方法
  - ・本プロジェクトは、各アクションに対応したプロジェクトチームをそれぞれ構成する。

＜設置するプロジェクトチーム＞

  - ① UURRプロジェクトチーム
  - ② 地域特性課題解決プロジェクトチーム
  - ③ コンソーシアム型連携プロジェクトチーム

#### 2.3 プロジェクトの具体的推進について＞

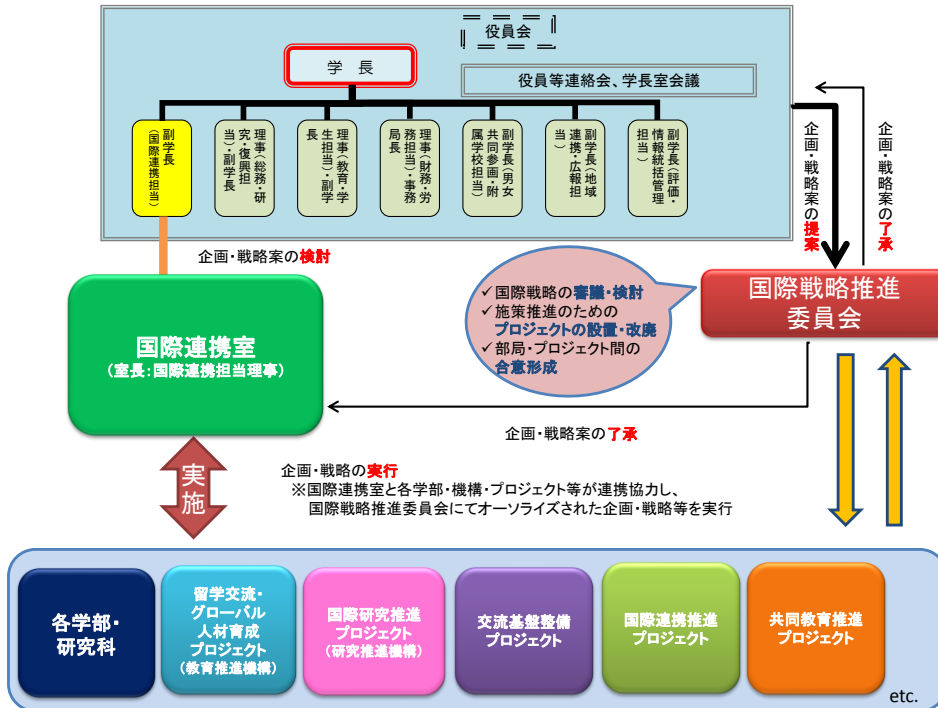
「留学交流・グローバル人材育成推進」「国際研究推進」など、運営を別の委員会等に付託したプロジェクトについては、基本的には中期計画、年度計画に盛り込まれた内容を中心にしてその推進を図る。

他のプロジェクト（交流基盤推進、共同教育推進、特色型国際連携推進）についても、各プロジェクトにおいて中期計画、年度計画対応を着実に行いつつ、計画に盛り込まれていない新規事項についても必要に応じて検討・実施を行う（次年度以降はこうした事項についても可能な限り中期計画・年度計画と連動させる）

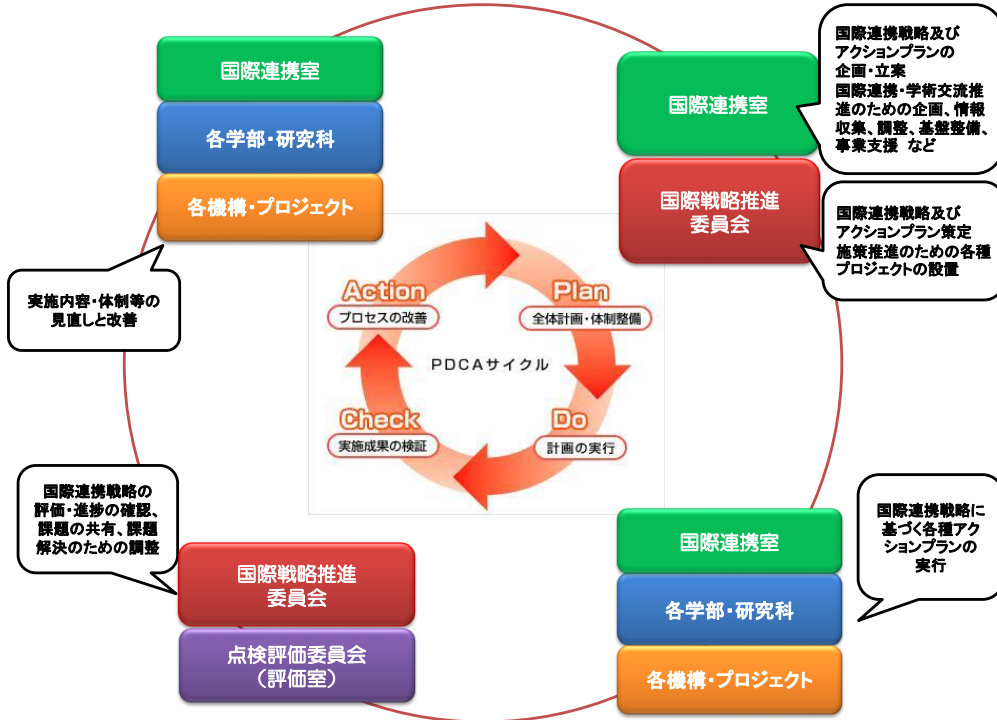
#### 2.4 各アクションプランとの整合性の確認・評価検証等について

- ・各部局及び各プロジェクトでの国際連携戦略関連事業の実施状況については、基本的に中期計画・年度計画の達成状況等と連動させた上で国際連携室において取りまとめ、点検評価委員会（評価室）と連携しながら各国際連携戦略及びアクションプランとの整合性の確認や検証等を行う。
- ・その検証結果を国際戦略推進委員会にフィードバックし、その評価（Check）を行い、その上で翌年度以降の中期計画・年度計画等に反映させるなどしながら行動指針を決定する（Act）。

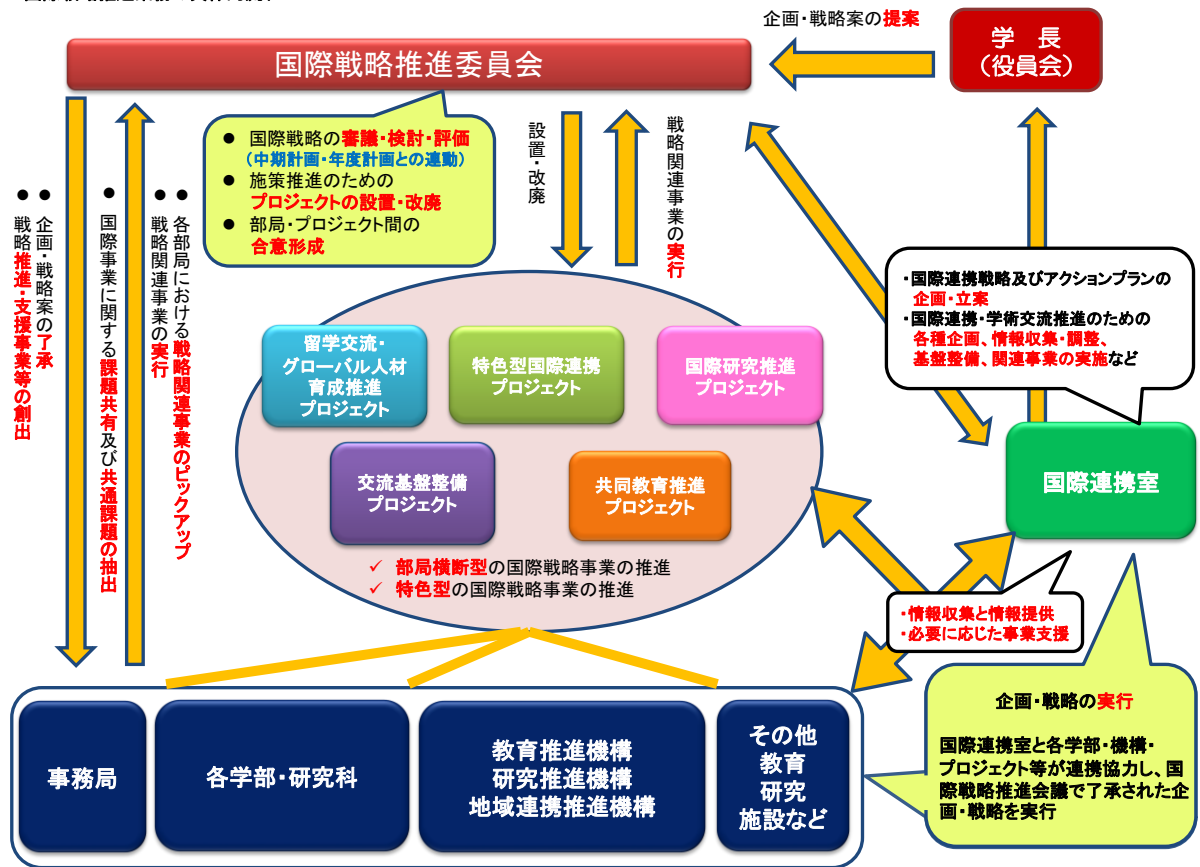
国際連携室及び国際戦略推進委員会の構成



国際連携戦略推進のためのPDCAサイクル



国際戦略推進業務の具体的流れ



報告:国際課・石沢友紀

## 米国アーラム大学サイスプログラム関連事業

### 1. 2015 年度サイスプログラム概要

岩手大学では米国インディアナ州にあるアーラム大学と 2003 年 8 月 11 日に学術協定を締結し、2005 年度にはさらに学生交流の覚え書きを交わした。本学はアーラム大学が毎年盛岡市に学生を派遣して実施するサイスプログラム(SICE: Studies in Cross-Cultural Education)に対して以下の支援を行っている。

(1)サイス学生に対する日本語教育の提供

(2)サイスプログラムの引率教員がサイス参加学生に対して授業を行う教室の提供

また、サイスプログラム参加学生は岩手大学の学園祭である不来方祭でも留学生会と協力して模擬店を出すなどして、岩手大学学生と連携しながら大学行事にも参加している。今年度のプログラムの概要は以下の通りである。

受け入れ期間:2015 年 8 月 24 日(月)～12 月 3 日(木)

参加人数:5 名

### 2. ハローパーティー

岩手大学生とサイス学生との交流の場を提供する目的で、ハローパーティー(日英での交流)を行った。

日時:10 月 8 日(木) 16:30-18:00

### 3. English Camp

アーラム大学サイスプログラムと岩手大学の共同事業として、English Camp を実施した。詳細については本報告書「地域への支援事業」を参照。

### 4. 学内留学

サイス学生は引率教員の専門分野の講義をアーラム大学の教育プログラムの一環として英語で受講する。岩大生の英語能力向上に資する為岩手大学とサイスプログラム担当者との協議して、若干名の岩大生がサイスプログラムの引率教員の講義を聴講できることとなり、岩手大学ではこれを「学内留学」と呼んでいる。履修学生には現在は単位認定を行っていないが、国際交流センター長より修了証書を授与し、アーラム大学から成績評価が本人に送られる。今年度は教育学部3年生と修士課程1年生が履修した。

## 5. アーラム大学サイスプログラム引率教員による特別講義

サイスプログラムの受け入れ期間中に一度、引率教員は国際月間の事業として専門分野に関連した特別講義を実施した。今回の講演は「食育運動：日本とアメリカ」であった。

報告：尾中夏美

## カナダ・サスカチュワン大学グウェナモス・センター教員による

### アクティブラーニング短期集中研修開催

講師:Dr. Tereigh Ewert-Bauer、Dr. Kim West(サスカチュワン大学グウェナモス・センター講師)

参加者数:

事前研修:合計6名(工学部准教授 1名、教育推進機構准教授 1名、非常勤講師 2名、教育学部修士課程 1名、国際連携室准教授 1名)

研修:合計13名(農学部准教授 2名、工学部准教授・助教各 1名、グローバル教育センター准教授 1名、非常勤講師 5名、教育学部修士課程 2名、国際連携室准教授 1名)

研修日程:平成27年度3月24日、25日、28日、29日の実質4日間

#### 1. 概要

平成27年度3月24日～30日にかけて、英語による授業の実践に関心を有する本学教員及び大学院生の教育力向上を図ることを目的として、本学有力協定校のカナダ・サスカチュワン大学グウェナモス・センターより、カナダ人講師2名を招聘し、英語によるアクティブラーニング短期集中プログラムを実施した。また、研修直前の3月17日には本学国際課のジェーン・テラシマ特任准教授による事前研修を実施した。今回の研修では、学生の授業テーマへの関心をかき立てるための B(Bridge-in)、学習目的と学習成果の提示 O(Objective)、学習テーマに関する予備知識の確認 P(Pre-assessment)、積極的な授業への参加による学習 P(Participatory Learning)、学習達成の評価の P(Post-assessment)、学習内容の要約 S(Summary)の6つを授業の構成要素とするBOPPPSモデルを活用した授業アウトラインの作成法や、学習評価のための理論、アクティブラーニングの方法と技術、参加者の教育理念の明確化や整理および反省的活用などの実践を通じて学習した。研修2日目および4日目には、与えられたテーマにつき、学習したアクティブラーニングの技法を用いて、それぞれ5分間の授業を実践するという「マイクロティーチング」を体験し、アクティブラーニングの理論と技法を身につけた。そのほか、反転授業、参画型の授業・議論の様々な技法、カードを活用した教育理念と教育法の整理、評価のための様々な方法を参加者同士の協力と活発な議論を通じて学習した。

今回の研修の授業および参加者によるアクティビティーはすべて英語で行われ、日本語が堪能なネイティブスピーカーの教員も複数参加したことにより、英語によるコミュニケーション実

践のよい機会となった。また、マイクロティーチングは英語での授業の実践の場および教育法のプロや教員の同僚によるフィードバックの機会が与えられるという貴重な機会であり、参加者からも好評であった。

## 2. 研修内容

### 2.1 事前研修

アクティブラーニングの基本および英語による討論のルールを紹介し、議論の技法を参加者同士で練習

### 2.2 短期集中研修

1日目:自己紹介、コースの概要説明、BOPPPSによる授業計画作成など

2日目:マイクロティーチングの実践(1)、評価の方法の学習など

3日目:アクティブラーニングの技法の実践(ジグソー法、金魚鉢法など)

4日目:マイクロティーチングの実践(2)、コース全体の総括



ジェーン・テラシマ特任准教授による事前研修



Kim West 講師による集中講義の様子



Tereigh Ewert-Bauer 講師による集中講義の様子



参加者による「金魚鉢法」実践の様子





研修 3 日目、学長が研修会場を訪れ英語でスピーチ



講師・参加者で記念撮影

報告:国際連携室 石松弘幸

## 平成 27 年度 岩手大学教員海外派遣事業

### 1. 事業概要

今年度、岩手大学の若手・中堅教員を海外の大学・研究機関に派遣し、国際的な視野を持った教員を育成することを目的として、教員自らが研修先及び研修内容を自由にアレンジする、「自由選択型」と、本学の協定校(カナダ・サスカチュワン大学及び中国・清華大学)で研修を行う「協定校連携型」による教員海外派遣事業を開始した。二回の募集及び選考を経て、第 1 回派遣(平成 27 年度 9 月～1 月)では計 5 名が、第 2 回派遣(平成 27 年度 12 月～3 月)では、計 4 名の派遣が決定した。本事業は、国際交流に積極的な教員へのインセンティブ付与や、教員の国際業務能力向上の機会を提供し、教員一人ひとりの国際化への意識を高め、岩手大学のグローバル化を推進することを目的としており、派遣された教員は、本事業への参加後、派遣先の大学・研究機関の研究者との交流推進に寄与するとともに、岩手大学が実施する国際関係事業に積極的に参画することが期待されている(別紙「募集要項」参照)。

### 2. 協定校連携型プログラムの概要

#### 2.1 サスカチュワン大学(カナダ)

●概要: サスカチュワン大学(以下サス大)グウェンナ・モス・教育効果研究センター(以下 GMCTE: <http://www.usask.ca/gmcte/>)が実施している教育法のコースを受講し、教育法の実践と応用を学ぶため、サス大で通常行われている授業を聴講することを通じ、自らの担当科目を英語で教育するための技術を修得する。

●開始時期: 研修希望者は、2015 年 9 月もしくは 2016 年 1 月のいずれかの時期に渡航し、3 ヶ月の研修期間中、以下の GMCTE が開講しているサス大の教員・大学院生向けの教育法訓練コースに参加。研修期間中は、サス大付属の語学学校において自己負担で英語コースを履修することにより英語力を強化することができる(IELTS テストで総合スコア 6.5 程度の水準をクリアしていれば、語学学校で英語コースに参加せず、GMCTE の教育法コースへの出席及び他の授業の聴講のみとすることも可能)。

#### 2.2 清華大学(中国)

●概要: 清華大学の短期研究者受入プログラムに参加し、清華大学対外漢語文化教学センター(International Chinese Language & Culture Centre)で中国語及び中国文化を習得すると共に研究交流を行う。日本語・日本事情関連分野の場合、清華大学日本語学科で授業(有償)を行うことも可能。清華大学には、英語による大学院修士課程もあり、英語による研究交流及び授業体験も可能。語学以外の専門分野での受け入れは、博士

号取得済みで3～5年以上の教育経験を有することが条件。語学での受け入れは、修士以上で教育経験を有することが条件。

●開始時期:9月～11月。英語で開講される授業の受講や、日本語学科での授業を担当することを通じ、専門分野の教育力向上が期待できる。また、中国語能力をすでに有する教員は、中国語での授業体験も可能であり、中国語による教育力強化が見込まれる。清華大学には准教授以上の教員が3,000人以上在籍し、優れた研究実績を有しているため、研究分野における人間関係構築も期待できる。3ヶ月に亘り、清華大学・対外漢語文化教学センター(International Chinese Language & Culture Centre)で、自らのレベルに応じた中国語コースを受講し、中国語力を向上させると共に、各研究室での研究交流や授業の聴講を通じて、教育法の実践や応用についての理解を深める。参加者は、大学院で開講されている英語による授業の聴講も可能。

### 3. 派遣実績

#### 第1回派遣(平成27年度 9月～1月: 計5名)

教育学部 宮川洋一 准教授(協定校連携型・サスカチュワン大学:9月～12月)

教育学部 木村直弘 教授(協定校連携型 派遣先:中国・清華大学:9月～1月)

人文社会科学部 海妻径子 准教授(自由選択型 派遣先:フランス・ボルドーモンテ  
ーニュ大学:9月～1月)

工学部 明石卓也 准教授(自由選択型 派遣先:米国・カリフォルニア工科大学:  
9月～12月)

工学部 盧忻 助教(自由選択型 派遣先:カナダ・アルバータ大学:9月～10月)

#### 第2回派遣(平成27年度 12月～3月: 計4名)

人文社会科学部 松岡勝実 教授(協定校連携型・サスカチュワン大学:1月～3月)

理工学部 會澤純雄 助教(協定校連携型・サスカチュワン大学:1月～3月)

理工学部 山中克久 助教(協定校連携型・サスカチュワン大学:1月～3月)

農学部 佐々木 淳 助教(自由選択型・ルイジアナ州立大学:12月～3月)

### 4. 報告会

平成28年3月9日、本事業の第1回実施分報告会を開催した。事業参加者は、派遣の概要、派遣の成果(派遣国・機関に対する教育分野の理解促進、外国語等による講義実施の検討状況など)、成果の還元(岩手大学の国際交流活動へ貢献できると考える点、教育内容・方法の改善についての提案、大学が実施する国際関係事業への積極的な参画、自主的な研修会の企画など)、事業に対する意見等につき各20～30分ずつ報告を行った。また、同報告会には岩淵明学長も参加し、報告会終了後には、事業参加者、学長、国際連携室長、国際連

携室職員が今後の本事業のあり方や岩手大学の国際連携のあり方につき自由に意見交換を行った。

### 報告会の様子



報告:国際連携室・石松弘幸

## UURR プロジェクトー平成 27 年度事業ー

### 1. 趣旨

UURR プロジェクト(両大学が核となって地域間交流促進を図る事業)は、平成 15 年度に開催された「2003 年日中中小企業技術製品交流懇談会」(中国・清華大学をパートナーに杭州市において開催)が端緒となって開始され、平成 17 年度には大連理工大学との学術交流協定の締結、翌平成 18 年度には大連理工大学内に「大連理工大学・岩手大学国際連携・技術移転センター」(以下、「センター」という)が設置された。その後、大連理工大学(中国大連地域)と本学の研究成果の技術移転を主目的とした鑄造分野における技術移転、IT 分野での国際共同研究、研究者交流、学生交流、さらには日本貿易振興機構(ジェトロ)の支援による企業交流などの実績をあげてきた。

しかしながら、社会情勢の変化に伴い、両大学の連携のあり方について、技術移転を超え、イノベーションをもたらす国際共同研究の実施と、その成果を活用した両地域の産業振興や地域活性化や国際的な産業技術人材の育成といった、国際連携の新たな展開を試みる段階に至っている。

そのため、平成 24 年度には同センターを「岩手大学・大連理工大学科学・技術連携センター」として改変し、これまでの交流を通じて構築された同大学との相互理解と人的ネットワークの深化や、岩手県及び関係自治体の大連地域との交流実績を踏まえつつ、同地域を対象とした UURR プロジェクト事業の展開を目指していくこととなった。平成 25 年度には「アジア国際金型教育研究コンソーシアム」が結成され、加盟大学を含めたアジア地域における金型教育及び研究交流が強化された。平成 26 年度には、「工学部研究高度化・グローバル化特別対策室」の尽力により、医用生体工学・生体材料学分野での研究打合せ・講義等が実施されるなど、新たな分野における交流拡大が図られた。

また、大連理工大学及び韓国 HANBAT 大学校との3大学間で平成 20 年度以来、毎年開催されてきた国際産学官連携シンポジウムに、平成 25 年度からマレーシア・パハン大学も参加することとなった。平成 26 年度、韓国 HANBAT 大学校で開催された「The Asia Joint Symposium 2014 on Academia-Industry Cooperation and Die & Mold Technology」において、産学官連携及び金型分野での連携が強化された。

さらに平成 26 年度には、大連理工大学との交流に特化していた UURR プロジェクトを他分野・他地域に拡大することを目的として、平泉世界遺産教育分野における「世界文化遺産の保存・管理・教育普及に関する検討会」が開催され、岩手大学、岩手県教育委員会、曲阜師

範大学、山東省文物考古研究所、曲阜市孔子研究院の関係者が、世界遺産の保存管理及び世界遺産教育のあり方に関する報告を行い、今後の課題について認識を深めた。

## 2. 平成 27 年度事業報告

平成 27 年度においては以下の事業を実施し、新たな展開が図られた。

### 2. 1 大連理工大学関連

10 月 19 日に本学より岩渕明学長、上村松生副学長及び職員 1 名が中国大連理工大学を訪問し、郭東明大連理工大学長と会談を行った。その後、大連理工大学生命科学・技術学院及びソウトウェア学院、金型企業の視察を行い、両大学の今後の研究交流及び学生交流につき意見交換を行った。

1 月には上村松生副学長が日本学生支援機構の事業の一環として、中国大連理工大学、吉林農業大学、吉林大学を訪問し農学分野における研究交流を行った。

3 月 24 日、25 日に大連理工大学生命科学・技術学院の教授 2 名が本学を訪問し農学部教員と研究交流を行った。また、平成 28 年度、本学で開催予定の UURR シンポジウムで農学分野のセッションを設けることにつき、本学農学部及び吉林農業大学、大連理工大学より了承を得た。

### 2. 2 日中韓馬4大学連携事業

8 月 18 日、19 日マレーシアパハン大学を会場に開催された「ASIA JOINT SYMPOSIUM: MOULD&DIE IN AUTOMOTIVE ENGINEERING (AJS 2015)」において、「アジア国際金型教育研究コンソーシアム」の加盟大学である中国大連理工大学、韓国国立 Hanbat 大学校、マレーシアパハン大学及び日中馬三大学の呼びかけにより、岐阜大学、天津職業技術師範大学、クアラルンプール大学から合計 60 名の教職員及び学生が参加した。

参加研究者による発表、現地自動車組立工場の視察等が実施され、東・東南 アジア地域における連携校の拡大による国際的学術交流の実現及び UURR 活動の強化が図られた。

本学からは、岩渕明学長をはじめ、工学部教員 2 名、工学研究科修士課程学生 1 名、地域連携推進機構教員 1 名、国際連携室教員 1 名、職員 2 名と、岐阜大学工学部教員 2 名、企業関係者 1 名が参加し、うち 6 名 が発表を行った。国際的な舞台で研究成果を発表することは、今後ますます必要となることが予想されるため、本学工学部より参加した修士課程の学生の将来のためには特に有意義な経験であったと思料される。

会期中、平成 28 年度のシンポジウム開催に関する協議が行われ、岩手大学での開催につき合意がなされた。また、8 月 20 日には、マレーシア岩手大学卒業生同窓会が開催され、現地在住の岩手大学卒業生を通じて連絡が取れた元留学生 60 名のうち 20 名が出席した。本学岩渕学長の挨拶に続き、参加者全員が自己紹介及び近況報告を行い、最後に記念撮影

が行われた。この同窓会を通じて、元留学生は学友との思い出話に花を咲かせ、母校との一体感が醸成されることとなった。(別紙参照)

### 2.3 平泉研究センターを中心とした世界遺産関連事業

8月、本学教員3名、県関係者2名及び岩手県立大学教員1名(合計6名)が中国・浙江省を訪れ、世界遺産西湖の現状調査や関連資産岳飛老廟・霊隠寺、西湖三潭印月を視察した後、8月26日に開催されたUURRシンポジウムに参加した。同シンポジウムは、「12世紀における都城の変容に係る事例検討」及び、「景観を主要素とする世界遺産の保護と課題」の二つのテーマに沿って行われ、現地ではワークショップが開催され、「西湖」と平泉の影響評価の現状と対応策の検討がなされた。また、同ワークショップでは保存管理に係る条件等において類似点がある「平泉」と中国の世界遺産(曲阜や西湖)の比較検討が行われ、特に「平泉」については、これが内包する価値として、抽象的な「浄土」の概念が含まれるため、その価値伝達の媒体となる周辺環境の保護の重要性につき議論がなされた。また、平成28年度の同ワークショップの本学での開催が確認された。

### 2.4 その他連携事業

- ・6月9日～15日、上村松生・副学長及び西田文信・人文社会科学部准教授は、岩手県雲南・上海訪問視察団員として、雲南省を訪問した。この際、第3回中国南アジア博覧会への出席、現地企業の視察を行い、岩手県と雲南省の経済面における連携についての理解を深めた。また、雲南の高等教育機関、雲南民族大学を訪問し、本学との研究交流・学生交流の連携可能性を模索した。農業を中心とする雲南省と岩手県には共通点が多く見られ、中国側が経済政策の一環として推し進める多様性の尊重は、今後岩手県にとり、学すべきものがあることを確認した。
- ・11月10日に岩手県が台湾で主催した「岩手県復興報告会」に本学教職員4名が出席し、本学の復興に関する取組等の報告を行うとともに、台湾における産学官関係者との交流を行った。11日の高雄市での留学生OB・OGとの懇談会及び12日の高雄師範大学などの協定校訪問を通じ、当地において、今後国際的連携を推進していくための基盤を形成することができた。
- ・11月17日～22日、本学農学部教員2名が岩手県主催の岩手県雲南省農学シンポジウム派遣団員として雲南省を訪問した。この訪問では、農業シンポジウムへの出席、雲南省農業科学院・雲南農業大学等の施設視察を通じて、雲南省における農業の実態及び現地農業技術者の研究内容につき理解を深めた。

報告:国際連携室・石松弘幸、国際課・崔華月

## グローバル化推進のための各種交流基盤整備について

国際戦略推進委員交流基盤整備プロジェクトでは、平成26年度に「グローバル化推進のための交流基盤整備アクションプラン」を策定し、平成28年度までの達成を目標に、ハード・ソフト両面においてグローバル化推進基盤の整備・強化を図るとともに、中期計画・年度計画との整合性を図り、実現のための予算獲得に努めることとした。

同アクションプランに基づき、平成27年度には以下の取組を実施した。

### 【プラン1】 表示物・掲示物・ホームページ等の日英複言語化

現状	アクションプラン	備考
キャンパス内の表示物の英語表記が不十分	広報室等との連携により、翻訳等を専門とする英語ネイティブ人材を確保し、表示物、掲示物、ホームページ等の日英複言語化を推進する。	左記人材の人件費について、平成26年度～27年度は運営費特別経費「学長のリーダーシップの発揮を更に高めるための特別措置枠」を充当する。
ホームページや広報誌の(英語版)の内容が不十分		
学内規程や手続き書類など、学内文書の複言語化が不十分		

#### <平成27年度の取組>

・「岩手大学 組織等英語表記一覧」を新たに作成し、学内の組織・役職の英語名について、改組後の新組織も含めて統一化を行った。また、本学の協定校であるアラム大学の協力により英語ネイティブスタッフを国際連携室特任教員として採用し、全学及び各部局で作成している文書・パンフレット、改組後の新カリキュラム科目等の英訳を集中的に実施した。これらの取り組みによりグローバル化推進のための基盤整備が進行した。

・「岩手大学国際交流に関するホームページ」について、日英中韓4言語のページをそれぞれリニューアルした。

また、Facebookでのニュース配信内容の一部を英語でも配信した。

### 【プラン2】 グローバル化に対応した教職員のFD、SDの推進

現状	アクションプラン	備考
国による在外研究員制度が廃止され、サバティカル制度	・本学独自の海外FD制度を導入する。派遣期間中に協定	左記人件費について、平成26～27年度は運



以外に教員の海外研鑽機会が少ない。	校など外国の大学等における講義等を実施することで、英語による授業能力を身につけ、帰国後、その成果を本学の講義等において還元する。	営費特別経費「学長のリーダーシップの発揮を更に高めるための特別措置枠」を充当する。
英語による授業ができる教員が不足している。	・協定校等から外国人教員を一定期間本学に招へいし、授業・講演を実施することにより、英語をはじめとする外国語による授業・講演の受講機会を拡大する。	
外国語コミュニケーション能力やグローバル化対応力のある職員が不足している。	協定校等で実施する学生海外研修への帯同や、研修運営を含めた海外研修に参加するプログラムを構築し、語学力と企画・研修マネジメント力の両面を養う本学独自のSD制度を構築する。	研修候補プログラムは複数有り。今後条件面で人事課等と要相談。
単なる語学研修に止まらない、インターンシップ型の職員研修を実施する必要がある。		

<平成27年度の取組>

- ・昨年度制定した「岩手大学教員海外派遣制度」により、9名の教員を3～5ヶ月程度海外に派遣し、2月までに帰国した教員4名について、本学教職員を対象に成果報告会を実施した。
- ・派遣制度の研修先として、本学の協定校であるカナダ・サスカチュワン大学、中国・清華大学との連携により、独自の研修プログラムを構築し、上記9名のうち5名の教員をそれぞれの大学に派遣した。さらに、サスカチュワン大学とは職員派遣プログラムも同時に構築し、2名の職員を3ヶ月間派遣した。
- ・カナダ・サスカチュワン大学のグウェンナ・モス教育効果研究センター(GMCTE)より、カナダ人講師2名を招へいし、本学教員及び大学院生11名を対象に、アクティブラーニング短期集中プログラムを、平成28年3月24日～30日に実施した。合わせて国際連携室特任教員による事前研修を実施した。
- ・国内複数大学とのコンソーシアム型海外研修プログラム(アメリカ・シリコンバレー)に職員1名を派遣し、現地でのインターンシップと研修業務支援を行う、海外SD研修を実施した。

- ・国際連携室特任教員を活用し、職員向けにレベル別の語学研修を実施し、22名の職員が参加した。

【プラン3】 グローバル化に対応した学生宿舎の整備

現状	アクションプラン	備考
交換留学生の増加等に伴い、国際交流会館など、大学管理の宿舎に入居できない留学生が慢性的に発生している。	新たな宿舎の確保に向けて、施設整備費補助金のみならず、借入金やPFI、定期借地権など、適切な施設整備方法について早急に検討し、整備に着手する。	宿舎の確保については、財務部と連携を密に図り、今後の施設整備計画や、財務委員会など適切な委員会において継続的な審議を図る。
宿舎提供義務のある交換留学生の受入施設として、一部大学負担によりアパートを借り上げているが、対象学生の増加により、その借用コストが年々増加している。	民間業者等と交渉し、留学生と日本人学生との交流促進等に適切な借り上げアパートの確保に努める。	
既存の学生寮について、既に日本人学生との混住化が進んでいるものの、経済的理由による入居者選考をしていることや、寮自治が必ずしもグローバル化に対応したスタイルでないため、実質的な交流が図られていない。	新たな宿舎は、国際交流を主目的とした入居者選考等を実施し、その設備等についても、留学生と日本人学生の交流が促進される形態とする。	

<平成27年度の取組>

- ・日本人・留学生に止まらず、教職員や地域の社会人も居住可能な宿舎について構想し、施設整備概算要求を行った(結果不採択)
- ・9月より民間アパートの借り上げを実施し、国際交流会館で不足した居室の補填として中国及び韓国の協定大学からの交換留学生に提供した。一部については、留学生同士のシェア型の入居も試行した。併せて、各居室に暖房器具設置などの環境整備を行った。
- ・借り上げを行った10室のうち、入居のキャンセル(留学生本人の自己都合によるもの)が1室発生したため、提供居室数は9室となり、必要居室数に対し、不足なく、安定的に供給することができた。

【プラン4】 キャンパス内における「仮想海外空間」の創出

現状	アクションプラン	備考
国際交流イベント等について、留学生中心のイベントが多く、日本人学生の参加が限定的である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内スペースの一部(学生センターのエントランスホールやフリースペースなど)を「仮想海外空間」とし、常態的に外国語が飛び交う環境づくりや、同空間において各種交流イベント等を実施する。</li> <li>・「Global Mileage 制度」を導入し、学生の外国語学習意欲や各種国際交流に対する参加意欲を高める。</li> </ul>	仮想海外空間の創出について、生協や民間業者等とのタイアップが図れるか検討する。
常態的に英語など外国語を話す機会が少なく、コミュニケーションツールとしての外国語を身につけるモチベーション喚起が十分でない。		
海外留学等の前提として、海外を身近に感じる機会や留学生と日本人学生との交流の機会が少ない。	国際キャンパス構想に関するグループワークなどを含めた授業等を実施する。また、国際交流等を主目的としたサークル等の整備、コーディネートを推進する。	既存のサークルや学内カンパニーなど、学生有志団体との積極的な連携を図る。

<平成27年度の取組>

- ・学生センターB 棟のフリースペースを多言語・多文化交流空間とするため、教職員及び学生による検討チームを作るとともに、学生へのアンケート調査を実施するなど、その活用法について検討を開始した。
- ・上記フリースペースに加え、グローバル教育センター教員室を多言語・多文化交流や関連する演習等が実施できるように改修し、次年度以降「Global Village」として運用することを決定した。

【プラン5】 国際戦略推進に関する各種調査等の徹底

現状	アクションプラン	備考
大学の国際戦略やアクションプランについて、学内外に十分な浸透がなされていない。	「岩手大学国際連携戦略」や「スーパーグローバル大学創成支援事業」構想を基に、岩手大学としての今後のグローバル化推進プランをわかりやすい形で公表する。	第三期中期目標・計画にその内容を反映させる。
戦略的にグローバル化を進める際の各種根拠データが不足している。	留学生在籍学部等調査、帰国留学生のフォローアップ調査、日本人学生の留学動向調査、協定校	国際連携室を中心に、各種データの分析と提供を徹底する。

	希望調査、交流協定実績調査、教職員の意識調査など、グローバル化推進に係る各種調査を定期的 に実施し、国際戦略推進のための 根拠データを収集・分析する。	
各学部・学科・研究科ごとの グローバル化推進プランが 明確になっていない。	上記データを詳細に分析し、過去 の傾向や今後の展望等を各学部・ 学科等に示し、今後の各学部・学 科・研究科等におけるグローバル 化推進策を明確にする。	
国際戦略やグローバル化推 進のための補助金等、予算 獲得が十分でない。	政策トレンドや地域ニーズ等との 整合性を図りながら、各種データ の徹底的な分析や部局ごとの国際 戦略を明確にすることで、本学全 体としての国際戦略の推進を具体 化し、グローバル化推進のための 補助金等の獲得に努める。	必要な戦略について は、随時中期計画、 年度計画に内容を盛り 込み、実質的な対応 を図る。

<平成27年度の取組>

- ・「岩手大学国際連携基礎データ」および「第二期における国際連携の成果」をまとめ、国際戦略推進委員会で内容を共有した。
- ・第三期中期目標・計画期間中の全学の国際戦略及びそのアクションプランを策定するにあたり、各部局の推進事項等を反映するため、「第三期中期目標・計画期間に向けた各部局における国際戦略および課題等」に関する学内調査を行い、部局の国際戦略の現状について国際戦略推進委員会で内容を共有した。
- ・上記調査結果等に基づき、「第三期における岩手大学国際連携戦略」を作成し、平成 24 年度に策定した「岩手大学国際連携戦略」を一部変更することについて国際戦略推進委員会で審議し、合意を得た。

なお、具体的な戦略・アクションプランについては、今後国際連携室が各部局とさらに協議のうえ、学部・大学院改組の方向性のすり合わせを行いつつ具体化し、改めて本委員会で審議することとした。

報告：国際課・石沢友紀

## 平成 27 年度 岩手大学における国際交流に伴う

### 危機管理体制構築に関する取組

#### 1. 概要

今日、大学における教育・研究の様々な場面で、グローバル化対応が求められる一方、海外ではテロ、騒乱、自然災害などが頻発しており、海外で活動する学生や教職員への組織としての安全対策が強く求められている。平成 17 年に策定された「岩手大学危機対策要項」及び「岩手大学危機対策マニュアル」においても、国内・海外を問わず危機管理及び危機対策に関して必要な措置を講ずる旨述べられており、国際交流に関する本学の危機管理対応として、平成 23 年には「岩手大学の学生の交流に係る危機管理マニュアル」が作成されている。平成 24 年 5 月に示された「岩手大学の国際連携戦略」では、国際交流における危機管理体制の構築も掲げられており、岩手大学第 3 期中期計画においても国際連携・国際交流における危機管理体制の構築が明記されている。さらに平成 28 年の年度計画においては、「学外機関等と連携した国際連携・国際交流に係る危機管理体制を構築する」ことが挙げられている。この方針に従い、岩手大学国際連携室及び国際課では、平成 28 年 4 月より民間危機管理会社・日本エマージェンシーアシスタンス社(※以下 EAJ)の留学生危機管理サービス(※以下 OSSMA)に加入することとし、主に学生の海外派遣に際して必要な危機管理体制構築に向けて準備を進めてきた。

#### 2. 経緯

- |             |   |
|-------------|---|
| 平成 27/8/28  | EAJ 本社(東京)を往訪し、同社営業部及びリスクマネージメント部担当者より同社の派遣留学生危機管理サービス(OSSMA)の内容に関し聴取 |
| 平成 27/12/1  | EAJ 本社及び埼玉大学国際室を往訪し、EAJ の派遣留学生危機管理サービスの内容及び導入後の感触等に関し関係者より聴取          |
| 平成 27/12/8  | 国際連携室ミーティングで危機管理会社との契約の方向性について確認<br>海外危機管理講演会開催の周知                    |
| 平成 27/12/10 | 各学部、事務局担当者へ現状の説明と講演会開催の周知   |
| 平成 27/12/14 | EAJ 関係者を招き、岩手大学で海外危機管理講演会を実施<br>(岩手大学教職員 25 名が参加)                     |

(1)「海外安全対策と危機管理～外交の最前線での体験から見た勘所～」  
EAJ 海外安全アドバイザー 加藤重信氏(元在ヨルダン大使)

(2)「海外旅行保険の限界を補完し派遣学生に対する危機管理体制整備  
に資する OSSMA の全体像を明確にする」EAJ 江見裕明氏

平成 27/12	学長・副学長会議で危機管理体制整備と危機管理会社との契約方針につき説明
平成 27/1/28	EAJ の OSSMA への加入及び危機管理体制整備の方針を国際戦略推進委員会で決定
平成 28/2/5	危機管理体制整備の方針を国際戦略推進委員会で決定したことを受け、グローバル教育センター会議で学生の海外派遣に適用することについて報告
平成 28/3～	EAJ と危機管理マニュアル作成支援サービスに加入し、教職員向け危機管理マニュアルを整備

### 3. 今後の課題

平成 28 年度には EAJ の OSSMA に加入し、学生派遣の際の教職員向け危機管理マニュアル等の整備と共に学生派遣の増加に伴い必要とされる危機管理体制の構築を図っていくこととなるが、海外研修の引率などを行う教職員の危機管理の充実も必要とされることから、今後は教職員向けの体制整備についても検討を行っていく必要がある。

報告:国際連携室・石松弘幸

## ASIA JOINT SYMPOSIUM: MOULD & DIE IN AUTOMOTIVE ENGINEERING (AJS 2015)及びマレーシア岩手大学卒業生同窓会

出張者:岩手大学教職員・学生及び岐阜大学教員、当地企業関係者合計11名

- 参加大学:大連理工大学・中国(IDUT)、ハンバット大学・韓国(HNU)、パハン大学・マレーシア(UMP)、岩手大学(合計約60名)
- 日程:
  - 8月17日(月)成田空港発・クアラルンプール経由パハン着
  - 8月18日(火)参加大学代表者によるコンソーシアム運営に関する協議、基調講演及び金型・鋳型分野の研究発表
  - 8月19日(水)2グループに分かれ、一方のグループはメルセデス・ベンツ工場を視察、他方のグループは自然博物館の視察に参加。この後、全員で Natural Village Batik に行き、伝統的なろうけつ染めの視察及び絵付けの体験
  - 8月20日(木)岩手大学卒業生同窓会、クアラルンプール発
  - 8月21日(金)成田空港着・解散

### 【所感】

今回のシンポジウムでは、講演及び研究発表のアレンジのみならず、現地企業や博物館の視察の機会が設けられるなど、主催校であるUMPの丁寧な準備や配慮が随所に感じられた。総体的に、国際的な学術交流実現のよい機会となったが、本シンポジウムの核となるべき講演、研究発表、学術交流については、改善の余地も多く見られた。特にこの講演や研究発表の成果が曖昧になるならば、会合に参加する意義事態が不明瞭になり、本コンソーシアムやシンポジウムの安定性が損なわれかねないため、今後は、本コンソーシアムの目的・ビジョンを明確にし、これを達成するための戦略的合理性が見込める会合となるような工夫が必要であろう。

### 1. 基調講演

本シンポジウム参加大学代表者が基調講演を行ったが、本学岩淵学長の講演以外は自学の紹介に終始していた。次回会合では、本コンソーシアム及びシンポジウムの趣旨に沿った講演が実施され、参加者の研究や教育の意欲が啓発されることが望ましい。

## 2. 研究発表

様々な内容につき、日中韓馬の参加大学の研究者が英語で発表を行うことは、発表者及び他参加者にとり、よい刺激となったと考えられる。このような研究発表の国際的な舞台で発表することは、今後ますます必要となってくるものと考えられる。今回は、参加大学の教員のみならず、本学工学部より修士課程の学生も参加したが、将来のために非常に有意義な経験であったと推測される。他方、本シンポジウムは、専門分野の国際学会とは趣を異にするため、専門的見地からは、よりリラックスした内容の発表が多かった旨仄聞しているが、異なった内容の研究発表をきっかけとして他国の研究者と対話と交流の可能性が広がることに本シンポジウムの意義が存するものと考えられる。惜しむらくは、発表後、質疑応答の時間が設けられておらず、公の議論ができなかったことである。今後のシンポジウムでは、発表が一方通行で終わるのではなく、双方向的な議論が実現できるよう工夫する必要がある。

## 3. 現地金型・鋳型関連企業視察

今回は現地のノックダウン生産方式のメルセデス・ベンツ工場を視察したが、日本のトヨタ、日産などの工場と比較し、作業効率等については発展途上にあることは否めないという印象を受けた。しかし、オートメーション化に必要な投資額と比べて、現地で労働者を雇用するほうが費用の面で合理的であることや、北米工場で生産される車両の完成度と比べて、むしろ今回訪問した工場における手作業による工程が多いほうが完成度が優れていることなどにつき説明をうけることができ、マレーシアの特性を生かした工業・経済状況の実例という点から学ぶことも多かった。来年度の岩手大学での会合でも企業視察を計画しているが、参加者にとり日本の特徴的な生産状況を学んでもらえるような企業・工場を検討した上で選定するべきであろう。

## 4. 現地伝統文化視察

今回、UMP 側のアレンジで会合参加者全員が訪問した Natural Village Batik では、現地の伝統的なろうけつ染めに関する実演を視察すると共に、彩色体験を行い、作品はお土産として提供されたが、このような実体験は長く記憶に残るよい記念となる。来年度の岩手大学における会合においても、このような参加型・体験型のエクスカージョンを企画することは異文化理解の観点からも有意義であろう。具体的には参加型のさんさ踊りのパフォーマンスなどが考えられる。

## 5. 同窓会

同窓会では参加者同士及び本学教員と学生時代の懐かしい思い出や近況について会話を楽しんでいた。今回の会合は、本学から参加した教職員及び現地の卒業生・元留学生にとり、再会を果たすよい機会となった。卒業以来、マレーシアに帰国した後も全く会う機会がなかったという参加者もあり、今後も、国外出張の機会を捉え、元留学生との同窓会を実施することは、元岩手大学留学生の一体感醸成に貢献するものと考えられる。



## 6. 2016 年度の岩手大学でのシンポジウムに関する協議

各大学間で思惑が異なり、事前に決めていたテーマや日程についても、今後協議を継続して決めることとなった。コンソーシアムの加盟大学が増加すると、このような調整に大きな困難が伴うであろうことが想像される。ホスト校に大きな権限を与えることやルールを作るなどのガバナンスの工夫も今後必要とされるだろう。

報告：国際連携室・石松弘幸

## アメリカ合衆国アラスカ大学アンカレッジ校(UAA)との国際連携

### (陸前高田共同教育プログラム、大学間交流協定の締結)

アメリカ合衆国アラスカ大学アンカレッジ校(UAA)は学生数約 19,000 人、6 学部、31 の大学院課程を有する、アラスカ州最大の州立大学であり、航空技術に関する米国最先端の研究施設を有し、環境学、天然資源学、極域健康科学、地域医療、生物医学、社会学、経済学、流通・物流など地域学(Community Engagement)に関する特色ある教育研究プログラムを有している。岩手大学と UAA とは、UAA の卒業生で、東日本大震災の際に陸前高田市で犠牲となった元 ALT(外国語指導助手)の故モンゴメリー・ディクソン(Mr. Montgomery Dickson) 氏の存在がきっかけとなり、2013 年から研究者の情報交換や、両大学学生による復興・防災をテーマとした短期被災地研修(陸前高田共同教育プログラム)等を通じた交流を実施してきた。

#### 1. 陸前高田共同教育プログラム

岩手大学学生と UAA の学生のための「2015 岩手大学&UAA 学生の協働学習 in 岩手」を実施した。内容は以下の通りである。

実施期間:2015 年 5 月 9 日(土)～11 日(月)

参加者: 岩手大学生 12 名、UAA 学生 10 名

引率: 岩手大学教員 3 名、UAA 教員 2 名、岩手大学事務 3 名

#### 活動スケジュール

日程	活動
5 月 9 日(土)	気仙大工伝承館訪問、講話
	陸前高田市役所にて菅野義則日頃市小学校長(前陸前高田市学校教育課長・モンティさんの元同僚)との面会
	戸羽太陸前高田市長講話、職員より復興計画等概要紹介
	陸前高田市内視察
5 月 10 日(日)	ノーマライゼーションプロジェクトのためのチーム活動
	発表準備
	チームごとの提案発表会
	交流懇親会
5 月 11 日(月)	国際防災ワークショップセミナー(UAA 学生のみ)
	盛岡市内観光(UAA 学生のみ)

プロジェクトの内容:「ノーマライゼーションという言葉のいらない街づくり」というスローガンの元、日米混合で5チームに分かれて、市の職員と一緒に5つの地区を視察して、改善すべき点を洗い出し提案を日英両言語で行った。

## 2. 大学間交流協定・学生交流覚書の締結

2016年2月15日～16日、岩手大学の上村松生副学長をはじめとする本学関係者がUAAを訪問し、協定書の受け渡しを行うとともに、トム・ケース(Prof. Tom Case)総長をはじめとするUAA関係者と今後の具体的な交流に関する協議や、担当者レベルでの交換留学の条件等の確認、授業や施設の見学などを実施した。この交流協定締結により、人文社会学系を中心とした交換留学などの学生交流や、水工水理学、津波・洪水およびその避難等に関する防災研究を中心とした研究交流のための枠組みが形成された。



2016年2月岩手大学より上村副学長らが  
UAAを訪問し大学間交流協定を締結

報告:グローバル教育センター・尾中夏美、国際連携室・石松弘幸

## 平成 27 年度 がんちゃん国際フォーラム開催

### 1. 第 1 回がんちゃん国際フォーラム



日時:平成 27 年度 11 月 13 日 15:00～16:30

場所:北桐ホール

来場者数:10 名(学生 9 名、教員 1 名)

講師:星秀明 元エストニア共和国駐箚特命全権大使

略歴:1948 年生まれ。東京外国語大学ドイツ語学科卒業。外務省欧州局欧州国際機関室室長、在ペナン総領事などを経てエストニア駐箚特命全権大使(初代)。退職後は株式会社ドートル・日レスホールディングス社外取締役役を経て、現在は成田空港VIP接遇担当大使、外務省参与。

講演概要:星大使は外交官としてのキャリアが長いため、冷戦下のチェコや独立後のエストニアなどでの外交に関する経験を紹介し、異なった地平から日本に関する見解を披露することができると思われる。また、星大使が初代特命全権大使を勤めたエストニアは近年 IT 立国として日本においても脚光を浴びており、IT を含めた小国の生き残り戦略などにつき体験を交えて紹介した。さらに、大使の職を引退した後、その経験を生かし、国内大手企業社外取締役も経験していることから、本学学生に対し、グローバルな経験が生きる公務員としてのロードマップについて議論を行った。会場からは、EU はどこまで拡張されるのか、などといった質問が寄せられた。



## 2. 第2回がんちゃん国際フォーラム・銀河レクチャー

日時:平成27年度11月27日(金) 15:00~16:30

場所:復興祈念銀河ホール

来場者数:36名(学生32名、教員4名)



講師:ハニフィア・ユソフ (Hanafiah Yussof) 博士・マラ工科大学准教授、機械工学部メカトロニクス・計測制御研究センター長、ヒューマノイドロボット・バイオセンシング中枢センター所長 (HuRoBs)、機械工学技術研究所 (i-META) 副所長。

略歴:岩手大学機械工学学士(1998年)、山形大学機械システム工学修士(2005年)、名古屋大学情報科学博士号(2008年)取得。研究分野は、知的ヒューマノイドロボット、リハビリテーションロボットおよびロボットハンド、触覚センサ、バイオセンサー、センサ・フュージョン、触覚バーチャルリアリティ技術とモバイルマニピュレータのインテリジェント制御。

講演概要:ユソフ博士は元岩手大学工学部の留学生・卒業生(機械工学学士)であるが、現在はマラ工科大学の准教授として、自閉症及び身体障害者の子どものコミュニケーション能力獲得を支援するロボット開発に携わっている。この分野のパイオニアとしてのユソフ博士が、専門的知識に基づき、今後の私たちの日常生活における支援ロボット活用の可能性などにつき、主に自閉症及び脳性まひの子どものロボット支援型治療について語った。なお、ユソフ博士は岩手大学工学部卒業生であり、岩手大学在籍時の思い出についても言及してもらった。講演後は、参加者が積極的に質問を行った。

報告:国際連携室・石松弘幸



## 日本留学フェア及び外国人学生のための進学説明会等

### 1. 海外におけるPR活動と情報収集の意義

質の高い留学生を受け入れる為に、海外で行われている日本留学フェア及び国内の外国人学生のための進学説明会等での説明を通じて、本学の認知度を高め、留学希望者に直接大学をPRすることも重要である。また、日本留学フェア等のイベントと関連付けて協定校を訪問し、説明会を実施することで、本学への関心度を増し、質の高い学生獲得につなげる貴重な機会である。留学生の受入のみならず、研究交流に結び付く可能性のある事案について、積極的に学部への情報提供を行い、全学で取り組んでいく必要がある。

### 2. NAFSA2015 への参加

#### 2.1 NAFSA2015 の概要

- (1) NAFSA は国際教育交流を推進する目的で 1948 年に設立された米国の非営利団体。毎年5月に米国で世界 100 ヶ国以上から大学関係者が集う大会を実施。近年の年次大会参加者数は 10 万人を越えており、参加者数は増加の傾向。
- (2) 主催者側発表によると、今回の NAFSA2015 の参加者数は合計 11 万 1400 名。参加者の出身国は 100 カ国以上にのぼり、今回初参加の者は約 4000 人とされている。
- (3) NAFSA 会場のメインパビリオン近くに設置された日本の大学ブース群「Study in Japan」には、合計 45 のブースが立てられ、62 大学 2 企業が参加した。なお、スーパーグローバル大学採択校のほとんどが参加。1 本 5 万円の「桜」、合計 25 本がこの Study in Japan ブースを飾った。

#### 2.2 NAFSA に参加する一般的意義

##### (1) 協定校の開拓

場の勢いや個人的な親しみ、信頼感等を通じて協定校との交換協定などが意外に実現する可能性があるため、協定校開拓などの意図があれば、その効用は見込める。例えば、成蹊大学の参加者からの話では、昨年、NAFSA のネットワーキングレセプションの場で、2 名の北米の大学関係者とコンタクトをとり、協定が実現したとのこと。ビジネスは人との出会いや関係に大きく依存するという側面はインターネット時代においても依然として重要。

##### (2) 情報の収集

一つの場に世界中から大学関係者が集まることで、効率的に業界の様々なレベルの情報を収集することが可能。人的つながりを通じた個々の情報収集のみならず、国内外の各大学

ブースの内容や、訪問者数、雰囲気などを見ることで、人気のある地域や今後のトレンド、宣伝の効果的手法等を「感じる」ことができる。

権限はその人の地位に対応するが、情報はその人との関係の度合いに対応する。人的つながりを通じた情報収集、すなわちヒューミントは依然として情報収集の王道であるが、人脈次第で短期間に限られた場所で、国内外の大学関係者の知り合いと効率的な情報収集が可能。

### (3)ブースを設置することの意義

能動的意義:協定校の開拓のために大学の紹介や商談の場として利用できる。

受動的意義:他の国内大学や国外の大学の動向を、ブースへの訪問者数や関心内容の集計・分析を通じて探るといふ、いわば市場調査のために利用できる。

これらの意義に照らして、費用対効果を考え、ブースを出すか出さないかの意思決定を行えばよい。上記(1)について、特にブースを持つことは大学の信用につながると考えられる(必要な費用を支払って公の場に看板を出しているということ)。

## 2.3 NAFSA 参加の意義

### (1)世界及び日本の大学・教育業界のトレンドを見ることができた。

市場のグローバル化に伴い、教育産業もグローバル化の進展が著しく、国・大学間の競争の激化や、格差の拡大の兆候を見ることができた。今後はさらにこの傾向が強まるであろう、と感じた。

### (2)国外及び国内の人脈構築及び強化を行うことができた。

尾中准教授が国内大学関係者及び教育業界関係者等を紹介してくれたため、これらの貴重な人脈に接し、昨今の情勢等につき意見交換を行うことができた。また、本学協定校関係者と、FD・SD などの事業につき率直に意見交換を行い、協定校責任者の理解と協力を得ることができた。

### (3)様々な分野・レベルでの情報収集ができた。

既述のことに加え、米・英・加など英語圏の大学関係者と意見交換を行い、日本の協定校選定の基準や今後の方向性、日本の大学との交換プログラムのトレンドなどに関する貴重な内部情報を得ることができた(英・ヨーク大学、マンチェスター大学からは、日本から協定校のリクエストが多く、大学のブランドの維持のため、ランクが高い大学との協定は今後も実現の可能性はあるが、そうでないところについては、よほどの利得がない限り考慮しないとのこと。むしろ日本との相互協定は減らす方向で検討しているとのこと。一方、語学研修については、様々な大学からの参加を歓迎する、とのこと。英・ヨーク大学や加・ウィニペグ大学は関西外語大学などとジョブシャドウを組み込んだ留学や研修を実施しており、好評を得ているとのこと)。

## 2.4 NAFSA 参加に関する提言

(1)今回、本学はブースを出さなかったが、ブースがあれば、アポイントメントなしでも来訪者にその場で対応できるという利点があり、混雑する会場において他大学関係者との会場場所と

して利便性が高いよう。また、ブースを出すことは、NAFSA 参加大学としてのプレゼンスを国内外に向けて示し、本学の認知度を向上させることにも貢献するものと考えられる。ミッションの内容にもよるが、1名のみでは対応が困難であり、ブースを出す、出さないに限らず、最低2名の要員は必要と思料。

(2) 今回、たまたま立ち寄ったマレーシアのブースでは、マレーシアに2校しかない獣医学科を擁した大学関係者より、日本での協定校を探している旨申し出があった。このように思いがけず交流協定などにつき打診を受けることもあるようなので、事前に、本学にとり協定が必要(あるいは不用)な大学、地域、ランク等につき整理し、認識を共有しておくことと適切に対応することが可能であろう。

(3) 大学宣伝用のノベルティグッズとして持参したがんちゃん携帯ストラップは、好評であったが、そのキャラクターと岩手大学との連関を認知・記憶してもらうのは困難であるよう。岩手大学を国際的に宣伝するという目的のためには、IELTS や Cambridge English Test などが配布しているような、大学名とその特徴を書いた手提げバッグのほうが有効ではないか。

### 3. 韓国訪問

#### 3.1 日本留学フェア

教員が人文社会科学部から1名、グローバル教育センターから1名、事務職員が2名参加したほか、ブース対応では、韓国籍の在學生と元岩手大学留學生らの応援を得た。

岩手大学のブース来場者は、右表の相談者のほかに、日本語学校・留学あっせん機関等関係者数名の来訪があった。詳細は以下のとおり。

日本留学フェア(韓国)概要	
開催日程	釜山:9月12日(土) ソウル:9月13日(日)
開催場所	ソウル:SETEC 釜山: BEXCO
来場者数	釜山:1,670名 ソウル:2,360名
岩手大学 ブースへの 来訪者数	釜山:31名 (内訳:学部24名、大学院7名) ソウル:66名 (内訳:学部62名、大学院4名)

#### 【主な相談事項】

大学概要	岩手大学の位置、学部構成、教員の専門分野、 岩手の位置、海外からのアクセス、大学の周辺環境について
入試について	入試日程、科目、手続きについて、日本留学試験のボーダーライン、入試に英語成績(TOEFL など)が必要かどうか、私費留學生入試の合格者割合、人文社会科学部の小論文試験のテーマ、渡日前入学制度について
研究生について	出願時期について、専攻の教員情報について
編入について	人社、工学部への編入相談



納付金	授業料、入学料の額、及び免除について、免除される割合
奨学金について	奨学金の種類、受給者数について、申請方法
生活状況	生活費、アルバイトはしやすい環境か
宿舎について	寮の入居状況、家賃、所在地など
就職について	就職率、学部ごとの就職状況について
東日本大震災関連	例年に比べて質問する人が減ってきている

#### 【報告事項】

- 釜山会場は、小雨のためもあり開始直後こそ出足が鈍いように感じられたが、それ以降は人が途切れることなく終日会場は盛況であった。ソウル会場では、開場前から来場者が会場外まで列を作り、終了間際までブース会場は相談を待つ学生等で熱気にあふれていた。
- 国立大学の参加が少ない(134 機関のうち、国立大学が 14 機関)理由もあり、国立大学への進学を希望する学生が多く本学ブースを訪れてきた。
- 例年は、人文社会科学部についての相談者が多かったが、ソウル会場は、工学部についての相談者が一番多く、その次に人文社会科学部、農学部、教育学部となっていた。工学部の場合、渡日前入学制度を実施しており来場者にとってはとても魅力的だった。
- 質問の内容は具体的なものが多く、現実的に日本留学を準備している様子が窺えた。また、高校卒業直後の日本留学を準備している学生や、就職までを視野にいれて日本留学を志望する学生が多く見られるのも韓国の特徴といえる。
- 両会場とも保護者を伴って来場する学生が多いのが特徴で、保護者のみで相談に訪れるケースも見られた。
- 昨年度に引き続き本学から韓国語対応できる教職員 2 名、本学に在籍している韓国人留学生 1 名、旧交換留学生 2 名が韓国語での直接対応や留学体験談を披露することで、ブース対応が多様化できた。

#### 【今後の対応について】

- 韓国での日本留学試験者数は、東日本大震災後の 2013 年から再び増加に転じ、その人数も年々増えている。日本語を含む第二外国語科目が、高校の教育課程における必修科目及び大学修学能力試験の必須受験科目から外れ、日本語学習者が減少しているとはいえ、日本語能力試験の N1、N2 の受験者数は他国に比べ圧倒的に多い。また、韓国においては、4 年制大学卒業者の就職率の低下が続いているため、就職も視野に入れた日本留学が、高校生・大学生にとって具体的な将来の選択肢の一つとして改めて魅力を持ち始めている。
- 来場者の日本語力が高く、日本の国立大学への志願者が年々増えていることから、今後の有力な広報対象である。

### 3.2 韓国明知大学校ほか訪問

フェア前日・翌日には、協定校である群山大学校と明知大学校を訪問し、日本語専門の学生それぞれ約 50 名を対象に岩手県や岩手大学の紹介、交換留学プログラムについての説明

を行った。また、両大学の学生寮を見学し、職員から入居状況、各フロアの設備、管理体制などについて説明を受け、本学から派遣する学生への情報提供と今後の留学生用宿舎の整備事業の参考となった。

#### 4. モンゴル訪問

日時:10月7日(水)～10月12日(月)

訪問場所:モンゴル・ウランバートル(モンゴル国立大学、モンゴル人文大学、モンゴル科学技術大、モンゴル・日本人材開発センター、新モンゴル高校、International School of Ulaanbaatar)

訪問者:役員、工学部教員、国際連携室教員、入試課職員、国際課職員各1名

##### 4.1 協定校等訪問

本学の国際交流支援コーディネータを務める、工学研究科博士課程修了のグンジェー・ゾリーグ氏(モンゴル科学技術大学特任教授)のアレンジにより、モンゴル国立大学、モンゴル人文大学、モンゴル科学技術大学で教員・研究者として働いている岩手大学卒業生を訪問、研究室を見学。モンゴル科学技術大学では理事表敬と工学系人材養成プログラムについて説明を受けた。

###### 【モンゴル国立大学】

School of Engineering and Applied Sciences, Dr. Enkhbayar A., Dr. Purevtsogt Nugjigar 岩手大学 OB(それぞれ今野研究室、千葉研究室)の案内で、研究室を見学。コンピューターを使った、水や炎のシミュレーションを行っている。

###### 【モンゴル人文大学】

Computer Hardware and Software Networking Department, Dean, Dr. Batchimeg S. 岩手大学 OG(千葉研究室)。大学、学部の紹介など。4学部(外国語、国際交流、情報、ビジネス)、5,000人規模で、モンゴルの私立大学の中では2～3番目に大きく、就職率はトップ。情報学部では、グラフィックデザインと環境・エコロジーが人気で力を入れている分野。

###### 【モンゴル科学技術大学】

・モンゴル教育文化科学省 ナムスライ デンベルル氏、アジア科学教育経済発展機構 渡辺穰二氏 M-JEED(工学系高等教育支援事業)日本 ODA によるプログラムで、2014年から9年間でのべ1,000人の工学系人材(高専生・大学生・研究者)を日本に留学させるプログラムの紹介。

・School of Industrial Technology, Head, Mr. Tumenbold Dashzeveg E-Open Institute, Director, Dr. Naransetseg Yadmaa, Vice Director, Ms. Dulmaa Dagvadaash コンピューターグラフィックスを使った研究をしている研究室を見学、デモンストレーションを見せてもらった。1週間前に開かれたオープンキャンパス時には工学部の今野晃市教授ほか岩手大学の教員4名が研究紹介を行ったほか、例年、芸術科学会東北支部が

主催しているアート&テクノロジー東北(メディア芸術領域における優れたアート作品やアート作品の制作支援技術を表彰する総合コンテスト)においてモンゴル人学生の入賞があるなど交流が活発に行われているとのことだった。

・理事 Mr. Tsogtsaikhan Buyantsogtoo(モンゴル議会議長補佐官), 副学長 Batchuluun D. 執行部組織(理事、副学長)の説明。今後力を入れていく分野を、教育から研究、起業へシフトしていきたいと考えていること、大学院生増を目指していることなど説明があった。

#### 4.2 新モンゴル高校等高校訪問

モンゴル・日本センターのアレンジにより、日本への留学者が多い2つの高校を訪問。

##### 【新モンゴル高校】

・新モンゴル学園 ジャンチブ ガルバドラッハ理事長、新モンゴル高校 プレブスレンナランバヤル校長 校舎見学(昨年開講した新モンゴル高専、モンゴル工科大学、小中高)、理事長あいさつ、新モンゴル高校(12年制小中高一貫)校長による概要説明。※生徒数等概要は別添資料

##### 【International School of Ulaanbaatar】

・International School of Ulaanbaatar(1992年設立,生徒数323名,Robert Stearns校長)は、モンゴル人・外国人の子どもに国際的な教育を施すことを目的として設立された。現在、幼稚園から12年生まで、19カ国(日、韓、豪、米、英等)の生徒が在籍しており、うち日本人の数は11名。現在、キャンパスの拡張工事を行っており、今後600名まで学生数を増やすことを予定している。法律によりモンゴル人生徒数の割合は40%、外国人生徒数は60%と制限されている。生徒の親のほとんどは政府関係者や企業経営者。教育で使用される言語は、基本は英語だが、小学校のカリキュラムの中にはモンゴル語・モンゴル文化が含まれており、7年生(※日本の中学生開始時に相当)より5つの言語(独、仏、西、韓、蒙)のうちから第二外国語を選択する。最終学年を卒業した後、ほとんどの学生は米、英、加の大学に進学。年間授業料は、幼稚園:5,000米ドル~36,000米ドル(※パートタイムかフルタイムで異なる)、1~5年生:27,000米ドル、6~12年生:33,000米ドル。生徒の親が学校の運営に関わることが同校の特徴であり、特に日本人の親は積極的に行事等に関わる傾向がある。

#### 4.3 留学説明会、大学個別相談会

主催:在モンゴル日本大使館、独立行政法人日本学生支援機構、モンゴル・日本人材開発センター、モンゴル国立大学、JICA、日本帰国留学生会

参加機関:14大学(国立大学5校、私立大学9校)

総入場者数:1,220名(1日目781名、2日目439名)(H26 1,119名)

日程:午前中は、大使館およびJASSOによる日本留学、国費外国人留学生制度についての説明。午後は各大学によるプレゼンテーション(15-20分)、ブースでの個別相談が並行して行われた。

## 【岩手大学ブース】

来場者: 学生112名(1日目 58名、2日目 54名)、日本語教員(高校)1名

関心分野:

人文社会科学部: 国際コミュニケーション、経営、ジャーナリズム、日本語・日本語教育; 教育学部: 英語教育; 工学部: 建設、再生エネルギー、ナノテクノロジー、ソフトウェア、コンピュータグラフィックス; 農学部: 応用生物化学、森林資源再生

## 【主な相談事項】

奨学金について: 種類(JASSO 学習奨励費・民間)、金額、受給の可能性

納付金: 入学料、授業料、授業料免除について

入試について: 日程、必要な科目、手続方法、日本留学試験の合格ライン

語学要件(日本語能力試験、TOEFL、GMAT など)が必要かどうか(入試には必要なくても、授業を理解するために語学力は必要と、対応)、編入制度(12年(修士は16年)未満の教育課程修了者について個別の出願資格審査について説明)

学習内容: 全て英語で受講できるコース(学科)はないのか(特に修士課程)。関心ある分野を学べる学部・学科があるかについて(MBAはとれるか、日本語教師になれるか)

大学概要: 岩手大学と岩手県の位置、留学生在籍数、国別の留学生数について

就職先: どのような進路があるのか

生活状況: おおよその生活費、アルバイトは探しやすいか、物価(米の値段)

宿舎について: 学生寮の寮費等必要経費、民間アパートの多さ・家賃相場について

研究生について: 研究生になる方法・時期・授業料、出願前に受け入れてもらいたい教員に連絡をとらなければならないか。教員に連絡をしても返事をもらえないが、どうすれば返事をもらえるか

## 【感想】

①全体説明の司会進行、内容はモンゴル語。個別ブースでの説明も多くはモンゴル語通訳が必要だった。1日目は卒業生1名が手伝ってくれたが、通訳だけでなく大学のこともよく分かっているの、次回もあれば依頼した方がよい。センター手配の通訳2名の方(ウンドルマさん、ミンさん)も尽力してくれた。(次回もお願いできるなら経験者がよい)

### ②大学紹介プレゼンテーション

- ・日本語は不要。モンゴル語逐次通訳がついたが、使っていない大学もあった(モンゴル語のみ: 青山学院、名古屋、英語: 国際大学)。時間が節約できて情報量が増えるうえ、OB・OGであれば自分の体験をロールモデルとして紹介できる。
- ・印象に残るプレゼンにするには、特徴を絞り、強み(他の大学にはないところ)、セールスポイント、違いを簡潔に説明した方がよい(日馬富士の奥さんの出身校など)。費用、サポート情報は重要。学部を全て説明する必要はない。

- ・英語で修了可能プログラムを強調(複数大学)、ダブルディグリー(慶應 学部研究科とも)、日本語プログラム(慶應)、デュアルマスター(国際とモンゴル科学技術大学)、学費が安い(名古屋大はグラフで比較)、有名卒業生(国際)、ウェブサイト情報を最後に入れる(複数大学)、Summary slide(国際)、紹介ビデオ:(大阪(使い方によっては Negative にも))、特定の分野紹介:英語コースが学部と大学院両方にある(立命館 政策科学)、特色あるプログラム(副専攻)(東海)、ビザ代理申請(東海)、留学生特別入試システム流れ図(東海)。
  - ・資料はモンゴルセンターが翻訳。ただ、事前に確認させてもらおうと良かった。在学生に確認してもらって学生が聞きたいポイントをインタビューするなど、工夫する余地あり。
  - ・10-15 分の制限時間を守らない大学が多く、説明途中で(飽きて?)会場を出ていく人が何人もいた。
  - ・配布されたスライドの資料でモンゴル語に翻訳されたページは字が小さすぎて見えにくい。プレゼンに興味を持ってもらう→そのままブースへという誘導ができれば、プレゼンでの説明はそれほど詳しくなくてもよいので、短時間でいかに「岩手大学の良さ」を伝えるかが重要。
  - ・iLounge Facebook など宣伝もいいかも。
  - ・OB・OG の就職状況や在籍状況、活躍している先輩からのメッセージ等あるとよい。
- ③ 掲示、配付資料
- ・モンゴル語増やす(日本語不要)、「岩手大学」を強調、現地語資料多めに準備。
  - ・博士は英語可のこと強調。
  - ・他大学では小型プロジェクター、バナー、旗、布ポスター、テーブルクロス、椅子カバー(A4 用紙にプリントしただけでも可・Twitter や Facebook の案内をしているところもあった)、グッズ(消しゴムやペン)。
  - ・HP で事前にモンゴル語概要資料をアップしておけばよかった。
  - ・がんちゃんストラップは大人気、ただ配ただけでは意味があまり伝わらない。大学の情報をもっと発信できるよう、USB 等実用的なものもあるとよい(大学概要や URL リンクのファイルを入れておいて、自動的に再生されるようにしては?)。
  - ・資料を入れる袋を用意している大学が少なかったので、袋を使ってもらって大学名を PR することもできる。
- ④ 場所は、1日目と2日目で変わった。1日目はプレゼン(1階多目的室)、個別相談(2階2部屋分散。1ブースにつき長机1つ、椅子10脚程度(追加可))。2日目はプレゼン(ロビー)、個別相談(1階多目的室)。スペースと通訳人数の関係上、4名以上で同時に説明することは難しい。
- ⑤ 日本留学試験について簡単な内容(受験場所、科目、満点等)を聞かれることがある。ある程度の予備知識(HP で分かること)はあった方がよい。

- ⑥若い学生(高校1, 2年生、中学生)も来場。保護者同伴もあり。教育に関心が高いので、保護者に対するアピールも必要。人とのつながりを重視する国民性。ロコミ大切。
- ⑦アメリカ留学フェア、韓国留学フェアも同日開催。持ち物から、会場を回っている学生もいることが分かった。
- ⑧最終日に全ての大学が参加して反省会が行われた。他の大学で多かった質問や感想などを聞くことができてよかった。

**【今後の対応】**

- ①OB・OGに通訳として手伝ってもらおう。
- ②入試情報や留学生向けのHPなど重要なURLについてはQRコードを一覧にして準備しては？ほとんどの来場者がスマートフォンを持っていた。
- ③高校訪問では、多数の大学で行ったこともあり、校内視察と説明を受けるだけで、こちらの大学紹介をする時間がなかった。ゾリーグさんが理事長と日本留学時代からの知り合いなので、個別に訪問して時間を取ってもらい、こちらからのPRをした方が効果が高いただろう。
- ④興味のある分野を尋ねて、複数の学部や学科に関わるキーワードがあがった場合(例えば食品、環境、医療)、学科やコース名など個人の分かる範囲で判断してしまいがち。学部や学科を横断するテーマ・分野を洗い出し、関係する学科やコースの対応表を作ってはどうか？

**5. タイ訪問**

**5.1 日本留学フェア**

教員が工学部から1名、グローバル教育センターから1名、事務職員2名が参加したほか、現地の国際交流支援コーディネータが参加し、会場においてタイ語で自らの留学経験を紹介するなどの対応をしてもらい、本学に対する来場者の関心を高めることができた。

日本留学フェア(タイ)概要	
開催日程	バンコク:12月13日(日)
開催場所	Bangkok Convention Centre at Central World
来場者数	1,961名
岩手大学ブースへの来訪者数	46名 ※H28.4 研究生として3名入学予定

岩手大学のブース来場者は、右表の相談者のほかに、日本語学校関係者の来訪があった。詳細は以下のとおり。

## 【報告事項】

- ①研究内容の説明と来場者の希望分野とのマッチング。印象的だったのは、環境系(水の浄化など)やエネルギー(材料、化学)分野に興味を持つ学生が多かった。先生方の詳細な研究内容を英語で説明することは難しかったが、工学部の研究高度化・グローバル化特別対策室で作成した英語版の研究資料がとても役に立った。
- ②奨学金に関する質問  
奨学金制度に関する質問が、多くの学生からあった。学部・修士での確実な支援制度がないため、学費や生活費の確保が難しく感じた。裕福な家庭の学生もそれなりにいて、金銭面での心配がない学生もいた。
- ③日本での生活に関する質問
  - ・日本語を少し話せる学生が大勢いた。かなり上手に日本語を話せる学生も数名いた。
  - ・講義が日本語のみで行われるので、講義を受けられる日本語を勉強する必要がある。
- ④その他
  - ・日本留学に興味を持つ学生が多くいるが、一方で、語学力や一般的な学力、経済的なサポートが必要と思われる。
  - ・2016年度から岩手大学に研究生として留学する学生3名(人社1名、工2名)と直接話をする事ができた。

## 5.2 協定校等訪問

### ・サイアム大学(Siam University)

サイアム大学教養学部日本語コミュニケーション学科を訪問した。高田先生、山口先生、西川先生と今後の交流について打ち合わせを行った。主に、交換留学プログラム、サイアム大学の海外インターンシッププログラム・インターナショナルプログラムなどの詳しい内容と、両大学の要望などについて意見交換を行った。

## 6. 外国人留学生進学説明会

### 6.1 東京会場

7月12日(日)、日本学生支援機構(JASSO)主催の「2015年外国人学生のための進学説明会」(会場:サンシャインシティ文化会館)に、グローバル教育センター教員2名、国際課・入試課職員各1名で参加した。

本進学説明会には、184機関が参加し、総入場者数は2,844人であった。

岩手大学ブースを訪問した学ぶ外国人相談者(記帳者のみ)は以下のとおり(その他、日本語学校関係者の来訪があった)。

(1)総計:73名※名簿に記入した学生数(H26年52人、H25年56人、H24年77名)

(2)国別:中国(52名)、ベトナム(6名)、マレーシア(6名)、タイ(2名)、モンゴル(2名)、インドネシア(1名)、ミャンマー(1名)、台湾(1名)、トルコ(1名)、

(3) 学部別：(学部 53 名、大学院 20 名)

人文社会科学部(25 名)(うち大学院希望 4 名)

教育学部(4 名)(うち大学院希望 1 名)

工学部(19 名)(うち大学院希望 5 名)

農学部(15 名)(うち大学院希望 5 名)

(4) 主な相談事項

大学概要：岩手大学の位置、岩手県の位置、周辺環境、就職について

入試について：入試日程、必要な科目、手続きについて

日本留学試験のボーダーライン

英語成績(TOEFL など)が必要かどうか

私費留学生入試の合格者割合(前年度の留学生入学者数)

研究生出願手続きについて

大学院出願手続きについて

納付金：入学料および授業料の額、授業料免除について

授業料免除許可者の割合、授業料免除許可の基準

奨学金について：私費奨学金の種類、金額、受給者数

生活状況：おおよその生活費、アルバイトは探しやすいか

宿舎について：学生寮の設備、寮費等必要経費について

その他の質問事項：盛岡の気候、雰囲気等について

留学生在籍数、各国別の留学生在籍数

オープンキャンパスについて、サークル活動について

(5) 全体的な感想

- ・昨年度より全体来場者数が増え、本学ブースでの相談者数も増えていた。学部入試を希望する学生が7割、大学院を希望する学生が3割だった。学問領域としては、建築、機械、デザイン(美術・工業両分野含む)、経済、国際文化、語学、農学、獣医、環境などの分野を志望する学生の相談が多かった。
- ・前年度同様、日本留学試験での点数のボーダーライン及び英語成績が必要かどうかを質問する学生が多数いた。
- ・前年度同様に今年度も PC や iPad を持ち込み、インターネット上で研究者情報や入試情報を説明した。来場者にも、HP での情報収集方法などをお知らせし、今後自分でも調べることができるように案内した。
- ・大学のアウトラインについて、日英併記のほか中国語、韓国語、タイ語、ベトナム語の全6言語版を用意していたが、日本語学校に在籍し学部受験を目指している学生は、日本語の資料を好んでいた。
- ・オープンキャンパスのチラシも配布し、多くの学生が感心を持っていた。



## (6) 今後の対応

国内最大規模の外国人対象の進学説明会で、東京会場、大阪会場とも昨年を上回る来場者があった。本説明会の対象である日本語教育機関等に在籍する留学生数が増加しているとともに、近年は大学院を目指す学生も増加している。国内での学部生・大学院生獲得強化のため、参加継続の必要がある。

## 6.2 大阪会場

7月18日(土)、日本学生支援機構(JASSO)主催の「2015年外国人学生のための進学説明会」(会場:大阪国際会議場 グランキューブ大阪(3F) イベントホール)に、グローバル教育センター教員、国際連携室教員各1名、国際課職員2名で参加した。

本進学説明会には、138機関が参加し、総入場者数は1,322人であった。

岩手大学ブースを訪問した学ぶ外国人相談者(記帳者のみ)は以下のとおり(その他、日本語学校関係者4名の来訪があった)。

(1) 総計:25名(H26:43名、H25:35名)

(2) 国別:中国(19名)、ベトナム(2名)、インドネシア(3名)、韓国(1名)

(3) 学部別:(学部20名、大学院4名)

人文社会科学部(10名):経営学、観光など(うち大学院希望1名)

教育学部(2名)

工学部(11名):都市計画、機械工学、材料工学など(うち大学院希望4名)

農学部(3名):バイオ、獣医学など

### (4) 主な相談事項

大学概要:岩手大学と岩手県の位置、留学生在籍数、国別の留学生数について

学習内容:関心ある分野を学べる学部・学科があるかについて

(日本と中国との比較をして観光の分野に活かしたい。それを、メディア等でどのように広報していったらいいかを学べるところはあるか。)

就職先:どのような進路があるのか、卒業後に岩手で就職することは可能か

入試について:入試日程・必要な科目・手続き、日本留学試験の合格ライン、

英語成績(TOEFLなど)が必要かどうか(入試には必要なくても、理系では英語論文を読んだりすることが必要なので英語力は必要と、対応)、研究生出願手続き(日本で研究生として学んだ期間は加算できるか)、編入制度について

納付金:入学料および授業料の額、授業料免除について

奨学金について:学習奨励費・私費奨学金の種類、金額、受給の可能性

生活状況:おおよその生活費、アルバイトは探しやすいか

宿舎について:学生寮の寮費等必要経費、民間アパートの多さ・家賃相場について

その他の質問事項:地震は多いのか(日本で地震のないところはないが、盛岡は沿岸から遠く、3.11の時にも被害が最低限だった、と対応)、福島原発の影響はあるのか、盛岡の気候、大学周辺の環境、街の規模など

#### (5) 全体的な感想

- ①文系は経営学やアジア文化、デザイン、理系は機械工学、材料工学など、学びたい分野が明確な上での質問が多かった。
- ②理工学部の研究生になるための指導教員の専門分野について質問が寄せられたが、日英両言語で各教員のプロフィールがネット上に掲載されていたため、回答する際、非常に役に立った。
- ③岩手大や秋田大にすでに進学している友人がいるので、と訪ねてきた学生もいた。
- ④デザインを学びたいが編入できるか、という質問があったが、学部改組後の編入制度になるのでうまく説明することができなかった(詳しいことが決まったらHPでアナウンスする程度)。
- ⑤デザイン性の高い大学のバック(資料入れ用)は目に留まり、PRとしても有効だと感じた。JASSOの担当者も、関西大学のバッグを会場内でよく見るという話をしており、宣伝効果もあると感じた。

#### 【今後の対応】

- ①今後も、タイやモンゴルで留学フェアへの参加が予定されているが、改組に関連する事柄については、事前に十分予習を行ったうえで対応することが必要。
- ②岩手大学に進学してからの学業のことだけではなく、卒業後の進路・就職先についても質問が寄せられたが、このような質問にも具体例を挙げて回答することができるよう、日頃から情報収集をしておく必要があることを痛感した。
- ③地域防災について、岩手は被災地であるために研究が進んでいると認識している学生も(ベトナム人)おり、本学で防災関連の研究について興味を持っている様子であった。地域防災については、今後も本学の強みとして積極的に宣伝し、研究生や大学院生の獲得にもつなげていくことが必要であろう。

## 7. 北東北国立三大学国際交流担当者による日本語学校等訪問

北東北国立三大学国際交流実務担当者情報交換会の一環として、12月11日(木)に盛岡情報ビジネス専門学校の留学生を対象に、北東北国立三大学の進学説明会を行った。秋田大学から2名、弘前大学から2名、岩手大学から2名参加し、それぞれの大学の説明を行った後、三カ所に分かれて個別面談を受けた。

【参加学生数】 11名(ベトナム人) ※H26年度14名、H25年度23名

#### 【報告事項】

- ・盛岡情報ビジネス専門学校での北東北三大学の合同進学説明会は3度目であった。三大学の情報を学生にまとめて発信することができ、大変有意義だった。

- ・各大学20分ずつのプレゼン時間で、大学の概要、入試情報、納付金情報、奨学金情報、住居、留学生関連イベントなどを紹介した。
- ・個別相談では、約1時間の中で、大学毎に分かれて学生から相談を受けた。例年だと工学系を希望する学生が主ではあったが、今年は人文社会科学部の経済分野を希望する学生もおり、各大学バランス良く相談を受けることができた。
- ・盛岡情報ビジネス専門学校の担当教員から、説明会の1週間前に日本留学試験の成績が発表されたが、全体的に成績が良くなく進学を断念する学生もいて、参加者が減った旨の説明があった。

#### 【今後の対応】

本説明会を2年間継続して実施した結果、今年度には三大学とも合格者が出ており、効果が見えつつある(本学には4名入学)。今後も北東北国立三大学国際交流実務担当者情報交換会の一環として実施して行く予定。

## 8. ライセンスアカデミー主催:日本留学フェア(仙台・前橋会場)報告

### 8.1 仙台会場

主 催 進路情報研究センター ライセンスアカデミー仙台支社

日 時 6月18日(木) 10時30分～16時

会 場 TKP ガーデンシティ仙台 アエル 30F「ホールD」

参加機関 13 機関

(国立大学 1(本学)、公立大学 1(宮城大学)、私立大学 1(札幌大学女子短期部)、その他専門学校 10機関)

参 加 者 国際連携室教員1名、国際課職員2名

総入場者数 149人

岩手大学ブース訪問者

① 総計:13名

② 国別:

中国(2名)、ベトナム(2名)、ネパール(6名)、モンゴル(2名)、バングラデシュ(1名)

③ 学部別:

・人文社会科学部(4名):経済学、国際など(うち大学院希望1名)

・教育学部(2名)

・工学部(4名):都市計画など(うち大学院希望2名)

・農学部(3名):バイオ、獣医学など(うち大学院希望2名)

#### 【主な相談事項】

大学概要: 岩手大学と岩手県の位置、留学生在籍数、国別の留学生数について

学習内容: 関心ある分野を学べる学部・学科があるかについて

入試について： 入試日程・必要な科目・手続き、日本留学試験の合格ライン、  
英語成績(TOEFL など)が必要かどうか、研究生出願手続きについて  
納付金： 入学料および授業料の額、授業料免除について  
奨学金について： 学習奨励費・私費奨学金の種類、金額、受給の可能性  
生活状況： おおよその生活費、アルバイトは探しやすいか  
宿舎について： 学生寮の寮費等必要経費、民間アパートの多さ・家賃相場について  
その他の質問事項： 盛岡の気候、大学周辺の環境、街の規模など

#### 【全体的な感想】

- ・年1回・10月に行われている留学フェアを今回から初めて6月に開催し、試験的に行われる進学説明会だった。当初200名以上の来場者を見込んでいたものの、テスト日に当たった日本語学校があり、実際には全体で150名弱の来場者数となった。来場者は、日本語クラスを設置し外国人留学生を受け入れている専門学校が引率者が引率してくる形で、団体で来場・退場しなければならないため、ゆっくりと相談しきれない学生もいた。
- ・相談に訪れた留学生は、2年～3年日本語学校で日本語を学んでおり、来日したばかりの学生以外は日本語のレベルは高いようだった。
- ・岩手大学ブースを訪れた学生13名の内、学部志望は8名、大学院志望は5名。学部志望者はEJU日本留学試験について知らない者も複数いた。大学院志望の学生には研究生制度の紹介や、研究したい分野が定まっている大学院志望の学生には、手持ち資料の学部別パンフレットで教員の研究内容を説明するなどした。
- ・来訪した学生には後日オープンキャンパスのお知らせや、入試要項の情報をメールで送り、実際に出願する意思があるか、可能であれば追跡して検証したい。

## 8.2 前橋会場

主 催 進路情報研究センター ライセンスアカデミー

日 時 7月6日(月) 10時～15時

会 場 群馬ロイヤルホテル 2階 鳳凰

参加者 国際連携室教員1名、国際課職員1名

参加機関 28 機関(16大学(うち国立大学2校)、その他専門学校等 12機関)

※詳細は別添の会場ブース配置図を参照

総入場者数 366人

岩手大学ブース訪問者

総計:18名 ※訪問者全員

国別:

中国(11名)、ネパール(4名)、スリランカ(2名)、インドネシア(1名)

学部別:

人文社会科学部( 7名):経済学、国際など (うち大学院希望 3名)

教育学部( 1名)

工学部( 8名):都市建設、IT など (うち大学院希望 3名)

農学部( 4名): (うち大学院希望 3名)

#### 【主な相談事項】

大学概要: 岩手大学と岩手県の位置、留学生在籍数、国別の留学生数について

学習内容: 関心ある分野を学べる学部・学科があるかについて(ホテル経営を学びたい(ネパール人)、IT について学びたい(ネパール人、バングラデシュ人)、心理学について学びたい(中国人)

入試について: 入試日程・必要な科目・手続き、日本留学試験の合格ライン、研究生出願手続きについて、編入の可能性について(専門学校でホテル経営を学んだが、岩手大学3年次に編入可能か)

納付金: 入学料および授業料の額、授業料免除について、研究生の授業料免除可能か

奨学金について: 学習奨励費・私費奨学金の種類、金額、受給の可能性

生活状況: おおよその生活費、アルバイトの可能性、アルバイト紹介の可能性・探しやすさ

宿舎について: 学生寮の寮費等必要経費、民間アパートの多さ・家賃相場について

その他の質問事項: 盛岡の気候、大学周辺の環境、街の規模など、研究者情報の調べ方

#### 【全体的な感想】

(1)先月仙台で開催された留学フェアに続き、日本ライセンスアカデミー主催の留学フェアへの参加は2回目となったが、今回は雨天にも関わらず前回の参加者(149名)の倍以上の参加(366名)があり、盛況であった。

(2)今回の留学フェアの参加者は、群馬、栃木、東京の日本語学校(日本語学院、富士ランゲージ、東日本国際アカデミー、足利コミュニティー、MANABI 外国語学院)5校からの外国人留学生が主であった。参加の引率者が引率してくる形で、団体行動であったものの、十分に時間がとってあったようで、参加者は余裕を持って各ブースを訪れ、説明を聞いていた。

①相談に訪れた留学生の日本語レベルは、ほぼ初級のレベルから上級程度までばらつきがあった。上級者には日本語で対応したが、必要に応じて中国語や英語で対応を行った。

②岩手大学ブースを訪れた学生18名の内、学部志望は10名、大学院志望は8名。大学院志望の学生には研究生制度の紹介を行った。また、学部・大学院志望の学生には、手持ちの学部別パンフレットで学科での学習内容や教員の研究内容を説明するなどの対応を行った。

③岩手大学ブースを訪れた学生からは、特に岩手大学の学部及び大学院で、都市計画、IT、心理学、日本語教育の学習可能性に関する質問が多く寄せられた。

- ④ 来訪した学生には後日オープンキャンパスのお知らせや、入試要項の情報をメールで送り、実際に出願する意思があるか、前回の仙台での留学フェアのときと同様、追跡して検証したい。
- ⑤ 会場は WIFI がつながりにくく、ホームページを使用しての説明ができなかったため、主催者側にもこの件について申し入れを行った。
- ⑥ 自分が何を学びたいかについて定かでない学生も数名いたが、自分の学びたいことが決まっており、その分野を学ぶのに適しているのであれば、是非岩手で学びたい、と述べる学生もいたため、前者の場合には、こちらから本学の全体的な説明を行うなどの対応を行い、後者の場合には、具体的な学習可能な分野に関する説明を行った。いずれの場合にも、オープンキャンパスで実際に来学することを勧めた。

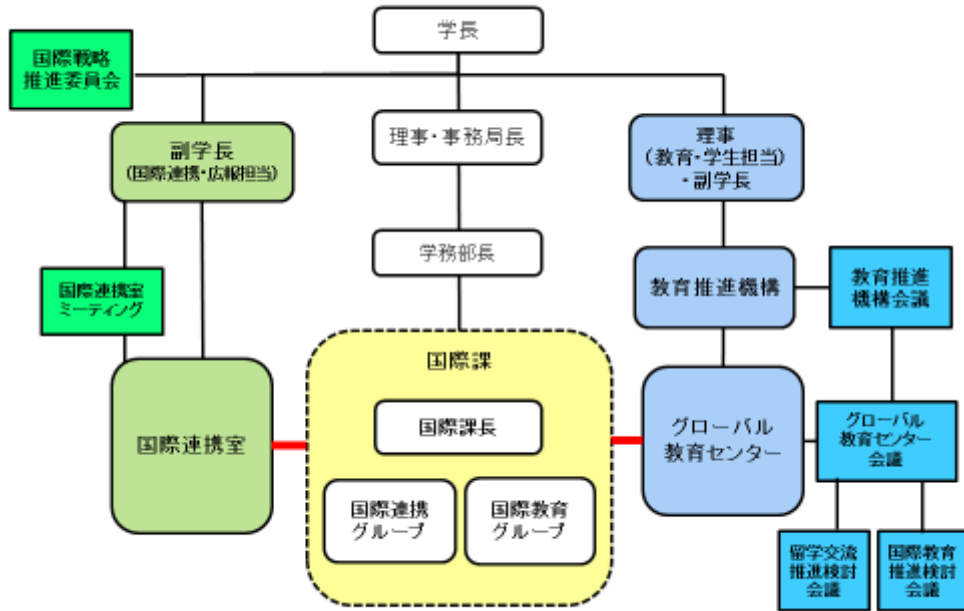
**【今後の対応】**

参加費無料で初めての試みで参加したが、国立大学の参加はごく少数で、国籍によっては、学位取得より専門知識や技術を身につけたい学生が多く感じた。大学また大学院進学を希望する学生が多く在籍している日本語学校(例えば、NIPPON 語学院)をターゲットに、個別説明会または北東北国立三大学国際交流実務担当者情報交換会の一環として説明会を企画したほうが有効だと思われる。

報告：国際課・崔華月

—資料—

国際連携・国際教育関連組織図





## 外国の大学との交流

### Academic Cooperation between Universities/Faculties

平成 27 年 5 月 1 日現在

#### 大学間協定 Universities

国名 Country	大学等名 Name of University	初締結 年月日 First Date of Agreement	主な交流内容 Contents of Exchanges	
			学術交流 Academic Exchange	学生交流 Student Exchange
中華人民共和国 People's Republic of China	曲阜師範大学 Qufu Normal University	2002.9.25	○	○
	北京大学・石河子大学 Peking University Shihezi University	2003.12.5	○	
	西北大学 Northwest University	2003.12.9	○	○
	大連理工大学 Dalian University of Technology	2005.5.23	○	○
	吉林農業大学 Jilin Agricultural University	2006.10.3	○	○
	寧波大学 Ningbo University	2006.10.28	○	○
大韓民国 Republic of Korea	明知大学校 Myongji University	2004.7.13	○	○
	国立 HANBAT 大学校 Hanbat National University	2006.8.23	○	
	全南大学校 Chonnam National University	2009.9.1	○	○
台湾 Taiwan	高雄師範大学 National Kaohsiung Normal University	2011.7.8	○	○
タイ王国 Kingdom of Thailand	サイアム大学 Siam University	2002.7.2	○	○
アメリカ合衆国 United States of America	オーバン大学 Auburn University	1998.11.6	○	
	アーラム大学 Earlham College	2003.8.11	○	○
	テキサス大学オースティン校 The University of Texas at Austin	2004.10.20	○	○
	マサチューセッツ大学ローウェル校 The University of Massachusetts Lowell	2012.2.15	○	○
カナダ Canada	セント・メアリーズ大学 Saint Mary's University	2003.7.31	○	○
	サスカチュワン大学 University of Saskatchewan	2013.3.1	○	○
アイスランド共和国 Republic of Iceland	アイスランド大学 The University of Iceland	2011.2.16	○	○
ロシア連邦 Russian Federation	サンクト・ペテルブルグ国立文化芸術 大学 St. Petersburg State Academy of Culture	2000.3.28	○	○

部局間協定 Faculties

部局名 Faculty in Charge	国名 Country	大学等名 Name of University	初締結 年月日 First Date of Agreement	主な交流内容 Contents of Exchanges	
				学術交流 Academic Exchange	学生交 流 Student Ex- change
Faculty of Humanities and Social Sciences 人文社会科学部	フランス共和国 French Republic	ボルドー・モンテーニュ大学 Université Bordeaux Montaigne	2007.7.6	○	○
	大韓民国 Republic of Korea	群山大学校 Kunsan National University	2011.1.20	○	○
Education 教育学部	中華人民共和国 People's Republic of China	北京大学哲学系(宗教学系) Peking University Department of Philosophy(Religion)	1998.8.21	○	
		清華大学中文系 Tsinghua University of Chinese Languages & Literature	2000.12.15	○	○
		山東工芸美術学院国際交流与合作処 Shandong University of Art and Design Office of International Exchange and Cooperation	2006.5.24	○	○
	イタリア共和国 Republic of Italy	カララ大学 Accademia di Belle Arti di Carrara	2005.10.5	○	○
	アメリカ合衆国 United States of America	ノース・セントラル・カレッジ North Central College	2002.9.6	○	○
	カナダ Canada	ブリティッシュ・コロンビア大学 The University of British Columbia	2001.7.17	○	
Science and Engineering 理工学部	中華人民共和国 People's Republic of China	新疆農業大学 Xinjiang Agricultural University	2003.11.10	○	○
		華南理工大学 South China University of Technology	2004.7.6	○	
		西北農林科技大学信息工程学院 Northwest A&F University College of Information Engineering	2006.8.23	○	○
		西安科技大学計算機科学と技術学院 College of Computer Science and Technology, Xi'an University	2010.9.8	○	
	タイ王国 Kingdom of Thailand	チュラロンコン大学理学部 Chulalongkorn University Faculty of science	2002.1.10	○	
		タマサート大学工学部 Faculty of Engineering, Thammasat University	2014.12.11	○	
		キングモンクット工科大学ラドカバン校理 学部 Faculty of Science, King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang	2014.11.18	○	

理工学部 Science and Engineering	マレーシア Malaysia	マレーシアパハン大学研究イノベーション部門 Department of Research and Innovation, University Malaysia Pahang	2010.6.9	○	
	大韓民国 Republic of Korea	忠南大学校グリーンエネルギー技術専門 大学院 Chungnam National University Graduate School of Green Energy Tech nology	2013.4.8	○	
	モンゴル国 Mongolia	モンゴル国立大学 数学とコンピュータサイエンス学院 National University of Mongolia School of Mathematics and Computer S cience	2007.9.14	○	
		モンゴル科学技術大学 Mongolian University of Science and T echnology	2008.10.29	○	
	バングラデシュ 人民共和国 People's Republic of Bangladesh	バングラデシュ工科大学工学部 Faculty of Engineering, Bangladesh University of Engineering and Technology	2003.12.23	○	○
	フランス共和国 French Republic	ピエール・エ・マリーキュリー大学電気化 学部 Electrochemistry Department of Pierre & Marie Curie University	1997.4.19	○	
	キルギス共和 国 Kyrgyz Republic	キルギス-トルコマナス大学工学部 Engineering Faculty, Kyrgyzstan-Turkey Manas University	2009.10.22	○	
キルギス-ロシアスラブ大学工学部 Engineering Faculty, Kyrgyz-Russian Slavic University		2010.12.1	○	○	
農学部 Agriculture	アメリカ合衆国 United States of America	パデュー大学農学部 Purdue University. School of Agriculture	1996.4.4	○	
	ドイツ連邦共和 国 Federal Republic of Germany	ロッテンブルク大学 University of Applied Forest Sciences Rottenburg	2013.11. 6	○	○
連合農学研究科 Agricultural Sciences	モンゴル国 Mongolia	モンゴル生命科学大学 Mongolian University of Life Sciences	2014. 2.24	○	○
	バングラデシュ 人民共和国 People's Republic of Bangladesh	ダッカ大学生命科学部 Faculty of Biological Sciences, University of Dhaka	2014.11.26	○	

## 岩手大学教員海外派遣事業実施要項（別紙）

平成27年1月22日

国際戦略推進委員会 決定

### 1. 目的

岩手大学の若手・中堅教員を海外の大学・研究機関に派遣し、国際的な視野を持った教員を育成する。国際交流に積極的な教員へのインセンティブ付与や、教員の国際業務能力向上の機会を提供し、教員一人ひとりの国際化への意識を高め、岩手大学のグローバル化を推進することを目的とする。

なお、当該教員は、本事業への参加後、派遣先の大学・研究機関の研究者との交流推進に寄与するとともに、岩手大学が実施する国際関係事業に積極的に参画することとする。

### 2. 期待される効果

- ・岩手大学の国際交流関連事業に積極的に取り組み、大学運営において国際関係業務の核となる人材となる。
- ・教育内容・方法の改善に意識的に取り組み、派遣終了後、岩手大学において外国語等による国際的に水準の高い講義が実施可能になる。
- ・国際理解力、コミュニケーション能力が強化、育成される。
- ・派遣国に対する教育研究分野の理解が促進される。

### 3. 要件

- (1)資格： 派遣年度の4月1日現在、50歳未満の本学教員（附属学校教員を除く）
- (2)派遣期間： 派遣開始は原則として8月1日以降とする。派遣の期間は、3ヵ月から10ヵ月以内の継続する期間とし、承認後の期間延長は原則として認めない。
- (3)派遣期間中の身分： 派遣期間中の身分は、本学教員であり、出張として扱われる。
- (4)派遣者数： 毎年度4名以内
- (5)受入機関： 原則として1カ所とする。申請者本人が選定し、先方の受け入れ許可を得た上で申請することとするが、それが困難な場合は本学協定校から選択するものとする。
- (6)支給経費： 勤務場所と派遣先との往復1回分に係る交通費、及び滞在費を支給する（国立大学法人岩手大学旅費規則による）。ただし、滞在費については、派遣期間が6ヵ月未満の場合日額1万円、派遣期間が6ヵ月以上の場合日額8千円を上限として支給する。その

他、実施にあたり必要となる経費について、教員に配分される研究費等から充てることができるものとする。

#### (7) その他

①本事業は、サバティカル研修との重複申請を認めるが、本事業は教員の「国際業務能力向上」の機会を提供し、その成果を本学の国際関係事業に積極的に還元してもらうことを主目的とした事業であり、「自主的調査研究に専念できる」ことを主目的とするサバティカル研修制度とは目的が異なるため、申請に当たっては留意すること。なお、双方とも採用された場合、重複する期間については一方を辞退すること。

②本事業による派遣期間がサバティカル研修と連続する場合、本事業派遣先とサバティカル研修実施場所の移動にかかる旅費は別途協議により支給する。

## 4. 応募方法

申請時の所属部局を通じて応募すること。

### (1) 申請書類

岩手大学教員海外派遣事業申請書(別紙様式1)

※本事業の趣旨から、帰国後、岩手大学に1年以上在職することが期待されていることを理解したうえで署名すること。

部局長の推薦書(別紙様式2)

※推薦者数は、各部局2名まで。複数の場合は順位も付して連絡すること。

受入機関に関する基本情報

受入機関の同意書

※簡易和訳をつけること。受入機関での身分も明記されていること。

航空賃等の見積書

※内訳記載があるもの。家族で行く場合は申請者分のみのももの。

(2) 提出期限は別途定める。

## 5. 選考

(1) 本事業の目的に照らし、国際連携室による審査のうえ、国際戦略推進委員会において決定する。

(2) 審査結果については推薦のあった部局長に対して通知する。

## 6. その他

(1) 採択された教員は以下の義務が発生する。

①派遣終了後、1ヵ月以内に、「帰国報告書(別紙様式3)」を提出すること。

②派遣終了後、1年以内に、事業報告会にて派遣概要及びその後の業務進捗状況の報告を行うこと。

③派遣終了後、1年経過後に「成果報告書(別紙様式4)」を提出すること。

④派遣終了後、大学及び学部等で企画する国際関連事業に積極的に協力すること。

(2)派遣修了後1年以内に自己都合退職した場合、当該事業にかかる費用について返還を求める場合がある。

(3)本事業による派遣に伴う所属部局における研究上・教育上・職務上の影響を最小限に留めるよう努力すること。

(4)本要項による派遣期間が6ヵ月を超える場合において、当該教員が所属する部署には、その期間の担当授業について必要に応じ、半期2コマ分を上限として非常勤講師にかかる手当を支給する。

## 平成27年度 留学生関係行事

前期	4月	2日(木)	平成27年度前期短期留学特別プログラム等開講式
		2日(木)	履修についてのオリエンテーション、日本語特別コースオリエンテーション
		3日(金)	ライブラリーツアー、キャンパスツアー、留学生オリエンテーション
		6日(月)	国際交流会館オリエンテーション
		7日(火)	岩手大学入学式
		10日(金)	前期授業開始
		22日(水)	ごみの分別オリエンテーション&国民年金手続き説明会
		23日(木)	留学生のための「交通安全教室」
	5月	23日(土)	盛岡・つなぎ間ロードレース大会
	7月	11日(土)	留学生と市民のガーデンパーティー～世界の屋台村～
		27日(月)	平成27年度前期短期留学特別プログラム及び日本語・日本文化研修コース修了式
	8月	5日(水)	フィールドスタディ in 平泉
		5日(水)～9月30日(水)	夏季休業
	9月	7日(月)～11日(金)	交換留学生による美術・デザイン作品展(北東北芸術文化プログラム)
		30日(水)	前期成績発表
		30日(水)	平成27年度後期日本語研修コース、日本語・日本文化研修コース及び短期留学特別プログラム開講式
	30日(水)	日本語特別オリエンテーション、履修についてのオリエンテーション	
後期	10月	1日(木)	後期授業開始
		6日(火)	留学生オリエンテーション
		7日(水)	ライブラリーツアー、キャンパスツアー
		8日(木)	米・アラム大生との交流会
		9日(金)	国際交流会館オリエンテーション
		17日(土)～18日(日)	大学祭
		22日(木)	ごみの分別オリエンテーション&国民年金手続き説明会
		27日(火)	交通安全教室の開催
	11月	27日(金)	OB留学生による特別講演会(工学部出身Hanafiah Yussof マレーシア・マラ工科大学准教授)
	12月	24日(木)～1月7日(木)	冬季休業
	1月	5日(火)～6日(水)	留学生フィールドスタディ in 安比
		14日(木)	フィールドスタディ工場見学 ((株)ミクニ滝沢工場、盛岡セイコー(株)「高級時計工房」見学)
	2月	5日(金)～19日(金)	留学生から見た岩手のいいところ写真展
		16日(火)～2月23日(火)	ヤングリーダーズ国際研修
		14日(日)	中国留学生学友会主催「中国春節祝賀会」
		15日(月)	平成27年度後期短期留学特別プログラム修了式
		24日(水)～25日(木)	三陸ジオパーク・被災地復興視察研修
	3月	23日(水)	卒業式
		24日(木)～31日(木)	春季休業
		31日(木)	後期成績発表

平成27年度海外学生受け入れ・派遣実績

年度	学部等	受入学生数	内訳	派遣学生数	内訳
2015 H27	人文社会科学部	9	韓国: 群山大学 2 韓国: 明知大学 1 仏: ホルトー・モンテーニュ大学 2 露: サンクトペテルブルク国立文化大学 1 アイスランド: アイスランド大学 3	5	仏: ホルトー・モンテーニュ大学 2 露: サンクトペテルブルク大学 1 米: テキサス大オースティン校 1 韓国: 群山大学 1
	教育学部	17	中国: 寧波大学 3 中国: 曲阜師範大学 3 中国: 山東工芸美術学院 3 中国: 西北大学 2 台湾: 高雄師範大学 1 タイ: サイアム大学 1 伊: カラーラアカデミア 2 米: NCC 2	4	米: ノースセントラルカレッジ 1 米: アーラム大学 1 中国: 寧波大学 1 中国: 清華大学 1
	教育学研究科	5	台湾: 高雄師範大学 3 中国: 寧波大学 1 中国: 清華大学 1	0	
	工学部	5	キルギス: キルギス・トリコマナ大学 2 中国: 大連理工大学 3	0	
	農学研究科	3	中国: 吉林農業大学 3	0	
	グローバル教育センター	2	カナダ: セントメアリーズ大学 1 米: テキサス大学オースティン校 1		
	合計	41		9	



岩手大学海外派遣・留学プログラム一覧(短期研修・研究型)

▶ 【短期研修・研究型】(派遣)

プログラム名	派遣地域・大学	派遣時期	派遣期間	単位認定	協定の種類	参加資格	定員	派遣実績					担当教員(学部)
								H23	H24	H25	H26	H27	
国際冬期・夏期学校(韓国語研修)	[韓国] 全南大学校	2月・8月	3週間	なし	大学間	全学	2	3	0	0	0	0	山本清龍(農学)
明知大サマーキャンプ(韓国語研修)	[韓国] 明知大学校	8月上旬	3週間	あり	大学間	全学	4	4	4	5	2	0	家井美千子・梁仁實(人社)
中国語短期語学研修(文化コース・環境コース)	[中国] 大連理工大学	7月中旬	3週間	なし	大学間	全学	数名		0	0	0	0	G教育センター・国際課
春期海外英語研修	[フィリピン] デラ・サール大学	3月	3週間	あり	研修覚書	全学	10			(H26新規)	4	10	尾中夏美(G教育センター) CIEE(国際教育交換協議会)
海外研修基礎コース (鹿児島大学主催)	[アメリカ] カリフォルニア地域の大学・企業 [東南アジア] シンガポールの大学・企業 など [ハワイ] ハワイ大学 など	9月、2月	9日～2週間	なし	なし	全学	数名			2	1	0	尾中夏美(G教育センター) (鹿児島大学北米センター)
国際プロフェッショナル養成プログラム (鹿児島大学主催)	[アメリカ] カリフォルニア地域の大学・企業	9月	4週間	なし	なし	全学	数名			1	0	0	尾中夏美(G教育センター) (鹿児島大学北米センター)
寧波大学サマーフェスティバル	[中国] 寧波大学	7月上旬	7日	なし	大学間	全学	5	震災影響 で実施不可	4	0	0	0	藪 敏裕(教育)
グローバル基礎コース (US-JAPAN FORUM)	[アメリカ] カリフォルニア地域の大学・企業	2月	1週間	なし	なし	全学	数名			1	1	0	尾中夏美(G教育センター) (US-JAPAN FORUM)
グローバル養成プログラム (US-JAPAN FORUM)	[アメリカ] カリフォルニア地域の大学・企業	9月	4週間	なし	なし	全学	数名			(H26新規)	1	5	尾中夏美(G教育センター) (US-JAPAN FORUM)
カリフォルニア・イノベーション研修 (US-JAPAN FORUM)	[アメリカ] カリフォルニア地域の大学・企業	9月	9日～2週間	あり	なし	全学	数名			(H26新規)	1	2	尾中夏美(G教育センター) (US-JAPAN FORUM)
シリコンバレー・アントレプレナー研修 (US-JAPAN FORUM)	[アメリカ] カリフォルニア・シリコンバレー	毎月	1ヶ月・3ヶ月・ 6ヶ月	なし	なし	全学	数名			(H26新規)	0	0	尾中夏美(G教育センター) (US-JAPAN FORUM)
国際研修－エネルギーと持続可能な社会	[アイスランド] アイスランド大学 ほか [スウェーデン] リンネ大学 ほか	9月	9日 (+事前・事後 研修複数回)	あり	研修覚書	全学	12	震災影響 で実施不可	8	12	8	7	アンデス カルキスト、尾中夏美(G 教育センター)
国際研修－貧困と持続可能な社会	[フィリピン] サンカルロス大学・NGO	2～3月	3週間 (+事前・事後 研修複数回)	あり	研修覚書	全学	10				(H27新規)	4	平井華代、尾中夏美(G教育セ ンター)
異文化理解研修	[タイ] サイアム大学	2月	2週間	なし		全学	2			(H26新規)	2	1	ジェームズ ホール(教育)
夏季韓国語研修	[韓国] 群山大学校	8月	4週間	あり	部局間	人社	8	0	0	0	0	0	家井美千子(人社)
日韓学生の協働研修Ⅰ・Ⅱ (国内研修・海外研修)	[韓国] 群山大学校・明知大学校	8月	9日 (+国内研修 9日)	あり	部局間	人社	15	14	15	4	10	9	家井美千子(人社)
ドイツ語課題解決短期研修	[ドイツ] ドレスデン工科大学	3月上旬	2週間	あり	部局間	人社	20			(H26新規)	17	15	川村和宏(人社)
UCLA短期留学プログラム	[アメリカ] カリフォルニア大学ロサンゼルス校	8～9月	6週間	あり	部局間	人社	20			(H26新規)		13	齋藤博次(人社) ※28年度実施予定なし
中国語課題解決短期研修	[中国] 曲阜師範大学	3月	2週間	あり	部局間	人社	20			(H26新規)	10	12	西田文信(人社)
英語課題解決短期研修(シンガポール)	[シンガポール] カーティン大学(豪)シンガポール校	9月	1週間(+国内 研修)	あり	部局間	人社	15						小林葉子(人社)

短期英語研修	[カナダ] オカナガン大学 ※2013/2014年度は実施せず	3月頃	3週間	あり	研修覚書	全学	20	16	18				未定	
アラム大学メイトムプログラム	[アメリカ] アラム大学	5月	31日	あり	大学間	人社	5			(H26新規)	5		人文社会科学部国際交流委員会	
西部カトリック大学語学センター フランス語研修	[フランス] 西部カトリック大学	2~3月 8~9月	3週 or 6週	あり	研修覚書	人社	数名			(H26新規)	8	1	グラ アレクサンドル(人社)	
短期中国語研修	[中国] 清華大学	8月頃	1ヶ月	なし	部局間	教育	2	1	0	0		0	藪敏裕(教育)	
日本語教育実習	[中国] 清華大学	3月頃	2週間	あり	部局間	教育	10	8	4	6	6	9	菊地悟(教育)	
漢文学実地研修	[中国] 国語の教科書に出てくる場所など(寧波大学)	9月頃	10日	あり	大学間	教育	5	8	10	2	0	0	藪敏裕(教育)	
プアン・プログラム	[タイ] タイ国内中学校等(サイアム大学の仲介)	1月	2週間	あり	大学間	教育	8	5	8	10	10	7	ジェームス・ホール(教育)	
国際研修(理系英語研修)	[カナダ] ブリティッシュ・コロンビア大学 English Language Institute	8月頃	4週間	あり	研修覚書	工学2年・3年 院生	10	6	12	13	21	10	工学部国際研修実施委員会	
ハンバット国立大学短期研修	[韓国] ハンバット大学校	11月頃	5日間	なし	部局間	工学院生	4			(H26新規)	11	10	伊藤歩(研究高度化・グローバル化特別対策室)	
将来の農学・獣医学を担うグローバルリーダー養成プログラム	[アメリカ] オーバン大学	9月	2週間	あり	大学間	農学	3	1	2	3	2	2	木崎景一郎(農学)	
将来の農学・獣医学を担うグローバルリーダー養成プログラム	[カナダ] サスカチュワン大学	9月	3週間	あり	大学間	農学	14			(H26新規)	7	14	松嶋卯月(農学) ラーマンアビドゥール(農学)	
海外の森林・林業とフォレスター研修プログラム	[ドイツ] ロッテンブルク大学	9月	10日	あり	部局間	農学	10			(H26新規)	5	12	澤口勇雄(農学)	
バドュー大学学生派遣プログラム	[アメリカ] バドュー大学 ※2013/2014年度は実施せず	8月頃	1ヶ月	あり	部局間	農学	3	3			0		橋爪力(農学)	
海外インターンシップ	[西アジアを除くアジア各地域] 日系現地法人	8月頃	2~4週間	あり	なし	工学2年・3年 院生	数名	0	1	0	0	2	工学部インターンシップ実施委員会	
工学研究科 研究インターンシップ	[カナダ] サスカチュワン大学 ほか	8月頃	2~4週間	あり	大学間	工学院生	数名				6	5	2	工学研究科教務委員会
日本語教育実習インターンシップ	[タイ] サイアム大学	2~3月	2週間	なし	研修覚書	全学	2			(H26新規)	2	2	ジェームス・ホール(教育)	
農学研究科 研究インターンシップ	[カナダ] サスカチュワン大学 ほか	8月頃	2~4週間	あり	大学間	農学院生	数名	3	1	1	2	0		
連合農学研究科 研究インターンシップ	[カナダ] サスカチュワン大学 ほか	8月頃	2~4週間	あり	大学間	農学院生 連大院生	数名	3	1	1	5	3	連合大学院グループ	
計							239	75	88	67	146	152		

▶ 【その他】

プログラム名	派遣地域・大学	派遣時期	派遣期間	単位認定	協定の種類	参加資格	定員	派遣実績					担当教員(学部)
								H23	H24	H25	H26	H27	
国際ボランティア各種プロジェクト(CIEE主催)	各自の計画による	主に夏季・春季	2週間～1ヶ月	なし	なし	全学	なし	5	12	9	8	10	G教育センター・国際課
大学院学生等の海外研究発表支援経費事業	各自の計画による	随時	1週間程度	なし	なし	全学	なし	12	10	17	15	27	研究推進課
トピタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム	各自の計画による	随時	28日～2年以内	なし	なし	全学	なし	0	0	0	2	2	G教育センター・国際課
ヤングリーダーズ国際研修	岩手県内	2月・8月	10日間	あり		全学	12名		20	31	25	27	G教育センター・国際課

## 岩手大学留学生数(平成27年5月1日現在)

《種別》

( )は女子で内数

### 【学部所属】

学 部	正規生			小計	非正規生						小計	合計
	学部生				研究生				特別聴講学生	科目等履修生		
	国費	政府	私費		国費	政府	県費	私費	私費	私費		
人文社会科学部		1 (1)	16 (4)	17 (5)				5 (5)	8 (4)		13 (9)	30 (14)
教育学部			1 (1)	1 (1)					12 (9)		12 (9)	13 (10)
工学部		1 (1)	26 (3)	27 (4)				1	3 (1)		4 (1)	31 (5)
農学部								4 (1)			4 (1)	4 (1)
合 計		2 (2)	43 (8)	45 (10)				10 (6)	23 (14)		33 (20)	78 (30)

### 【大学院所属】

大 学 院	正規生			小計	非正規生						小計	合計		
	学部生				研究生				教員研修留学生	特別聴講学生			特別研究学生	科目等履修生
	国費	政府	私費		国費	政府	私費	国費	私費	私費			私費	
人文社会科学研究科			4 (1)	4 (1)									4 (1)	
教育学研究科	1 (1)		13 (11)	14 (12)				3 (3)	4 (3)				7 (6)	21 (18)
工学研究科(M)	2		23 (7)	25 (7)					2				2	27 (7)
工学研究科(D)	2	1	17 (9)	20 (9)										20 (9)
農学研究科(M)			4 (4)	4 (4)	2				1 (1)				3 (1)	7 (5)
連合農学研究科	13 (5)		25 (10)	38 (15)										38 (15)
合 計	18 (6)	1	86 (42)	105 (48)	2			3 (3)	7 (4)				12 (7)	117 (55)

### 【グローバル教育センター所属】

グローバル教育センター	国 費		私 費		合 計
	日本語研修留学生	日本語・日本文化研修留学生	特別聴講学生		
合 計		2 (1)	2 (1)		4 (2)

### ◆◆留学生総数◆◆

	国 費	政 府	県 費	私 費	合 計			
正 規 生	18	(6)	3	(2)	129	(50)	150	(58)
非 正 規 生	7	(4)			42	(25)	49	(29)
合 計	25	(10)	3	(2)	171	(75)	199	(87)

### 〔連合農学研究科配属別内訳〕

〈岩手大学12名、他大学配属26名〉

	国 費	政 府	私 費	合 計
岩手大学	5 (1)		7 (3)	12 (4)
帯広畜産大学	3 (2)		12 (6)	15 (8)
弘前大学			3 (1)	3 (1)
山形大学	4 (1)		4 (1)	8 (2)
合 計	12 (4)		26 (11)	38 (15)

### 〔岐阜連合獣医学研究科〕

	国 費	政 府	私 費	合 計
岐 阜 連 獣	2	1	1	4

(国籍別:アフガニスタン1、エジプト1、  
バングラデシュ1、韓国1)

〔連大他大学配属分除いた留学生数〕

173 (76)

21ヶ国 1地域 199 人

### 《国籍別》

アジア 14カ国1地域 183(76)人				アフリカ 1カ国 1(1)人		欧州 3カ国 9(7)人			
インドネシア	5 (2)	バングラデシュ	9 (2)	パキスタン	1	ウガンダ	1 (1)	アイスランド	2 (1)
韓国	15 (3)	ベトナム	9 (3)	フィリピン	2 (1)			フランス	4 (3)
インド	1	マレーシア	3 (3)	ラオス	1 (1)	北米 2カ国	5(2)人	ロシア	3 (3)
タイ	7	モンゴル	4 (3)			アメリカ	4 (1)		
台湾	4 (2)	ミャンマー	2 (1)			カナダ	1 (1)	中南米 1カ国	1(1)人
中国	119 (55)	ネパール	1					エルサルバドル	1 (1)

## 岩手大学留学生数(平成27年11月1日現在)

《種別》

( )は女子で内数

### 【学部所属】

学 部	正規生			小計	非正規生						小計	合計
	学部生				研究生				特別聴講学生	科目等履修生		
	国費	政府	私費		国費	政府	県費	私費	私費	私費		
人文社会科学部		1 (1)	16 (4)	17 (5)				4 (4)	9 (5)		13 (9)	30 (14)
教育学部			1 (1)	1 (1)				3 (2)	16 (13)		19 (15)	20 (16)
工学部		1 (1)	26 (3)	27 (4)				7	5 (1)		12 (1)	39 (5)
農学部								2 (1)			2 (1)	2 (1)
合 計		2 (2)	43 (8)	45 (10)				16 (7)	30 (19)		46 (26)	91 (36)

### 【大学院所属】

大 学 院	正規生			小計	非正規生						小計	合計		
	学部生				研究生				教員研修留学生	特別聴講学生			特別研究学生	科目等履修生
	国費	政府	私費		国費	政府	私費	国費	私費	私費			私費	
人文社会科学研究科			6 (3)	6 (3)								6 (3)		
教育学研究科	1 (1)		11 (9)	12 (10)				4 (2)	4 (3)			8 (5)	20 (15)	
工学研究科(M)	2		24 (9)	26 (9)	1							1	27 (9)	
工学研究科(D)	2	1	16 (7)	19 (7)									19 (7)	
農学研究科(M)			7 (6)	7 (6)	1				3 (3)			4 (3)	11 (9)	
連合農学研究科	14 (5)		26 (11)	40 (16)									40 (16)	
合 計	19 (6)	1	90 (45)	110 (51)	2		1	4 (2)	7 (6)			13 (8)	123 (59)	

### 【グローバル教育センター所属】

グローバル教育センター	国 費		私 費		合 計
	日本語研修留学生	日本語・日本文化研修留学生	特別聴講学生		
合 計		3 (2)	2 (1)		5 (3)

### ◆◆留学生総数◆◆

	国 費	政 府	県 費	私 費	合 計
正 規 生	19	(6)	3	(2)	133 (53)
非 正 規 生	9	(4)			55 (33)
合 計	28	(10)	3	(2)	188 (86)

#### 〔連合農学研究科配属別内訳〕

〈岩手大学9名、他大学配属31名〉

	国 費	政 府	私 費	合 計
岩手大学	5 (1)		4 (2)	9 (3)
帯広畜産大学	4 (3)		12 (6)	16 (9)
弘前大学			7 (2)	7 (2)
山形大学	5 (1)		3 (1)	8 (2)
合 計	14 (5)		26 (11)	40 (16)

#### 〔岐阜連合獣医学研究科〕

	国 費	政 府	私 費	合 計
岐 阜 連 獣	1	1	2	4

(国籍別: バングラデシュ1、エジプト1、韓国1、タイ1)

#### 〔連大他大学配属分除いた留学生数〕

188 (85)

22ヶ国 1地域 219 人

### 《国籍別》

アジア 13カ国1地域 196(80)人				アフリカ 1カ国 1(1)人		欧州 4カ国16(10)人			
インドネシア	6 (2)	中国	129 (55)	ミャンマー	2 (1)	ウガンダ	1 (1)		
韓国	15 (3)	ネパール	1	モンゴル	4 (3)	北米 2カ国 4(2)人	アイスランド	4 (2)	
シンガポール	1 (1)	バングラデシュ	10 (2)			アメリカ	3 (1)	イタリア	2 (2)
スリランカ	1 (1)	フィリピン	2 (1)			カナダ	1 (1)	キルギス	2 (1)
タイ	7 (1)	ベトナム	10 (3)			中南米 1カ国 2(1)人		フランス	4 (3)
台湾	5 (4)	マレーシア	3 (3)			エルサルバドル	2 (1)	ロシア	4 (3)

岩手大学外国人留学生地域派遣実績一覧

2015年度

	派遣先	派遣日程	交流者数	派遣留学生数	出身地別人数	交流の内容
1	岩手県空港利用促進協議会(花巻空港)	4月14日～6月26日(月7回程度)	多数	4	中国(4)	出入国審査補助、通訳
2	ライオンズクラブ国際協会332-B地区(盛岡市)	4月6日	26	1	タイ(1)	
3	テレビユー福島(紫波山、八幡平、小岩井農場)	4月22日、29日		1	台湾(2)	取材
4	(株)テレビ岩手(盛岡市)	5月23日～24日		3	韓国(1)、ロシア(1)、アイスランド(1)	取材
5	(有)千葉昭一商店(盛岡市)	5月29日	20	1	韓国(1)	
6	こずかた保育園(矢巾町)	5月7日～8月(月1回)	15	1	カナダ(1)、アメリカ(1)	
7	滝沢市教育委員会生涯学習文化課(滝沢市)	6月4日、11日、18日、25日、7月2日	20	2	韓国(2)	
8	フレンズ国際愛児園(盛岡市)	5月25日	約30	2	フランス(2)	
9	盛岡市環境部資源循環推進課(盛岡市)	6月5日		2	韓国(1)、アメリカ(1)	行政との意見交換
10	フレンズ国際愛児園(盛岡市)	7月3日	約30	1	マレーシア(1)	
11	盛岡青年会議所(盛岡市)	6月16日	約80	10	中国、(5)、韓国(3)、ベトナム(1)、インド(1)	
12	(公財)科学技術国際交流センター(陸前高田市)	8月3日	約40	2	韓国(2)	JENESYS2.0事業による招へい韓国高校生との交流プログラム参加
13	ばるんキッズサマースクール(盛岡市)	8月11日	約25	3	中国(2)、韓国(1)	
14	盛岡市立北松園老人福祉センター(盛岡市)	9月13日	約30	1	インドネシア(1)	
15	岩手日報(盛岡市)	8月6日		1	台湾(1)	取材
16	滝沢市教育委員会生涯学習文化課(ふうりん保育園)(滝沢市)	9月16日	50	3	韓国(2)、中国(1)	
17	新渡戸国際塾(盛岡市)	9月11日～13日	40	2	中国(2)	
18	NHK(盛岡市)	9月8日		5	中国(2)、台湾(3)	取材
19	盛岡市危機管理防災課(盛岡市)	10月4日		24	中国(19)、ロシア(1)、台湾(1)、韓国(1)、フランス(2)	防砂訓練への参加
20	フレンズ国際愛児園(盛岡市)	9月29日	約34	1	エルサルバドル(1)	
22	雫石町国際交流協会(雫石町)	10月17～18日	10	2	中国(2)	
23	一般社団法人しずくしい観光協会(雫石町)	10月19～21日	15	3	タイ(3)	
24	NPO 善隣館(盛岡市)	10月～	4	2	フランス(2)	
26	滝沢市教育委員会生涯学習文化課(滝沢市)	10月29日	42	4	中国(3)、バングラデシュ(1)	
27	盛岡市立東松園小学校(盛岡市)	11月13日、17日	245	10	アメリカ(2)、アイスランド(3)、カナダ(1)、韓国(2)、中国(1)、インドネシア(1)	
28	フレンズ国際愛児園(盛岡市)	11月17日	約34	1	シンガポール(1)	
29	岩手県立北上翔南高等学校(北上市)	11月11日	241	5	中国(3)、韓国(2)	
30	岩手県国際交流協会(盛岡市)	12月5日～6日			中国、韓国、モンゴル、タイ、ベトナム	ワン・ワールドフェスタ
31	フレンズ国際愛児園(盛岡市)	12月12日	約39	1	ロシア(1)	
32	盛岡誠桜高等学校(盛岡市)	11月18日	214	6	韓国(1)、台湾(1)、バングラデシュ(2)、ロシア(1)、エルサルバドル(1)	
33	(株)テレビ岩手(盛岡市)	12月19日～20日		3	韓国(1)、ロシア(1)、フランス(1)	取材
34	滝沢市教育委員会生涯学習文化課(りんごの森保育園)(滝沢市)	12月2日	25	2	カナダ(1)、アイスランド(1)	
35	ライオンズクラブ国際協会332-B地区(盛岡市)	12月15日	15	1	インドネシア(1)	通訳
36	滝沢市教育委員会生涯学習文化課(なでしこ保育園)(滝沢市)	12月18日	114	3	イタリア(2)、アイスランド(1)	
37	NPO 善隣館(盛岡市)	1月～	6	1	エルサルバドル(1)	
38	久昌寺保育園(盛岡市)	1月14日	45	6	中国(2)、韓国(1)、イタリア(2)、バングラデシュ(1)	
39	滝沢市教育委員会生涯学習文化課(牧の林すずの音保育園)(滝沢市)	1月27日	65	3	中国(1)、バングラデシュ(1)、アメリカ(1)	
40	フレンズ国際愛児園(盛岡市)	2月12日	約39	1	キルギス(1)	
41	岩手県国際交流協会(盛岡市)	2月27日	約20	2	インドネシア(2)	世界とのかけはしクラブ ワークショップin一関
42	雫石町国際交流協会(雫石町)	2月6日	約30	22	中国(20)、タイ(2)	スノーフェスティバルイン雫石
43	河北児童センター(盛岡市)	2月20日	約35	2	フランス(1)、アイスランド(1)	
44	盛岡市環境部資源循環推進課(盛岡市)	3月10日		2	中国(1)、韓国(1)	校閲
45						
			計	152		